

**平成28年度（2016年度）
男女共同参画に関するアンケート調査**

報告書

平成29年（2017年）3月

四條畷市

平成 28 年度（2016 年度）
男女共同参画に関するアンケート調査 報告書

I 調査の概要

1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 調査内容	1
4. 報告書の表示	2

II 調査結果の概要 3

III 調査結果の分析

1. 回答者の属性	8
2. 男女平等に関する意識について	12
3. 家庭生活について	27
4. 就労について	41
5. 仕事と生活の調和について	49
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）について	52
7. 男女共同参画社会の実現について	70
8. 自由意見	82

IV 参考資料

男女共同参画に関するアンケート調査票	86
--------------------	----

I 調査の概要

1. 調査目的

四條畷市では、平成18年7月に「四條畷市男女共同参画推進条例」を制定、平成21年12月には「四條畷市男女共同参画推進計画（なわてあじさいプラン）」を策定し、これらに基づく事業を実施してきました。

この調査は、男女共同参画に関する市民の意識をふまえ、なわてあじさいプランの改定及び今後の男女共同参画施策推進に際し、基礎資料とします。

2. 調査方法

調査対象	4月1日時点で18～75歳の市民から1,000人(女性500人、男性500人)を無作為に抽出
実施方法	郵送による調査票の配布・回収
有効回答数	316人(女性176人、男性126人、不明15人) (有効回答率31.6%)
調査期間	平成28年5月25日～6月15日

3. 調査内容

		調査項目			
回答者の属性	A.性別	B.年齢	C.結婚しているか	D.職業	
	E.同居する子の有無	F.子の年齢	G.世帯構成	H.世帯収入	
男女平等に関する意識について	問1	男女平等の現状認識			
	問2	固定的な性別役割分担意識			
	問2-1	「男は仕事、女は家庭」と思う理由			
	問2-2	「男は仕事、女は家庭」と思わない理由			
家庭生活について	問3	家庭の各分野における性別役割分担の意識			
	問4	仕事、家事、子育ての所要時間			
就労について	問5	女性が仕事に就くことへの意識			
	問6	職場における男女平等の認識			

	問 7	女性の今後の就業意向
	問 7-1	働きたい女性が働けない理由
	問 8	女性が働き続けるために必要なこと
	問 9	女性が再就職しやすくなるために必要なこと
仕事と生活の 調和について	問 10(1),(2)	生活の中で優先すること
	問 11	男性の家事、子育て等への参加に必要なこと
ドメスティック・バイオレンス(DV)について	問 12	DVの判断基準
	問 13(1),(2)	DV相談窓口の認知度、認知方法
	問 14	メディアに対する性・暴力表現に関する意識
男女共同参画 社会の実現について	問 15	男女共同参画に関する用語の認知度
	問 16	男女共同参画の推進に重要なこと
自由意見	—	自由意見欄

4. 報告書の表示

- グラフ内の数字は、特記のない場合は百分率(%)であり、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100.0にならない場合があります。
- グラフ内の「n」はその集計の有効回答数を意味します。
- 図及びグラフ内ではスペースの都合上、選択肢の文言を省略して表示している場合があります。
- 複数回答(マルチアンサー)の設問の場合、集計結果の合計が100%を超えます。

Ⅱ 調査結果の概要

1 男女平等に関する意識について

○男女平等の現状認識【問1】

男女平等の現状認識についてみると、男女とも「政治の場」「社会通念・慣習など」で『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合）が特に高く、女性で約75%、男性で約55%以上となっています。「社会全体として」は、女性の80.0%、男性の56.3%が『男性優遇』と感じています。「平等である」と感じている割合が高かったのは、「学校教育の場」で、女性49.1%、男性61.1%となっています。

○固定的な性別役割分担意識【問2】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』（「その通りだと思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は38.3%、『同感しない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合）は60.8%となっており、『同感しない』人が6割を超えています。性別にみると、『同感する』は女性36.5%、男性40.4%。『同感しない』は女性62.9%、男性57.9%で男性の方が5ポイント低くなっています。

○「男は仕事、女は家庭」と思う理由【問2-1】

「男は仕事、女は家庭」と思う理由は「子どもの成長にとって良いと思うから」が59.5%で最も高く、次いで「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が34.7%、「個人的にそうありたいと思うから」が23.1%となっています。性別でみると、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」は男性の方が6.4%高くなっています。

○「男は仕事、女は家庭」と思わない理由【問2-2】

「男は仕事、女は家庭」と思わない理由は、「男女ともに家庭、社会で活躍するのが望ましいと思うから」が62.5%で最も高くなっています。次いで、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が54.7%、「一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから」が41.1%となっています。

2 家庭生活について

○家庭の各分野における性別役割分担の意識【問3】

家庭の仕事の役割分担をみると、「仕事（収入の確保）」は『男性の役割』（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた割合）と考えている人が64.3%で最も高くなっています。一方、「日々の家計の管理」「日常の家事（食事・洗濯・掃除など）」「乳幼児の世話」は、『女性の役割』（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた割合）と考えている人がいずれも概ね50%を超えています。

○仕事、家事、子育ての所要時間（平日）【問4】

平日に仕事に要する時間について、8時間以上である女性は28.0%、男性で52.4%となっています。また、家事に要する時間について、3時間以上である女性は37.1%となっています。一方、男性では30分未満が57.9%となっています。

○仕事、家事、子育ての所要時間（休日）【問4】

休日に仕事に要する時間について、男女とも「なし」が最も高く47.8%（女性50.3%、男性45.2%）、次に「4時間未満」が23.1%（女性19.4%、男性28.6%）となっています。また、家事に要する時間は、「4時間以上」である女性は32.0%で最も高く、男性は「ほとんどない」が36.5%で最も高くなっていますが、平日に比べて8.7%減少しています。

3 就労について

○女性が仕事に就くことへの意識【問5】

女性が仕事につく事への考えは、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が28.8%で最も高くなっていますが、性別で見ると、女性の方が男性より10%近く高くなっています（女性33.1%、男性22.2%）。次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が28.2%（女性29.1%、男性26.2%）となっています。

○職場における男女平等の認識【問6】

「男性の方が優遇されている」では「昇進・昇格、管理職への登用」（女性43.8%、男性34.8%）が最も高く、次いで、「賃金」（女性37.1%、男性32.6%）となっています。

「女性の方が優遇されている」では「育児・介護休暇など休暇の取得のしやす

さ」(女性 34.6%、男性 34.4%)が高くなっています。また、「平等である」は、「研修の機会や内容」、「働きやすい雰囲気」、「募集・採用」が男女とも50%を越えています。

○女性の今後の就労意向【問7】

64歳以下で現在、家事専業または、無職(学生を除く)の女性のみを対象に、今後働きたいかどうかについては、「はい」が最も高く52.8%、「いいえ」が25.0%、「どちらとも言えない」が22.2%となっています。

○働きたい女性が働けない理由【問7-1】

64歳以下で現在、家事専業または、無職(学生を除く)の女性のみを対象に、現在働けない理由をみると、「仕事と家庭を両立できる自信がなく、家族に迷惑がかかると思うため」が最も多くなっています。次いで、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等の条件に合う働き口が見つからないため」、「仕事に必要な知識・能力や、職場での人間関係に不安を感じるため」となっています。

○女性が働き続けるために必要なこと【問8】

女性が働き続けるために必要なことは、「企業経営者や職場の理解」が42.7%、次いで「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」が37.3%となっています。

性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」については、女性43.4%、男性31.0%となっており、12.4%の差があります。

○女性が再就職しやすくなるために必要なこと【問9】

女性が再就職しやすくなるために必要なことは、「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実」(47.5%)、「企業経営者や職場の理解」(42.7%)、「育児や介護のための施設やサービスの充実」(41.1%)、「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」(39.9%)が高くなっています。

性別でみると、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」については、女性48.6%、男性25.4%となっており、23.2%の差があります。

4 仕事と生活の調和について

○生活の中で優先すること（希望と現実）【問10】

生活の中で優先したいことは、《「仕事」「家庭」「個人の生活」の3つとも大切にしたい》が29.5%で最も高くなっています。次いで、《「家庭」を優先したい》と《「仕事」と「家庭」をともに優先したい》が17.1%となっています。性別で見ると、《「仕事」を優先したい》は男性の方が女性より6.1%高いですが、《「仕事」「家庭」「個人の生活」の3つとも大切にしたい》は、女性の方が男性より10.6%高くなっています。

一方、現実生活中で優先していることについては、《「仕事」を優先している》が男女とも高く36.8%（女性28.6%、男性46.8%）となっています。次いで《「仕事」と「家庭」をともに優先している》が23.8%となっている。

○男性の家事、子育て等への参加に必要なこと【問11】

男性が家事、育児、介護、地域活動などに参加するために必要だと思うことは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改めること」が43.0%で最も高くなっています。次いで、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が39.9%、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が37.0%となっています。

5 ドメスティック・バイオレンス（DV）について

○DVの判断基準【問12】

暴力だと思う事柄について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「なぐる、ける」は男女とも9割を超えており、次いで「本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する」が男女とも8割を超えています。

性別で見ると、概ね女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は高くなっており、特に「なぐるふりをして、おどす」「自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない」「友達や身内とのメールや電話をチェックする」「人とのつきあいを制限する」は男性と比べて10%以上高くなっています。

○DV相談窓口の認知度【問13】

配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口では、「警察」が76.3%で最もよく認知されています。次いで、「市役所の相談窓口」が40.2%、「民間の専門家や専門機関」が39.9%となっています。

○ODV相談窓口の認知方法【問13】

相談窓口の認知方法は、「テレビ(ニュース、テレビ番組等)、ラジオ」が49.7%で最も高くなっています。次いで、「市広報誌」が22.9%、「インターネット(ホームページなど)」が12.8%となっています。

○メディアに対する性・暴力表現に関する意識【問14】

メディアにおける性・暴力表現について、『「そう思う」(「その通りだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)が最も高いのは「(4)性・暴力表現を望まない人や子どもへの影響についての配慮が不十分」で、女性61.1%、男性53.2%となっています。

6 男女共同参画社会の実現について

○男女共同参画に関する用語の認知度【問15】

男女共同参画に関する言葉で見聞きしたことがあるものを『聞いたことがある』(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合)で見ると、「男女雇用機会均等法」が最も高く、女性83.4%、男性86.5%となっており、そのうち「内容を知っている」は6割近くとなっています。次いで『聞いたことがある』が高いのは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV法)」で女性78.3%、男性73.0%となっています。

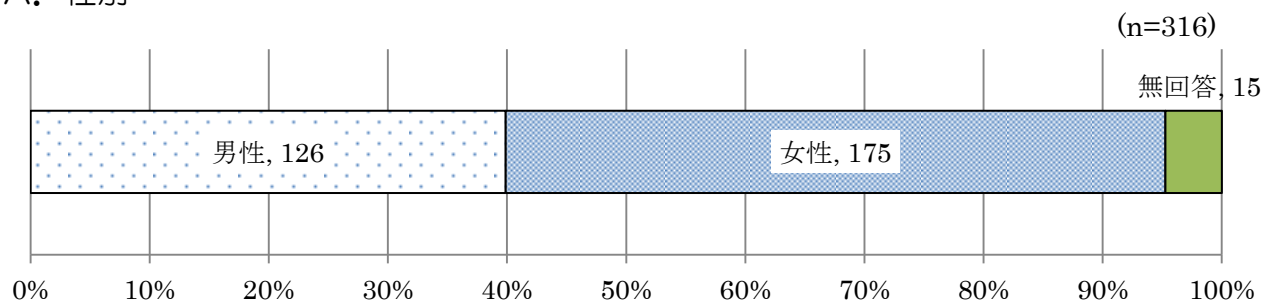
○男女共同参画の推進に重要なこと【問16】

男女平等の実現にとって最も重要なことは「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改めること」が37.3%(女性41.1%、男性31.0%)で最も高くなっています。次に、「男性の意識改革」が32.0%で、女性と比べて男性の方が男性の意識改革が重要と思っている割合が高くなっています(女性28.0%、男性37.3%)。また、「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること」は女性27.4%、男性18.3%で、女性の方が9.1%高くなっています。

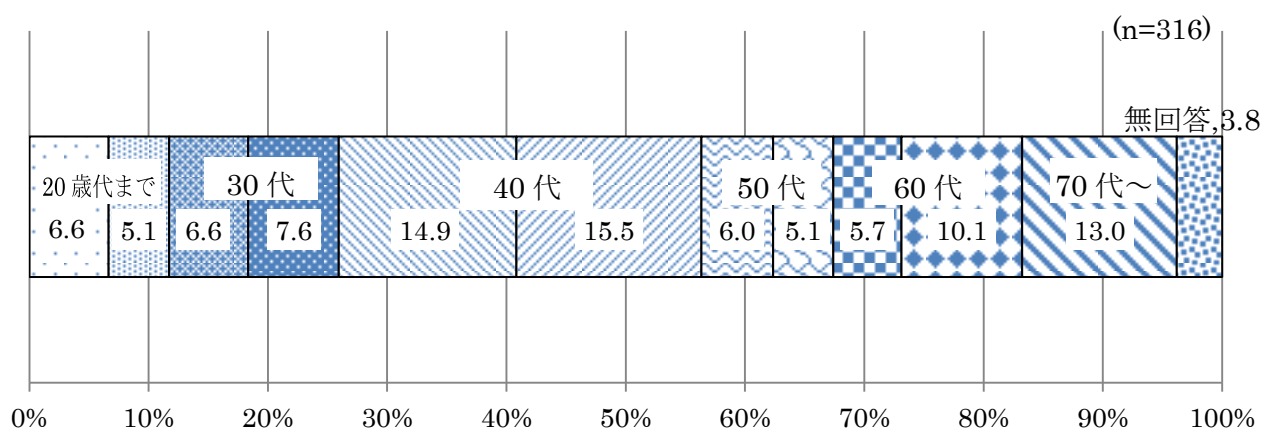
Ⅲ 調査結果の分析

1 回答者の属性

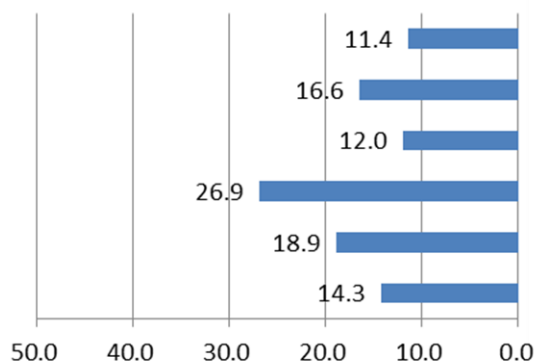
A. 性別



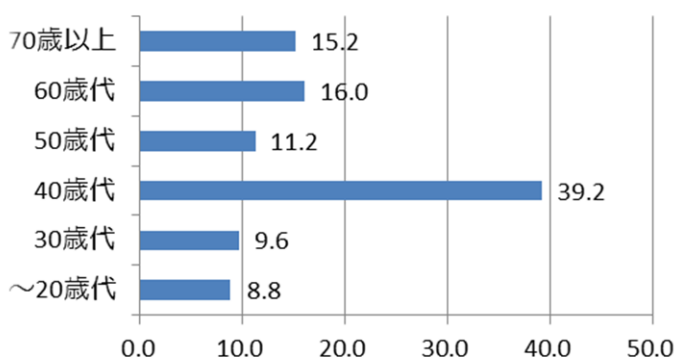
B. 年齢（記入日時点）



女性(n=175)

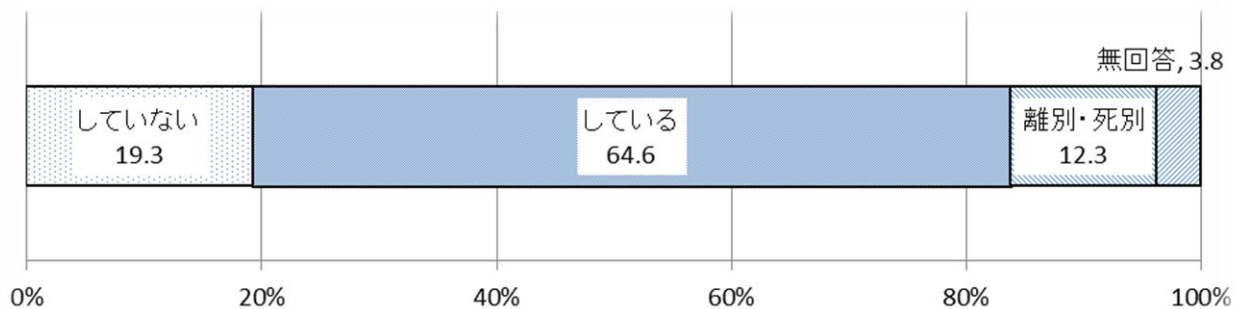


男性(n=125)



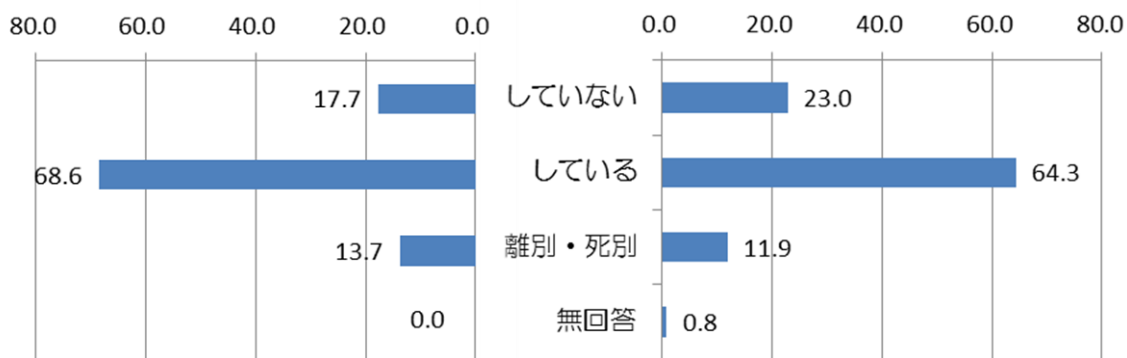
C. 結婚（事実婚を含む）をしているか

(n=316)



女性(n=175)

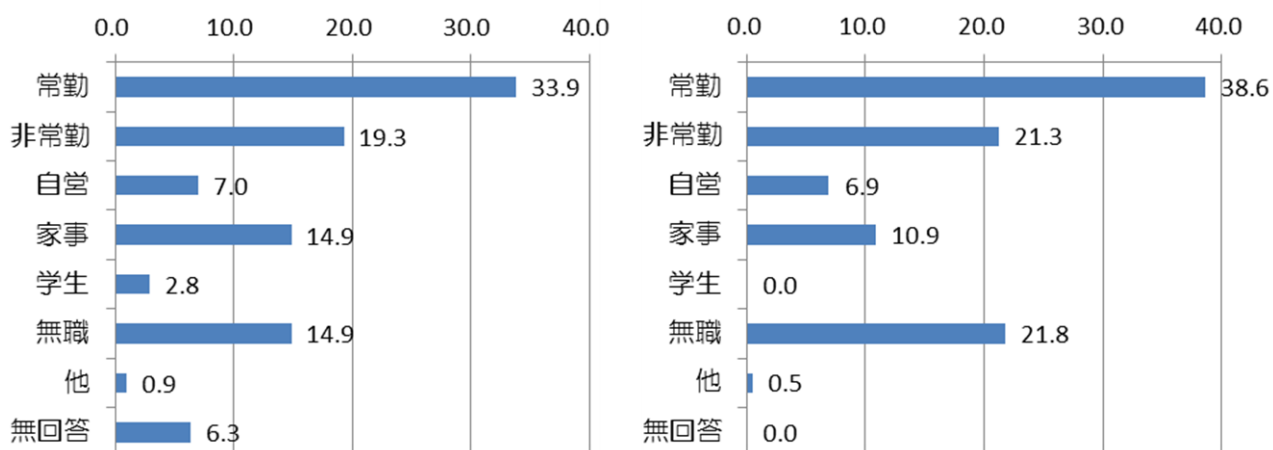
男性(n=126)



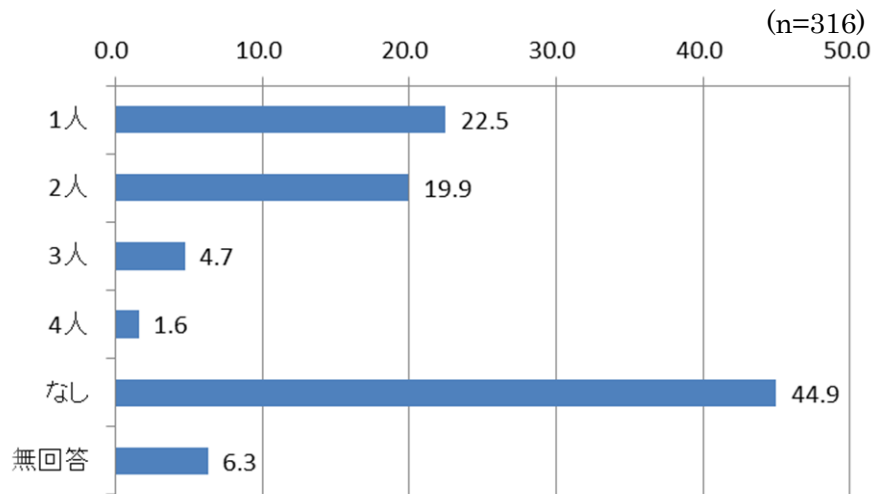
D. 本人と配偶者（パートナー）の職業

本人(n=316)

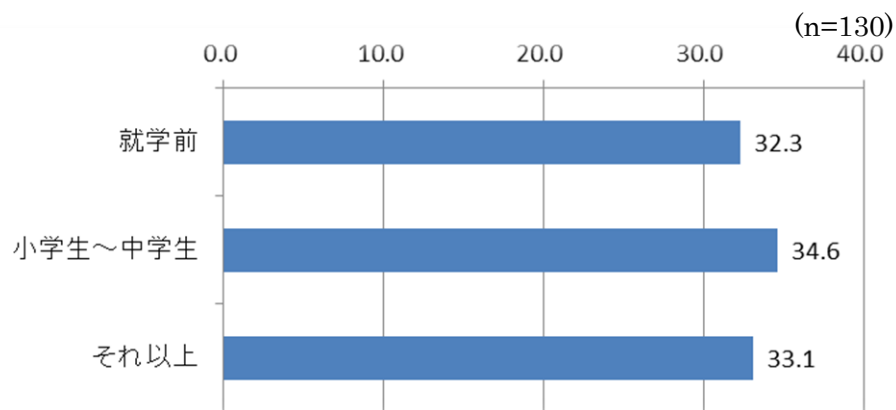
配偶者(n=202)



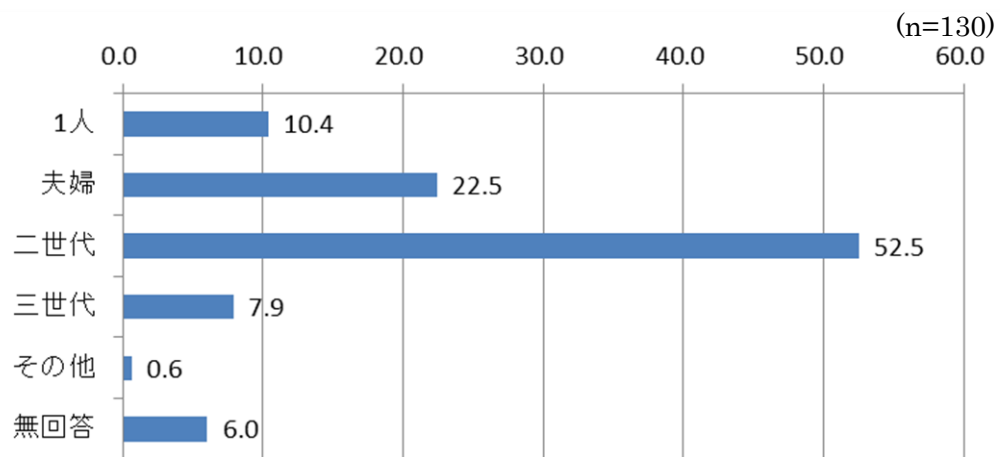
E. 同居する子の有無



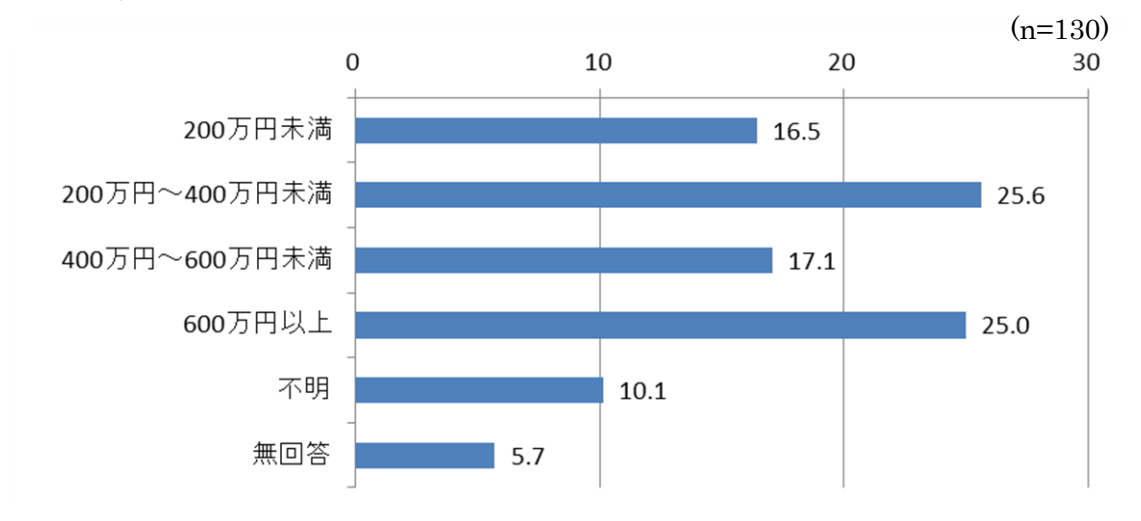
F. 一番下の子の年齢



G. 世帯構成



H. 世帯収入



2 男女の平等に関する意識について

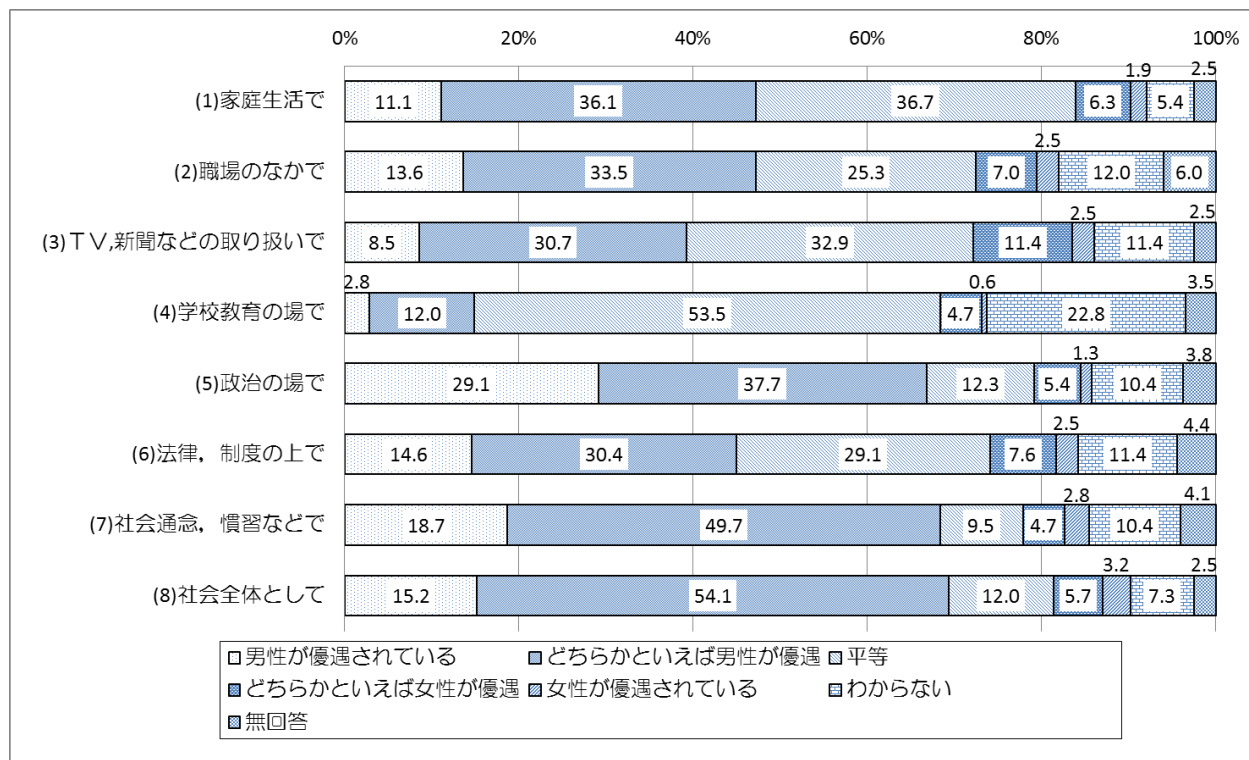
問1. 次にあげる分野で、男女間でどの程度平等になっていると思いますか。
あなたのお考えに近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

『男性優遇』（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた割合）は、《(8)社会全体として》が69.3%と最も高く、次いで《(7)社会通念、慣習などで》が68.4%となっています。

すべての場面において、男女ともに『男性優遇』が『女性優遇』（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた割合）より高くなっています。

また、「平等である」は、《(4)学校教育の場で》が53.5%と最も高く、次いで《(1)家庭生活で》が36.7%、《(3)TV、新聞などの取り扱いで》が32.9%となっています。

<全体>



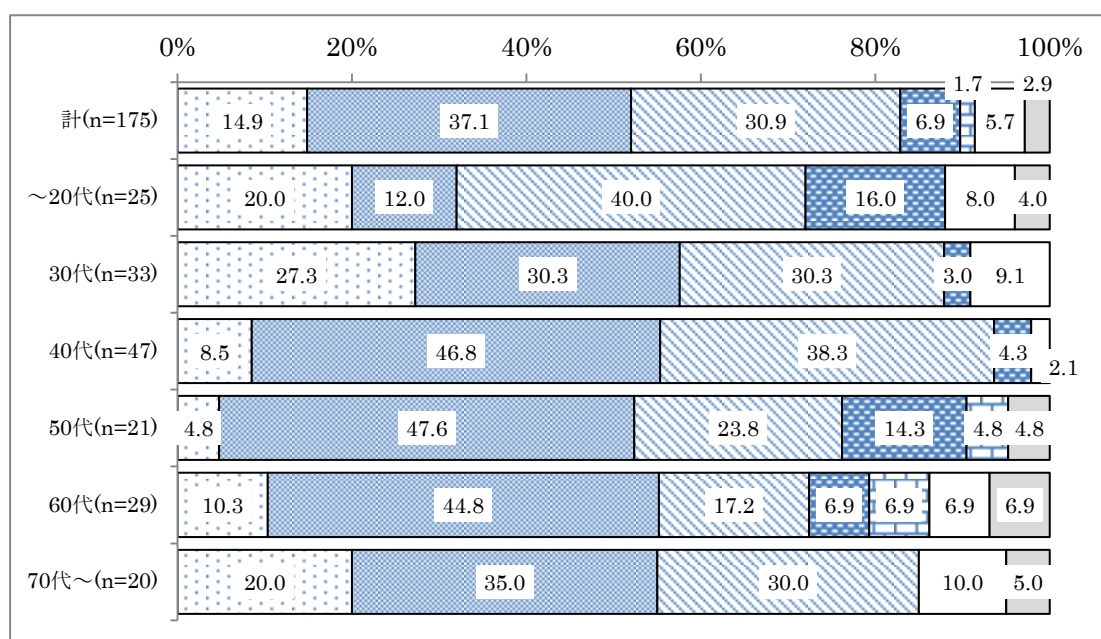
(1)家庭生活で

『男性優遇』は、女性が52.0%に対し、男性は40.8%と女性が男性を上回っています。

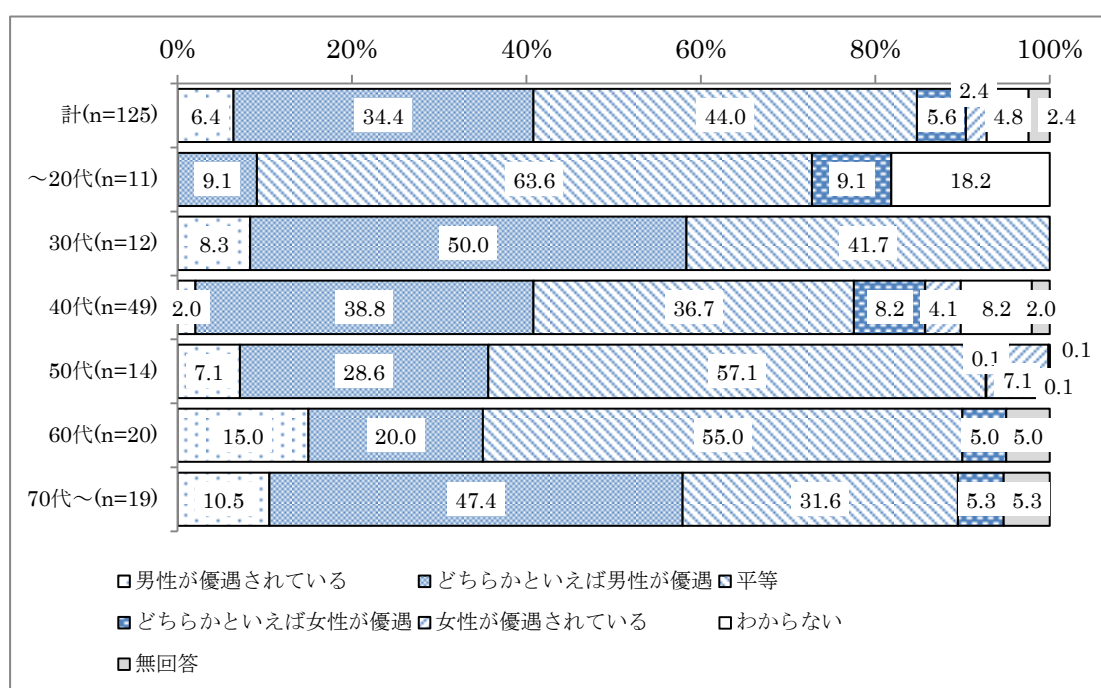
性別・年代別で見ると、『男性優遇』は、女性では「30代」が57.6%、男性では「70代～」が57.9%とそれぞれが高くなっています。また、男性は女性に比べて「30代」と「70代～」を除く他の年代では、『男性優遇』と答えた割合が低くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



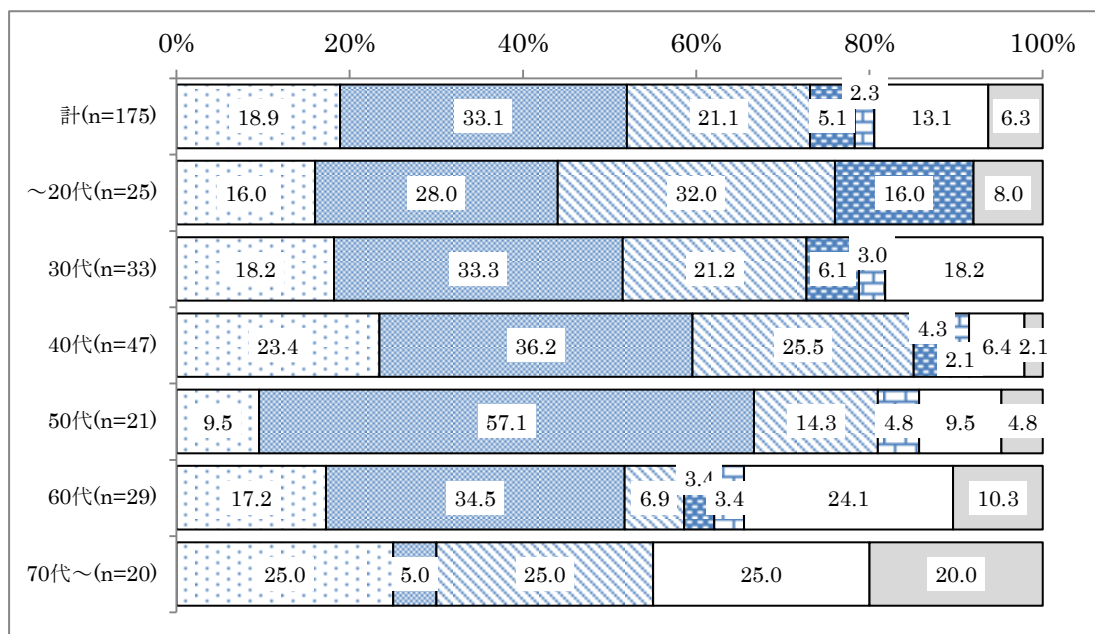
(2) 職場の中で

『男性優遇』は、女性が52.0%に対し、男性は39.2%と女性が男性を上回っています。

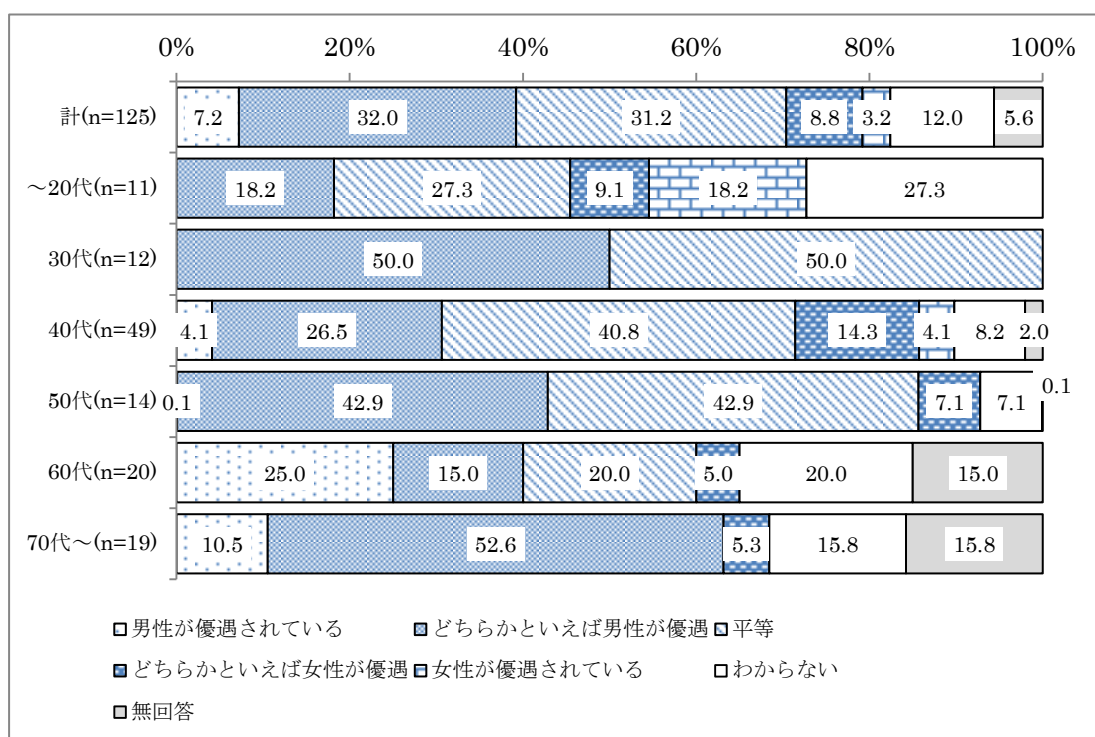
性別・年代別でみると、『男性優遇』は、女性では「50代」が66.6%、男性では「70代～」が63.1%とそれぞれが高くなっています。また、男性は女性に比べて「70代～」を除く他の年代では、『男性優遇』と答えた割合が低くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



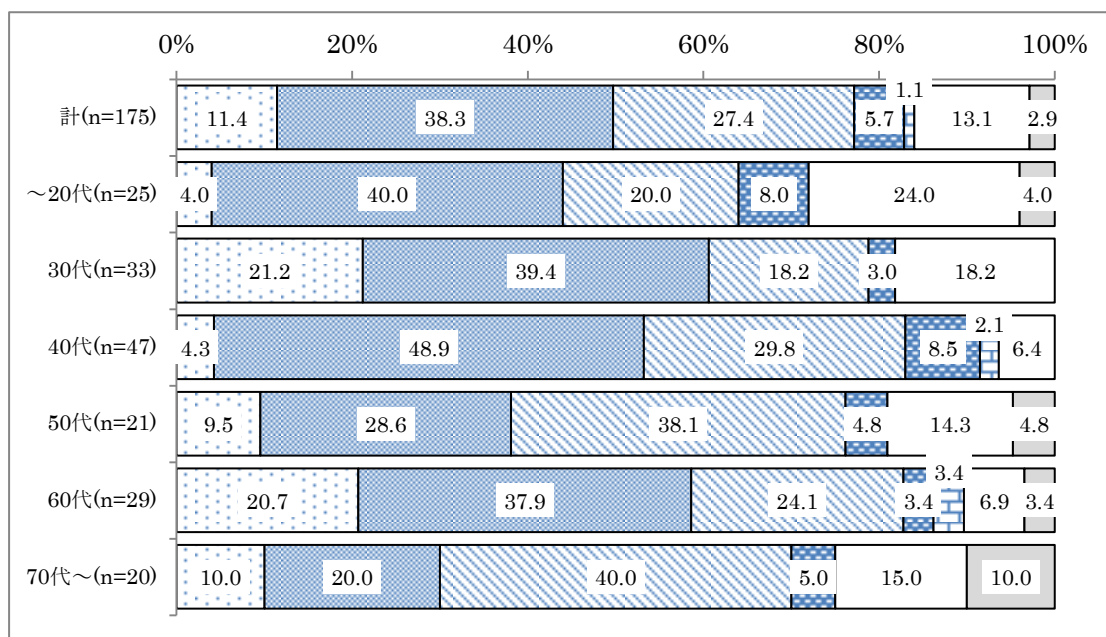
(3) テレビ・新聞などの取り扱いで

『男性優遇』は、女性が49.7%に対し、男性は23.2%と女性が男性を上回っています。

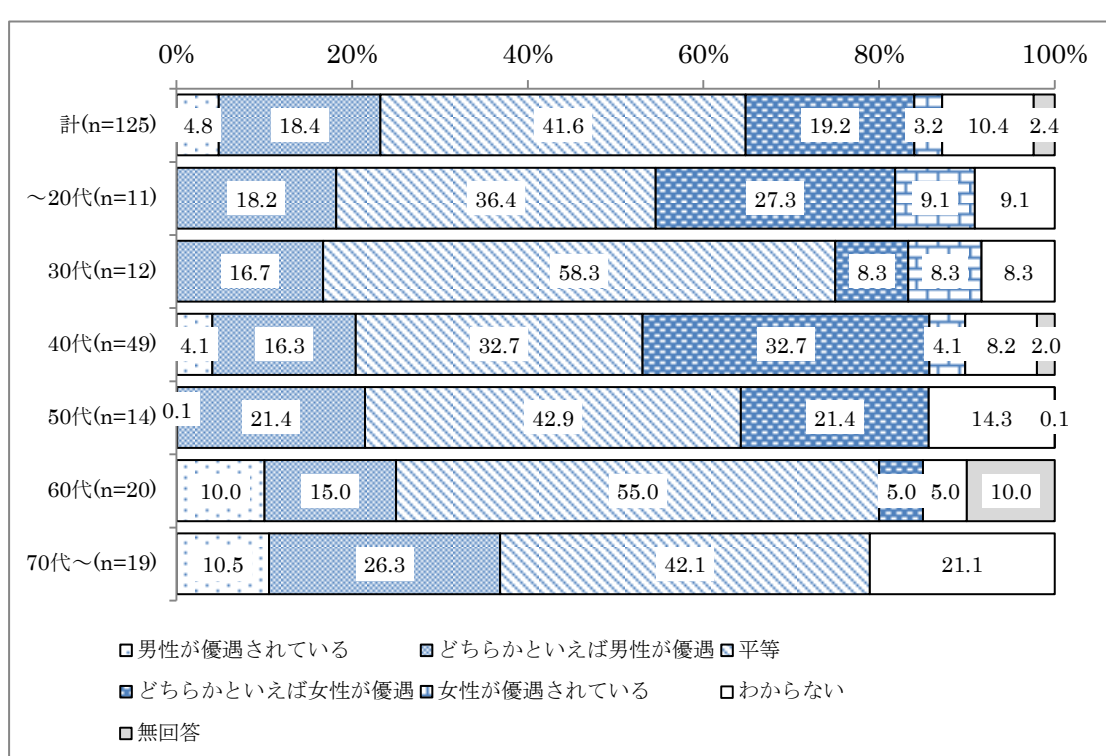
性別・年代別で見ると、『男性優遇』は、女性では「30代」が60.6%、男性では「70代」が36.8%とそれぞれが高くなっています。また、男性は女性に比べて「70代～」を除く他の年代では、『男性優遇』と答えた割合が低くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



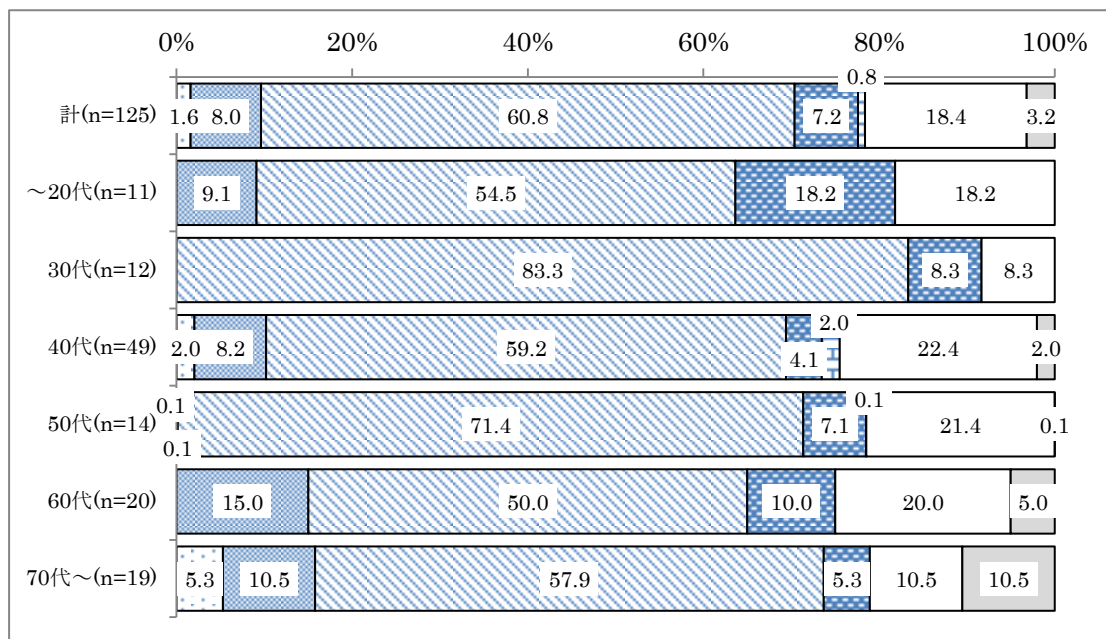
(4) 学校教育の場で

「平等である」が最も高く、女性が60.8%に対し、男性は49.1%と女性が男性を上回っています。

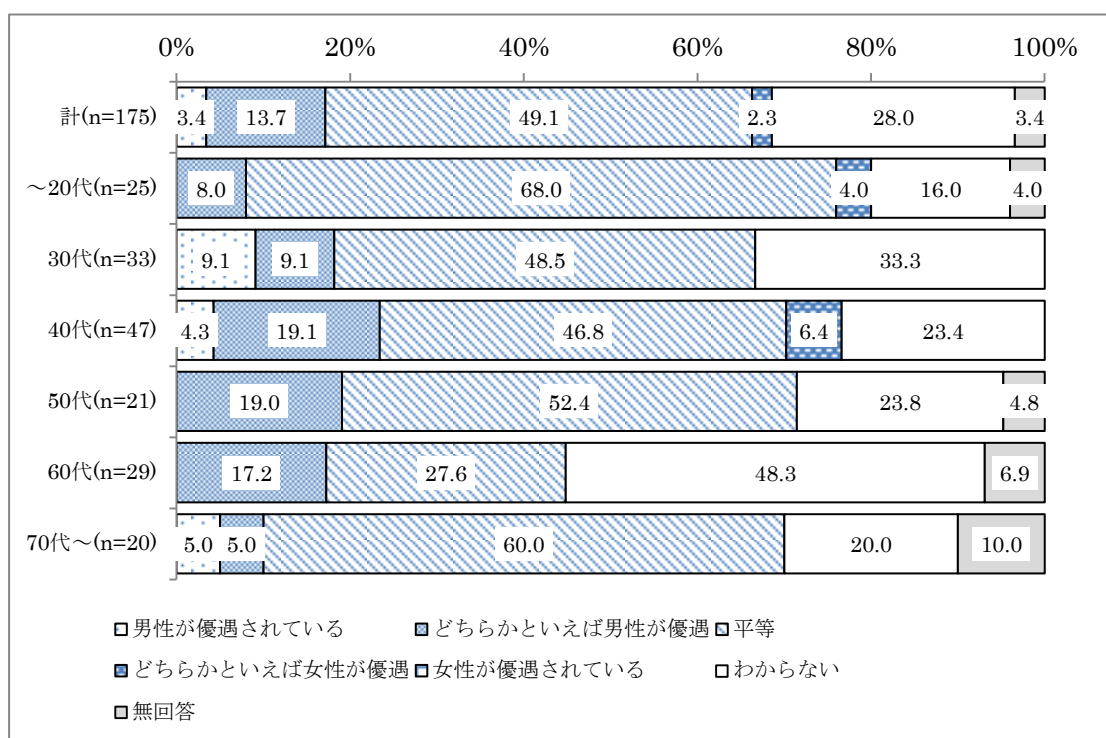
性別・年代別でみると、「平等である」は、女性では「30代」が83.3%、男性では「～20代」が68.0%と最も高くなっており、『男性優遇』は、「40代」男性を除く、すべての年代で2割を下回っています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



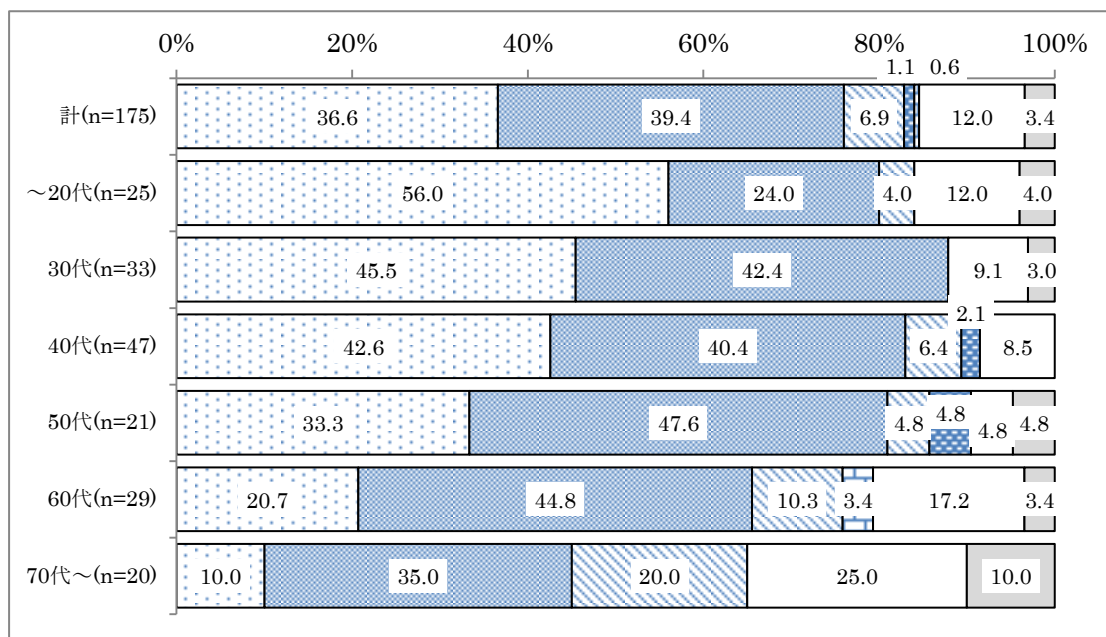
(5)政治の場で

『男性優遇』は、女性が76.0%に対し、男性は55.2%と女性が男性を上回っています。

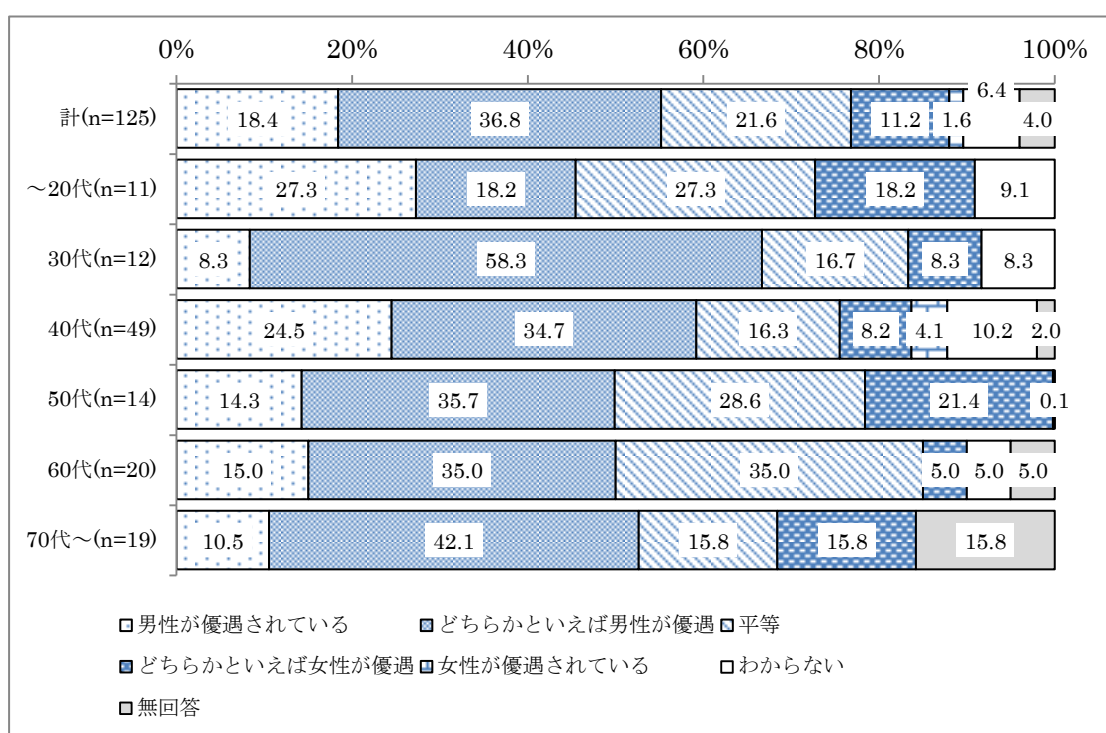
性別・年代別でみると、『男性優遇』は、女性では「30代」が87.9%、男性では「30代」が66.6%とそれぞれが高くなっています。また、男性は女性に比べて「70代～」を除く他の年代では、『男性優遇』と答えた割合が低くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



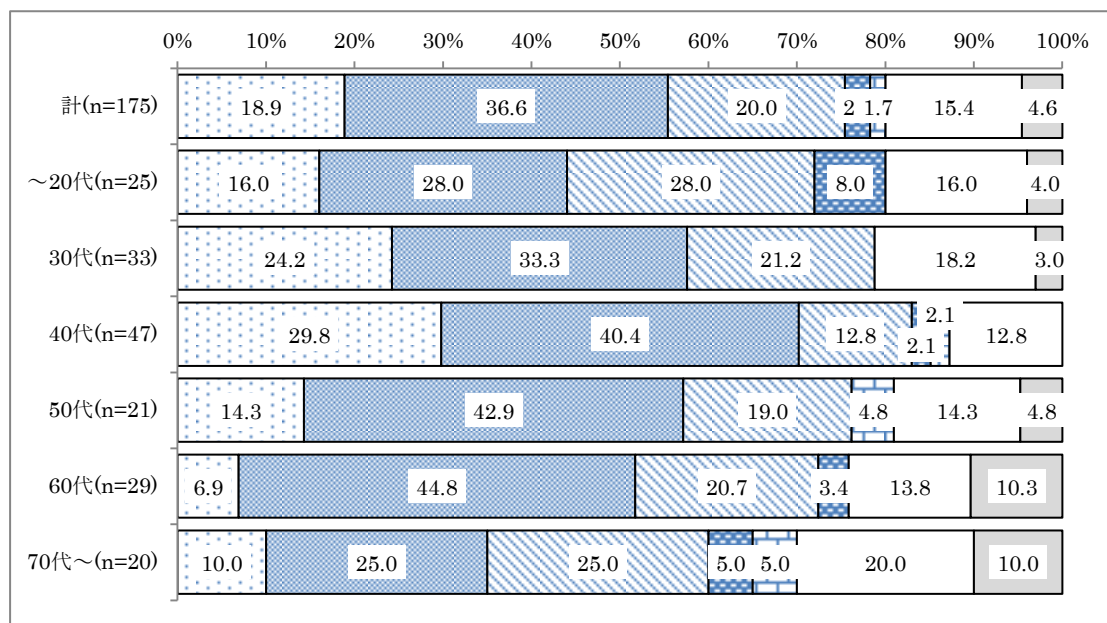
(6) 法律や制度の上で

『男性優遇』は、女性が55.5%に対し、男性は30.4%と女性が男性を上回っています。

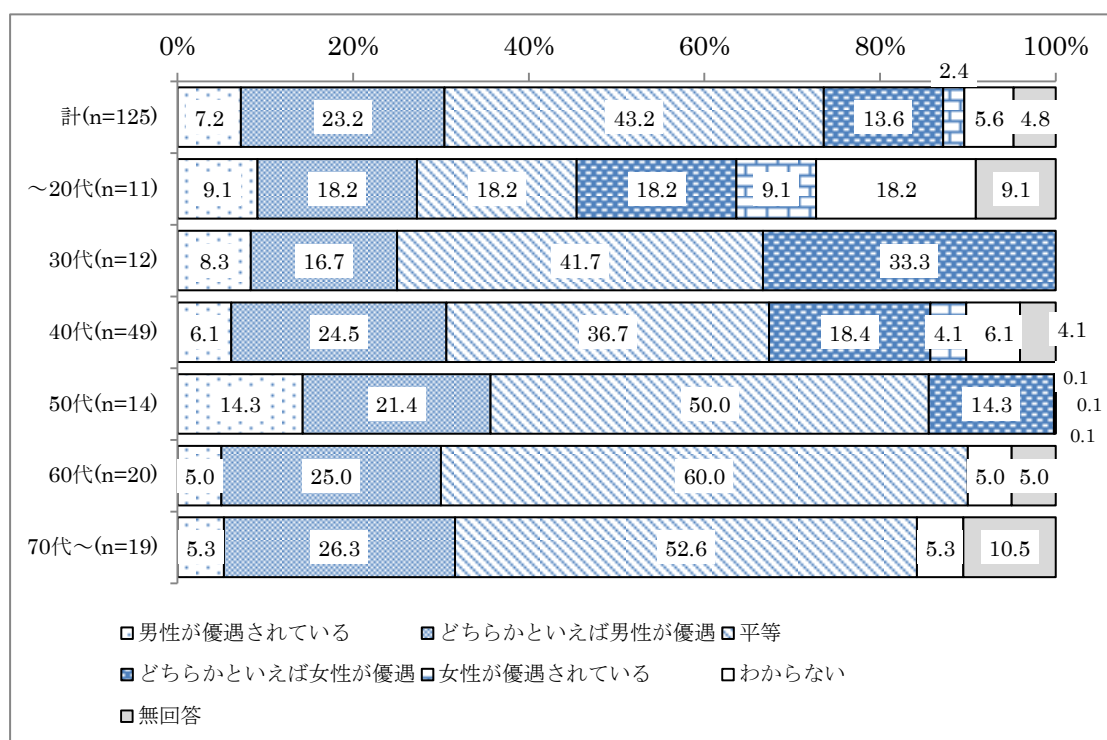
性別・年代別で見ると、『男性優遇』は、女性では「40代」が70.2%、男性では「50代」が35.7%とそれぞれが高くなっています。また、男性は女性に比べて全ての年代で、『男性優遇』と答えた割合が低くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



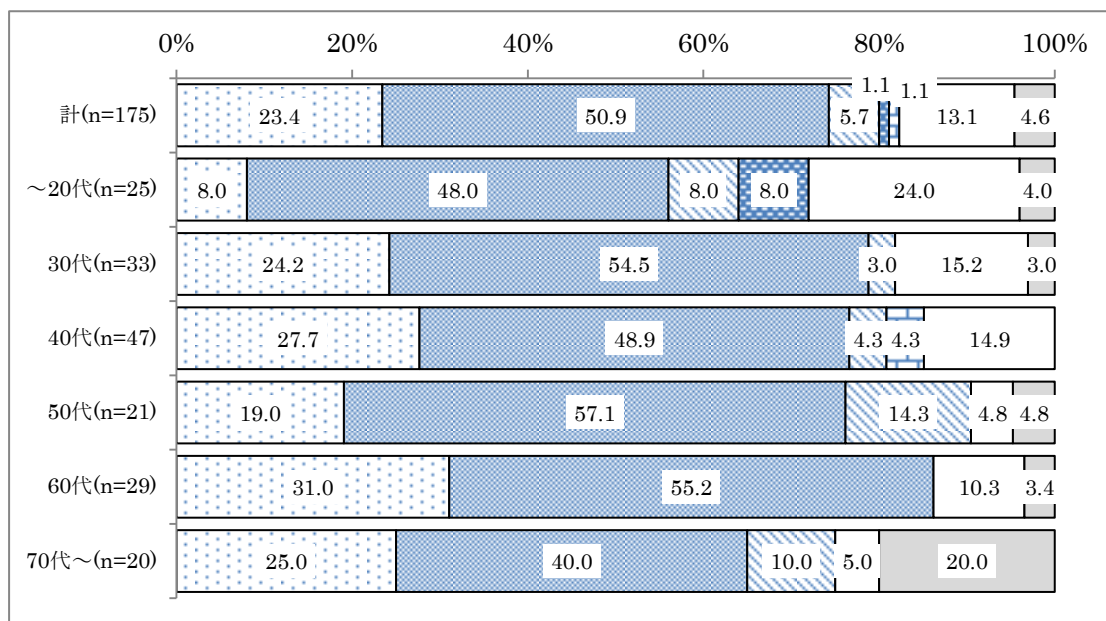
(7)社会通念・慣習などで

『男性優遇』は、女性が74.3%に対し、男性は60.8%と女性が男性を上回っています。

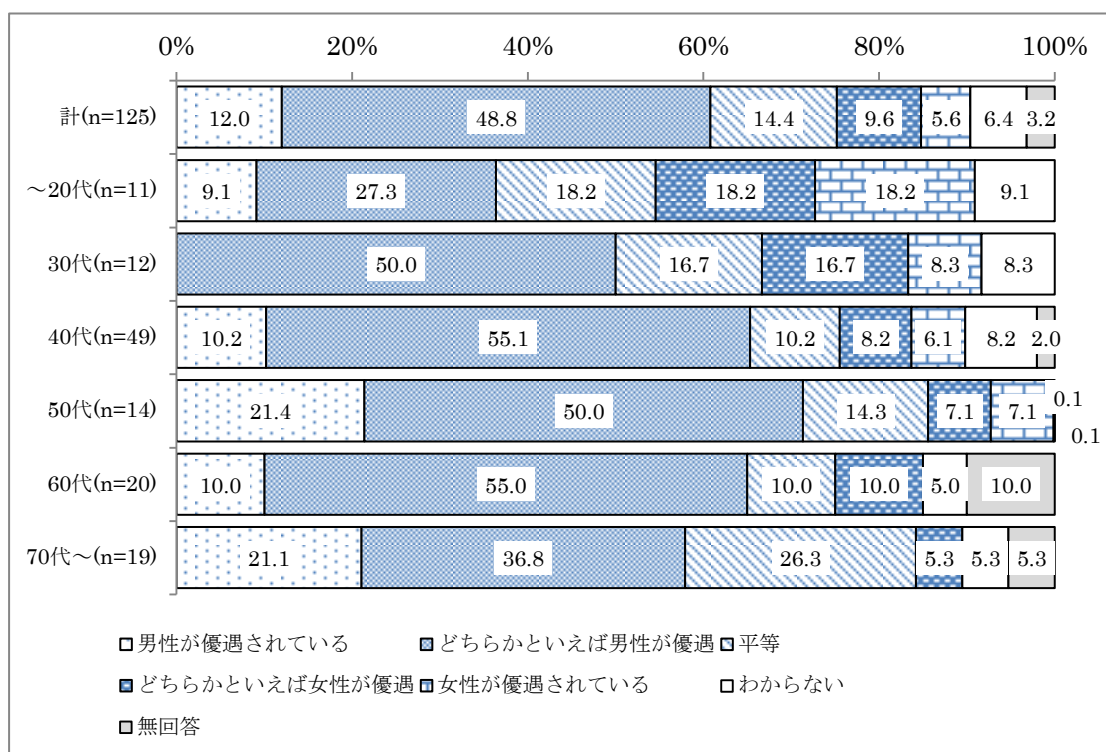
性別・年代別で見ると、『男性優遇』は、女性では「60代」が86.2%、男性では「50代」が71.4%とそれぞれが高くなっています。また、男性は女性に比べて全ての年代で、『男性優遇』と答えた割合が低くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



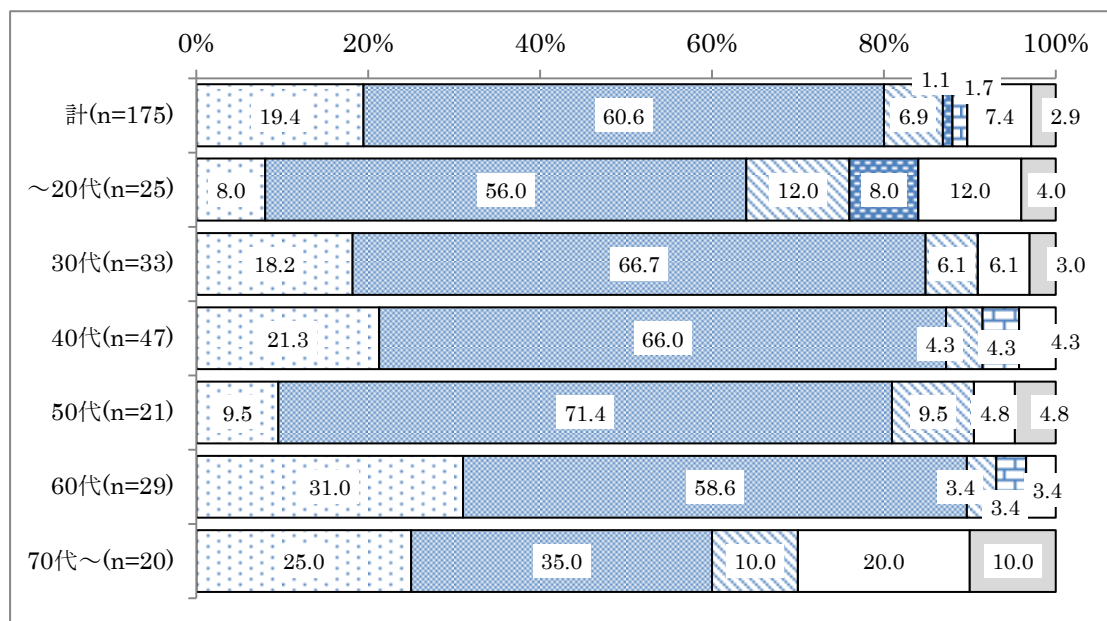
(8)社会全体として

『男性優遇』は、女性が80.0%に対し、男性は56.0%と女性が男性を上回っています。

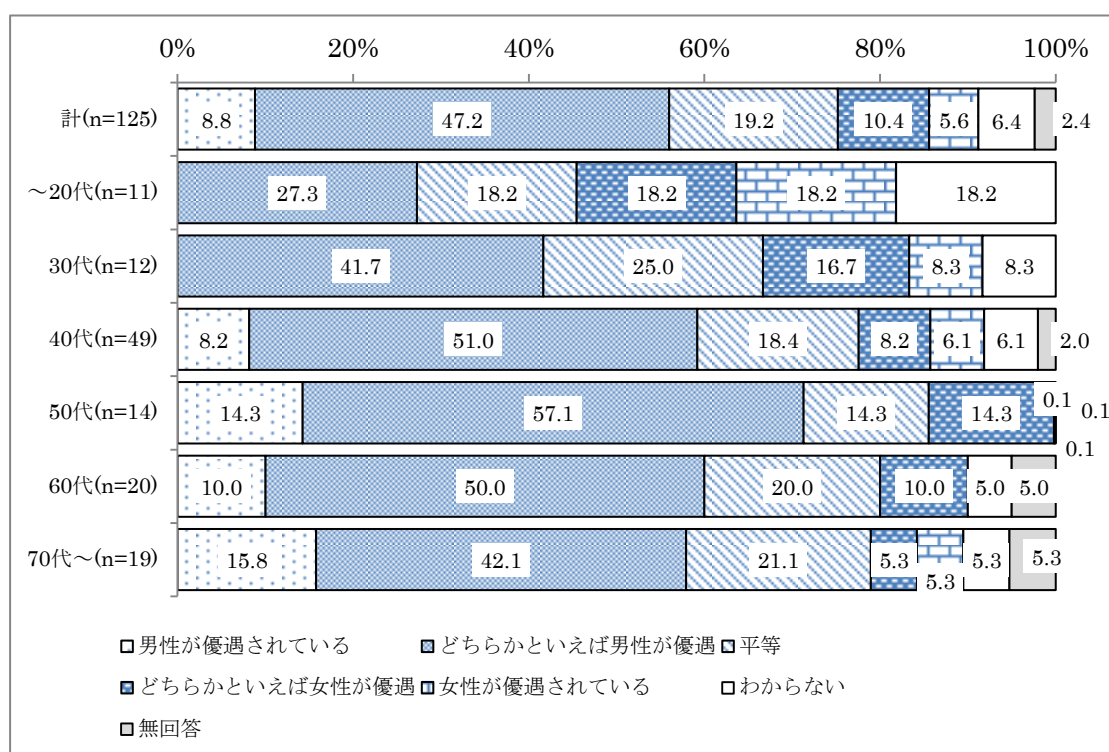
性別・年代別で見ると、『男性優遇』は、女性では「60代」が89.6%、男性では「50代」が71.4%とそれぞれが高くなっています。また、男性は女性に比べて全ての年代で、『男性優遇』と答えた割合が低くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



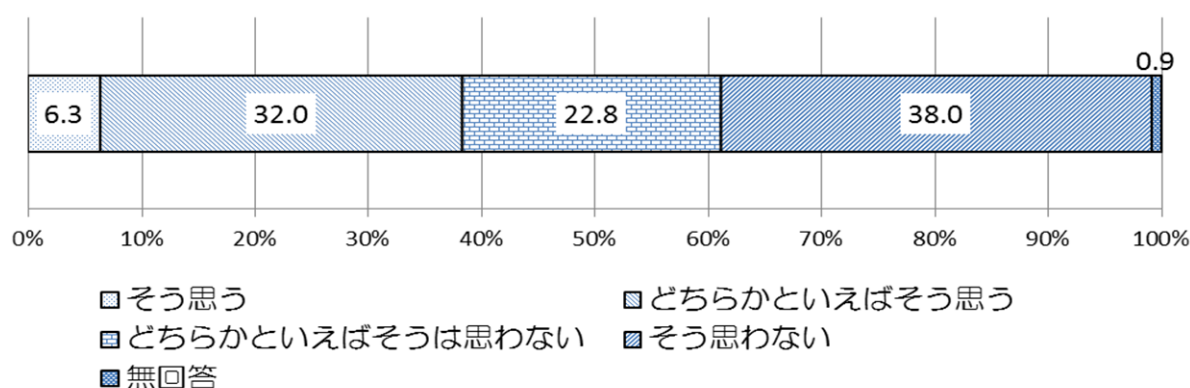
問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。

(○は1つだけ)

『同感する』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)が38.3%、『同感しない』(「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた割合)が60.8%となっています。

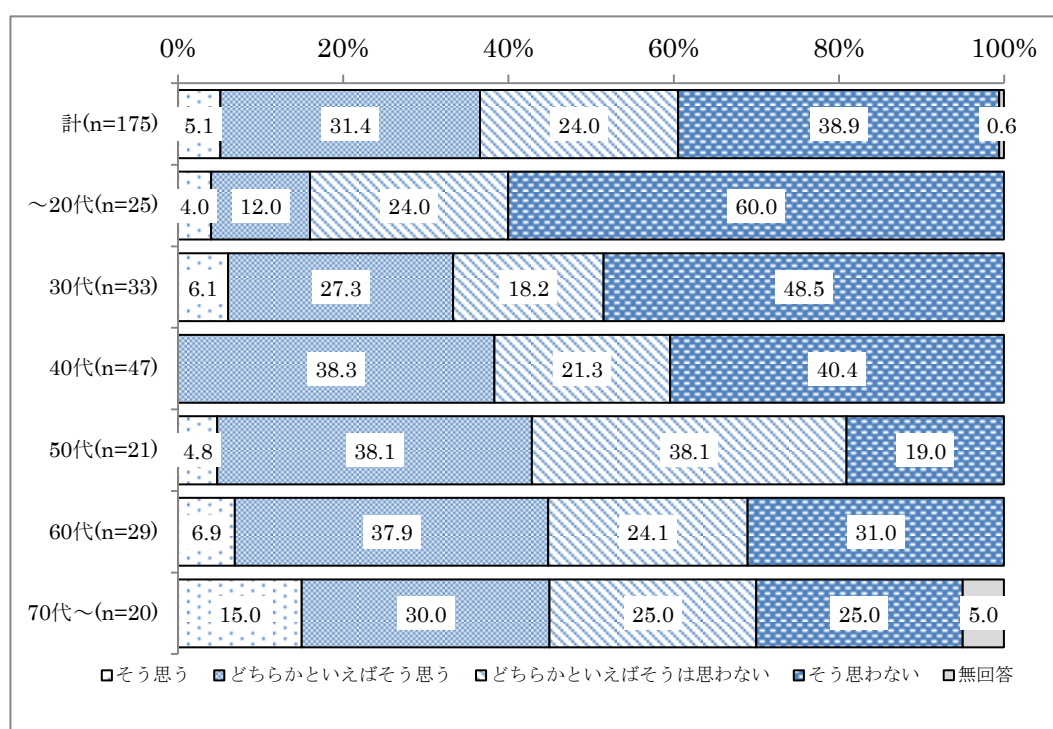
『同感しない』は、女性が62.9%に対し、男性が57.6%となっています。

<全体>

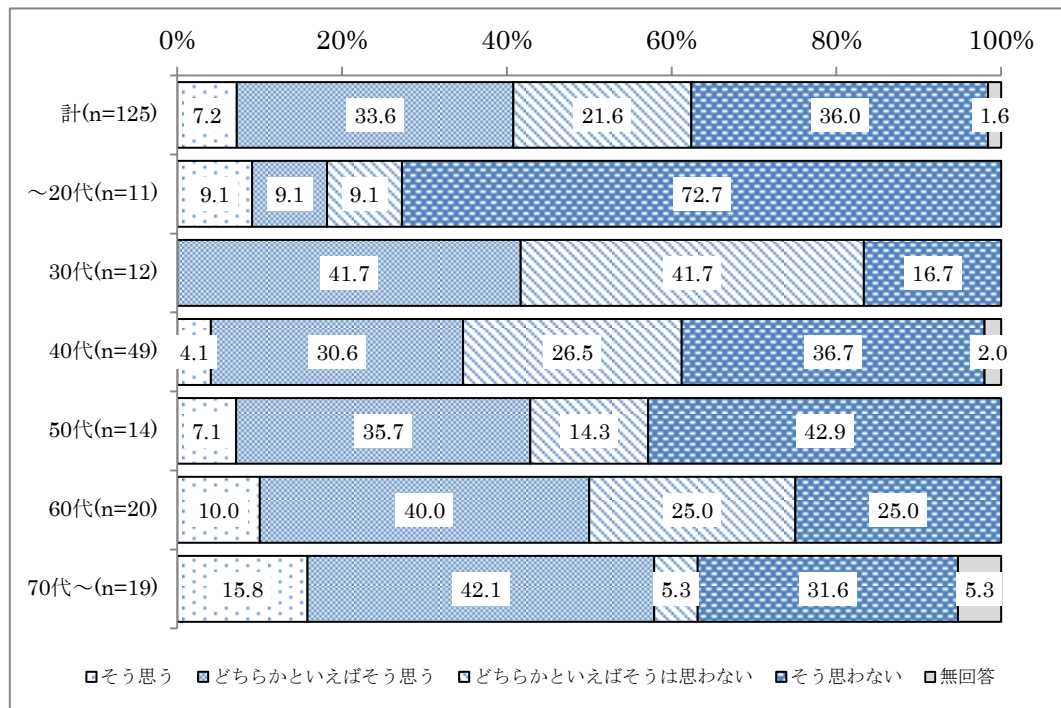


<性別・年代別>

【女性】



【男性】

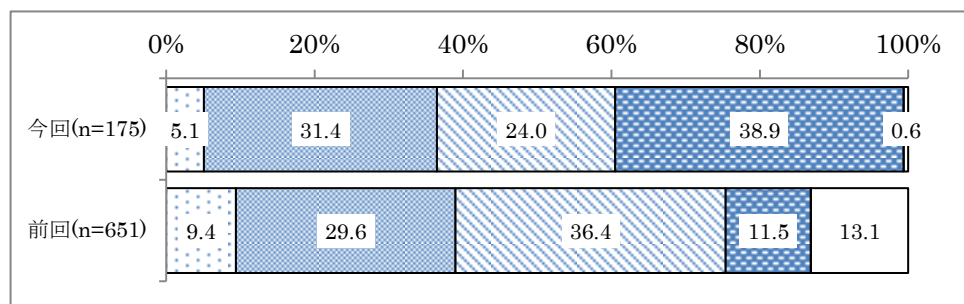


<前回調査との比較>

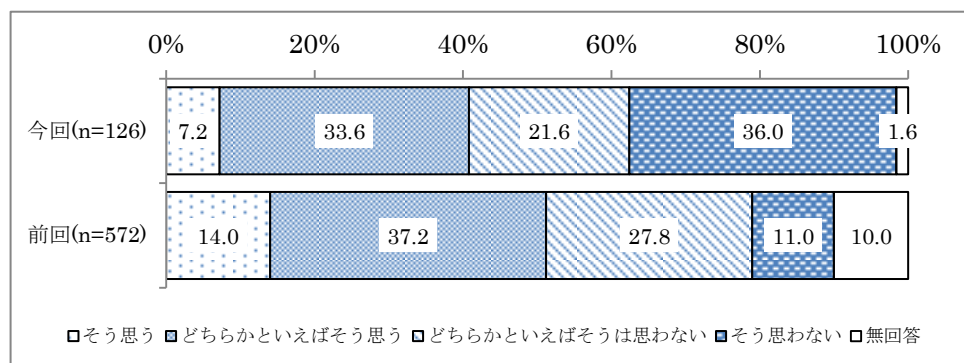
前回調査（平成6年）と比較すると『同感しない』は女性が15.0ポイント増加（前回47.9%→今回62.9%）し、男性も『同感しない』が18.8ポイント増加（前回38.8%→今回57.6%）しています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感するか<性別>

【女性】



【男性】



＜問2で「1」または「2」と回答した方にお聞きします。＞

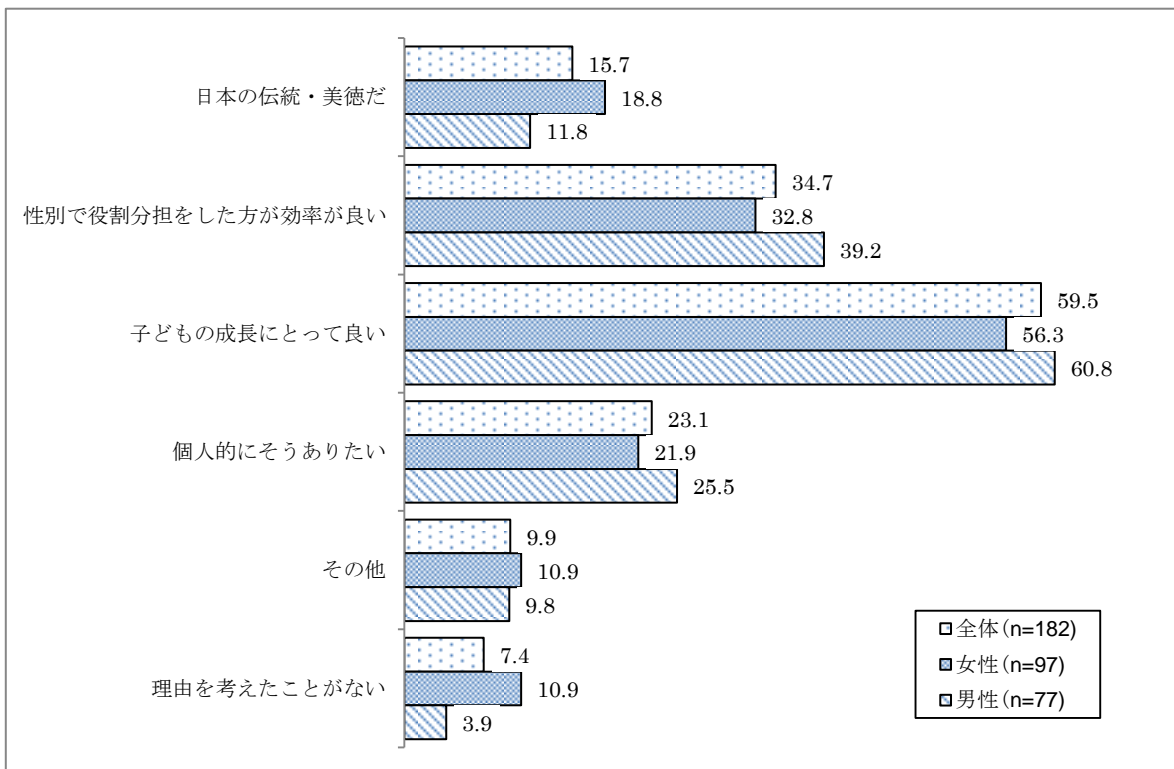
問2-1. そう思う理由を教えてください。(〇はいくつでも)

全体では「子どもの成長にとって良いと思うから」が59.5%と最も高く、次いで「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が34.7%となっている。

性別では、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」は男性の方が6.4ポイント高くなっている。

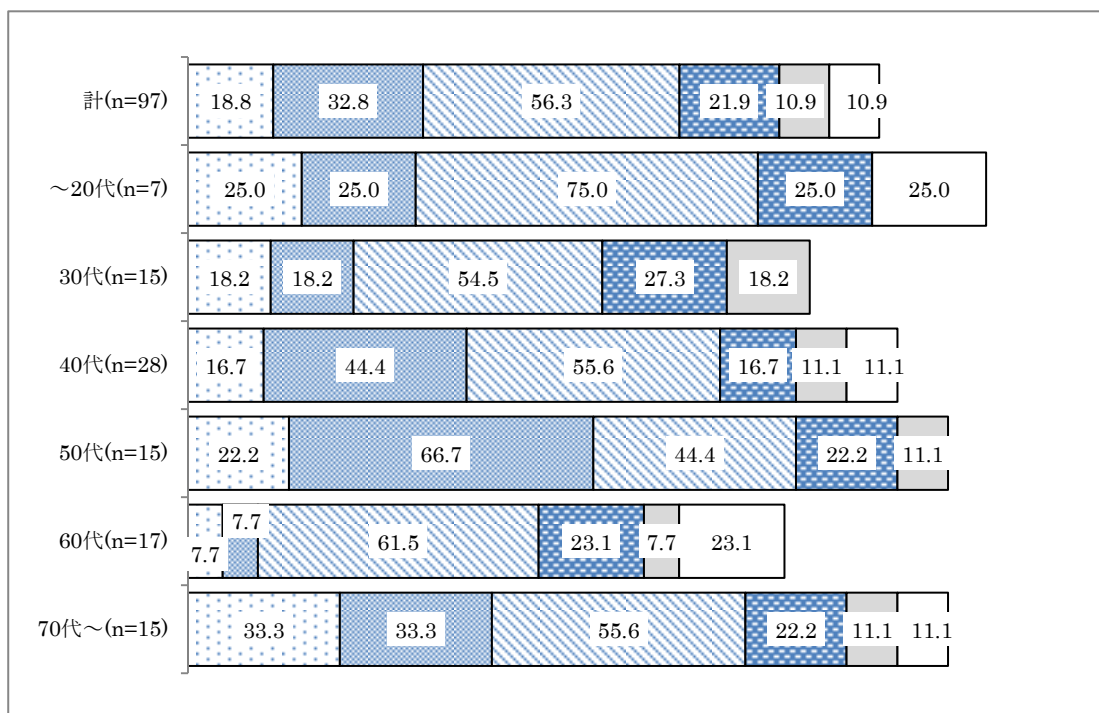
年代別・性別では、「50代」女性、「～20代」「60代」男性を除く、ほとんどの年代で「子どもの成長にとって良いと思うから」が最も高くなっている。「50代」女性、「～20代」「60代」男性は、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」が最も高くなっている。

＜全体・性別＞

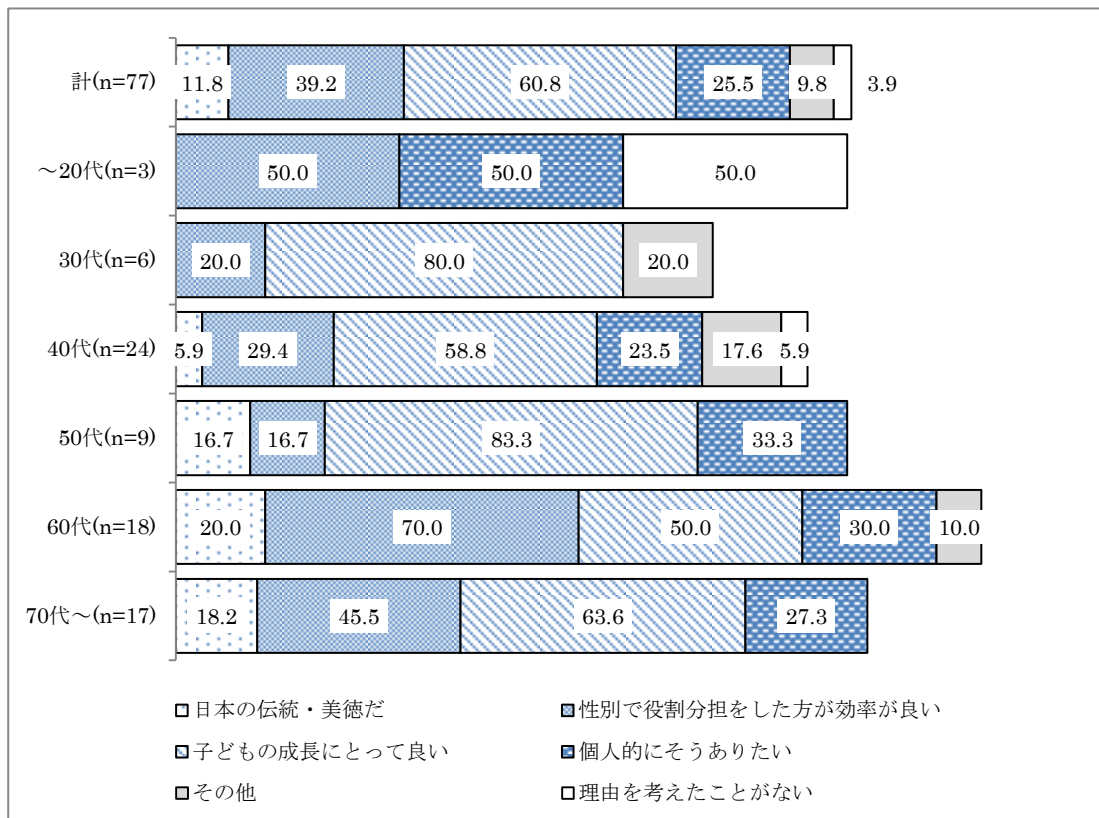


<年代別・性別>

【女性】



【男性】



＜問2で「3」または「4」と回答した方にお聞きします。＞

問2-2. そう思わない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

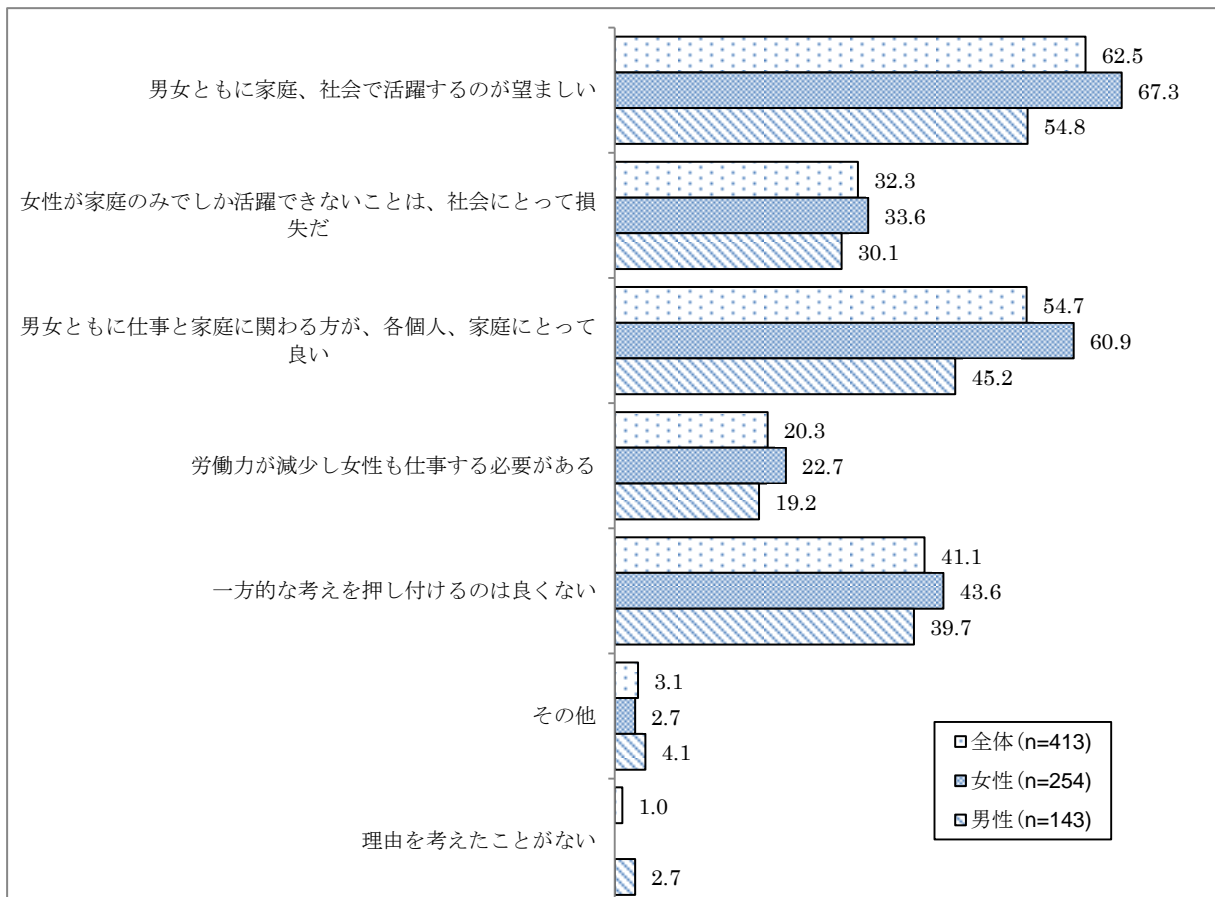
全体では「男女ともに家庭、社会で活躍するのが望ましいと思うから」が62.5%と最も高く、次いで「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が54.7%となっています。

性別では、「男女ともに家庭、社会で活躍するのが望ましいと思うから」は女性の方が12.5ポイント高く、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」も女性の方が15.7ポイント高くなっています。

性別・年代別でみると、女性は「～20代」を除くすべての年代で「男女ともに家庭、社会で活躍するのが望ましいと思うから」が最も高くなっています。

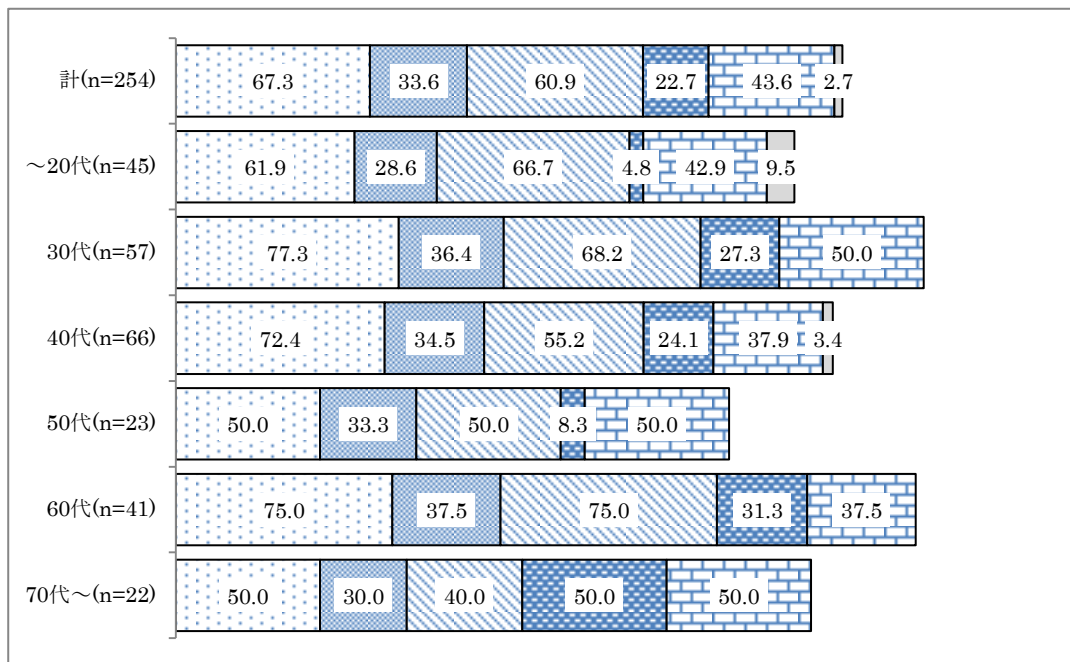
男性は「～20代」「50代から70代～」は「男女ともに家庭、社会で活躍するのが望ましいと思うから」が最も高く、「30代」「40代」は「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が最も高くなっています。

＜全体・性別＞

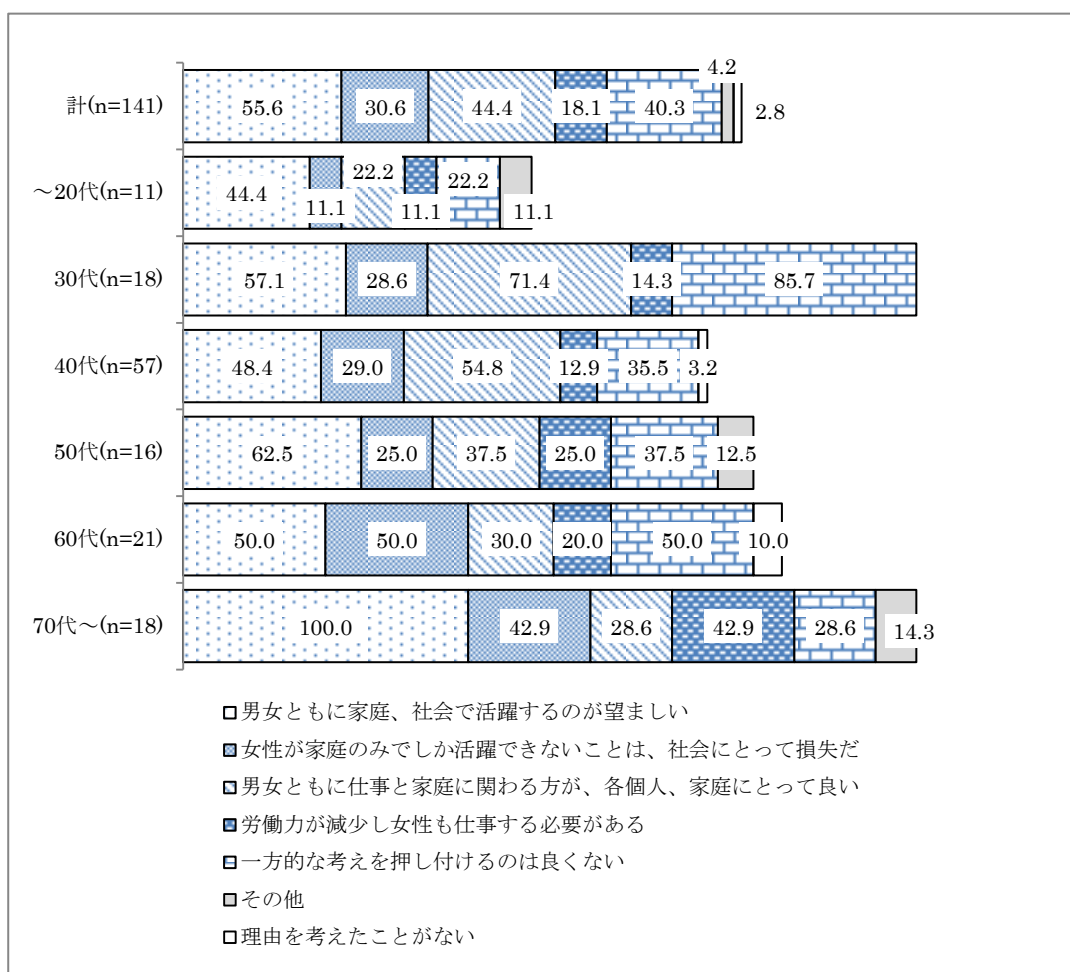


<性別・年代別>

【女性】



【男性】



3 家庭生活について

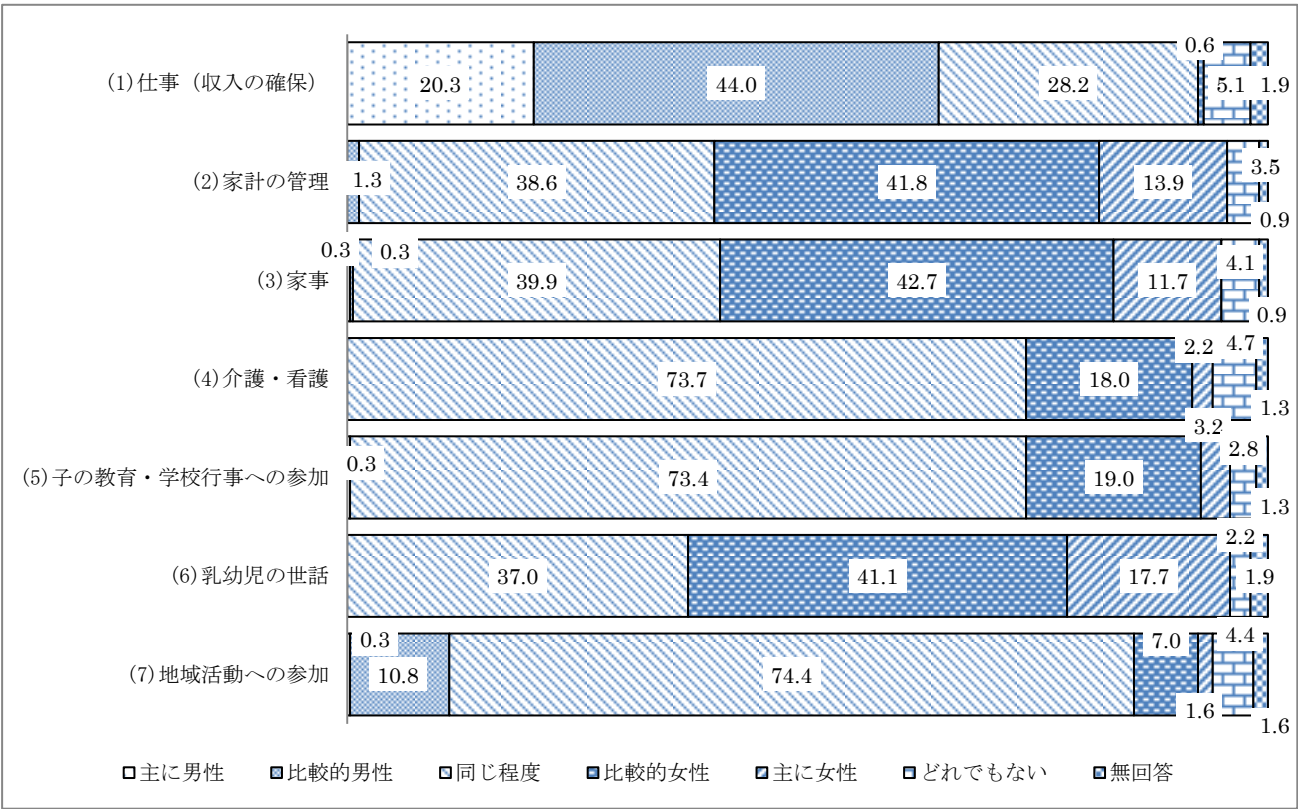
＜全員の方にお聞きします。＞
 問3. 次のことがらについて、男女の役割分担はどうあるべきだと思いますか。
 あなたのお考えに近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

『女性の役割』（「主に女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を合わせた値）は、(2)家計の管理、(3)家事、(6)乳幼児の世話の項目が多く、それぞれ5割を超えています。

一方、『男性の役割』（「主に男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を合わせた値）は、(1)仕事（収入の確保）が64.3%と最も高くなっています。

「両方同じ程度の役割」は、(4)介護・看護、(5)子の教育・学校行事への参加、(7)地域活動への参加の項目が多く、それぞれ7割を超えています。

＜全体＞



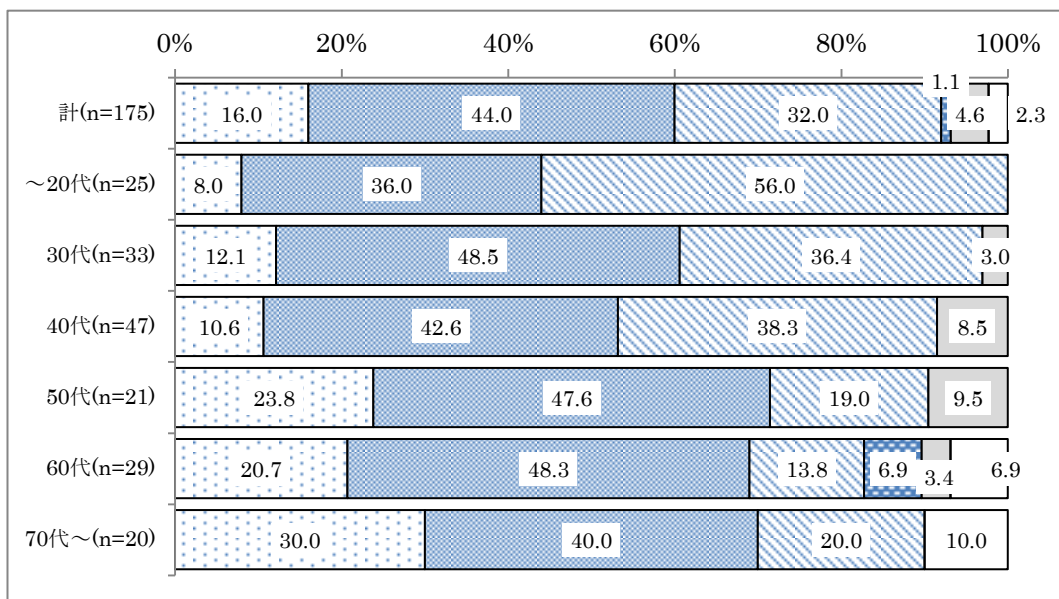
(1)仕事（収入の確保）

『男性の役割』が女性は60.0%であり、男性は71.2%と、男性の方が11.2ポイント高くなっています。

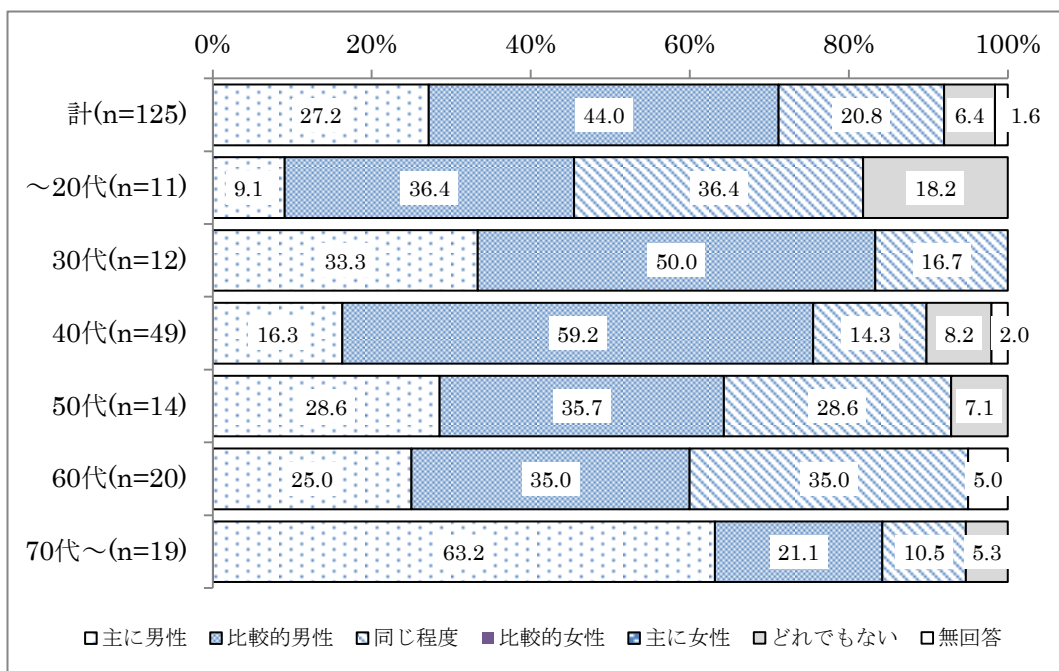
性別・年代別で見ると、『男性の役割』は、女性では「30代」、「50代」から「70代～」が6～7割以上、男性では「30代」から「70代～」が6～8割となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



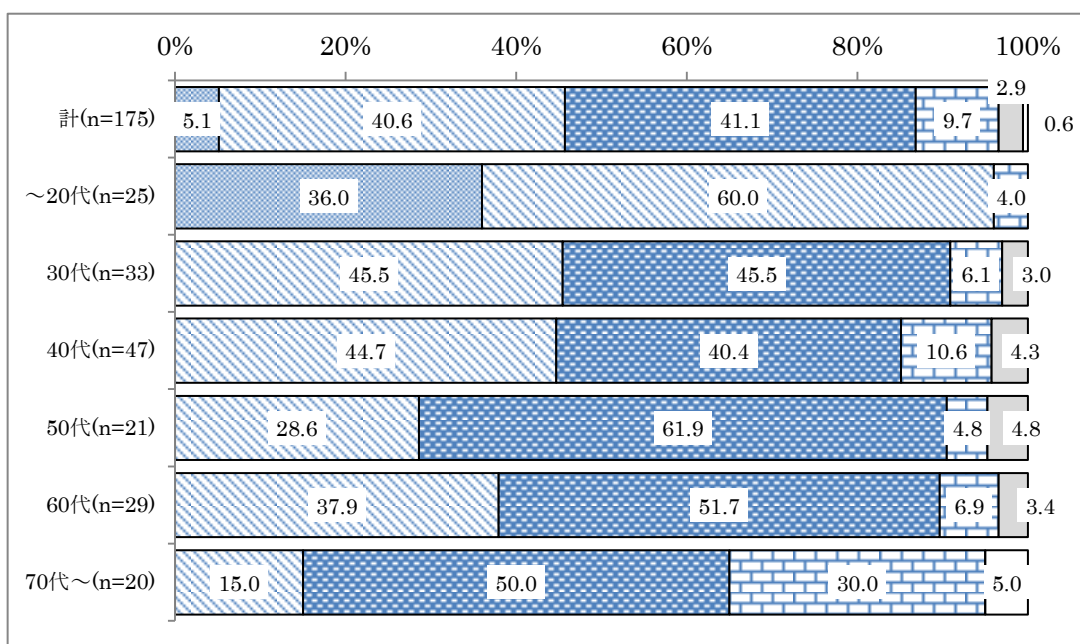
(2) 日々の家計の管理

『女性の役割』が女性は 50.8%、男性は 50.4%と、性別による大きな差異はありません。

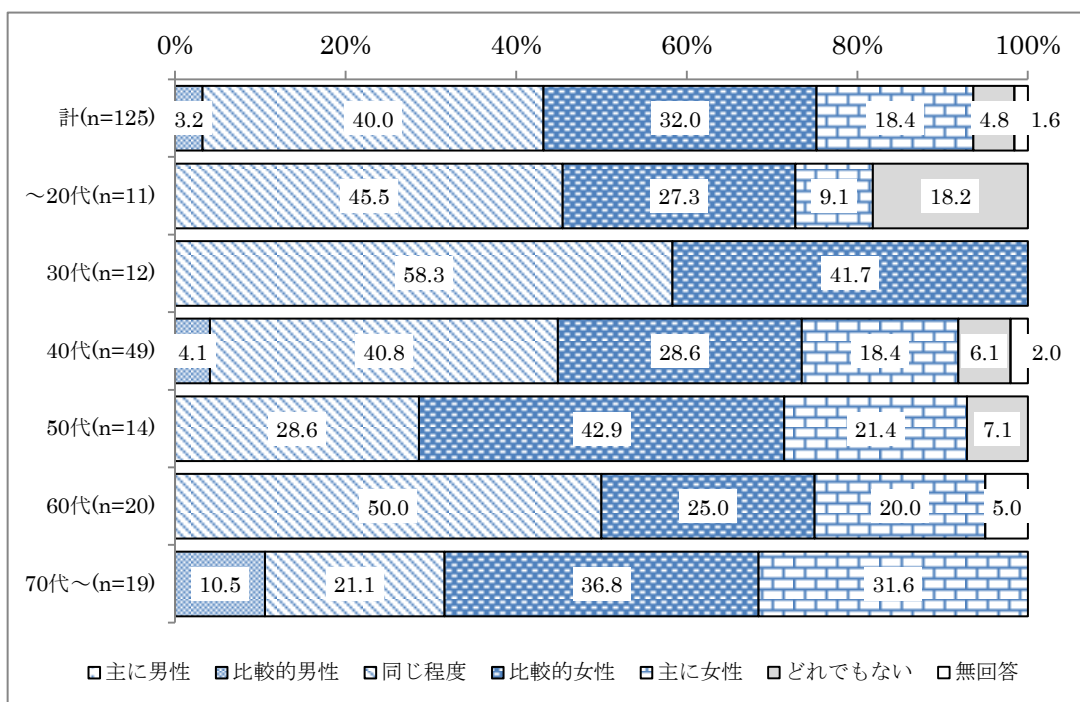
性別・年代別で見ると、『女性の役割』は、女性では「30代」から「70代～」が5～8割、男性では「50代」、「70代～」が6割以上となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



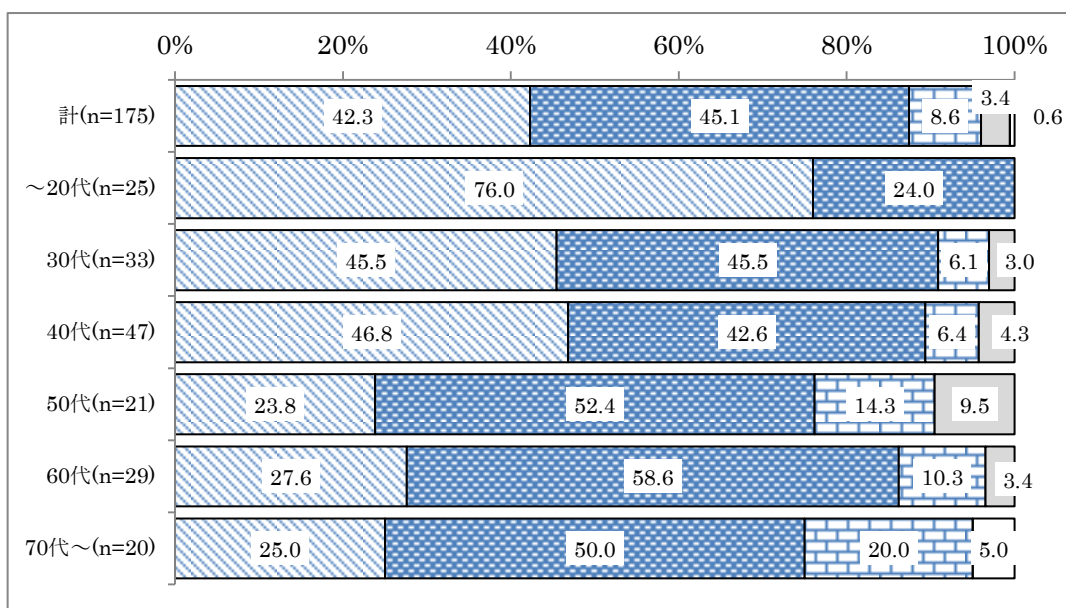
(3) 日常の家事（食事・洗濯・掃除など）

『女性の役割』が女性は 53.7%、男性は 55.2%と、性別による大きな差異はありません。

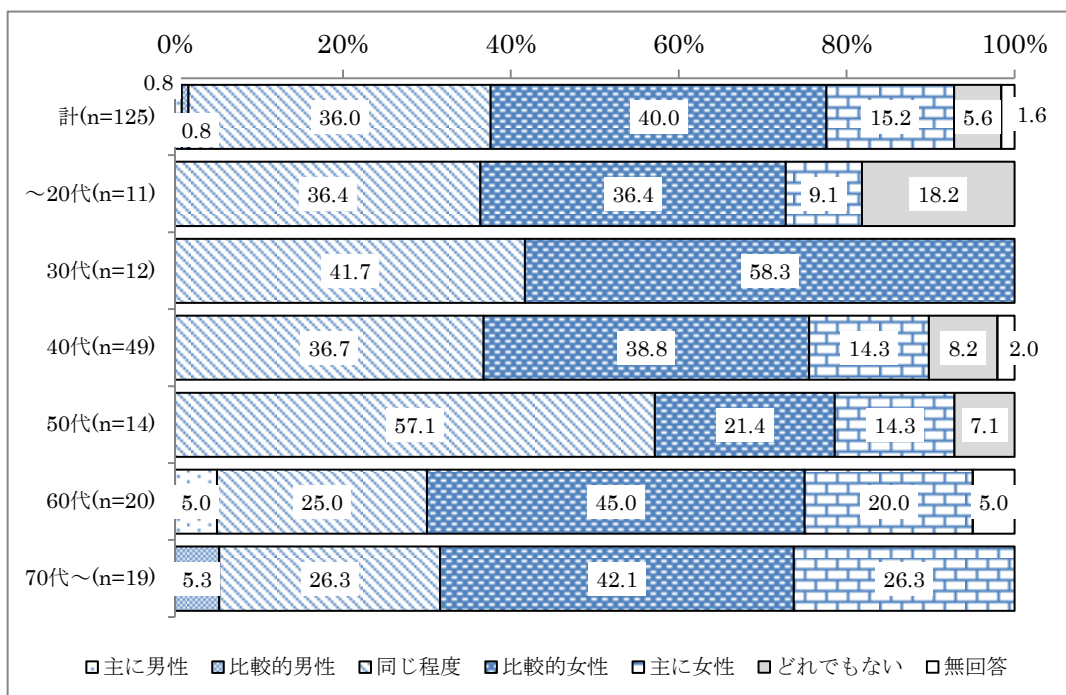
性別・年代別で見ると、『女性の役割』は、女性では「50代」から「70代～」が6～7割、男性では「60代」、「70代～」が6割以上となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



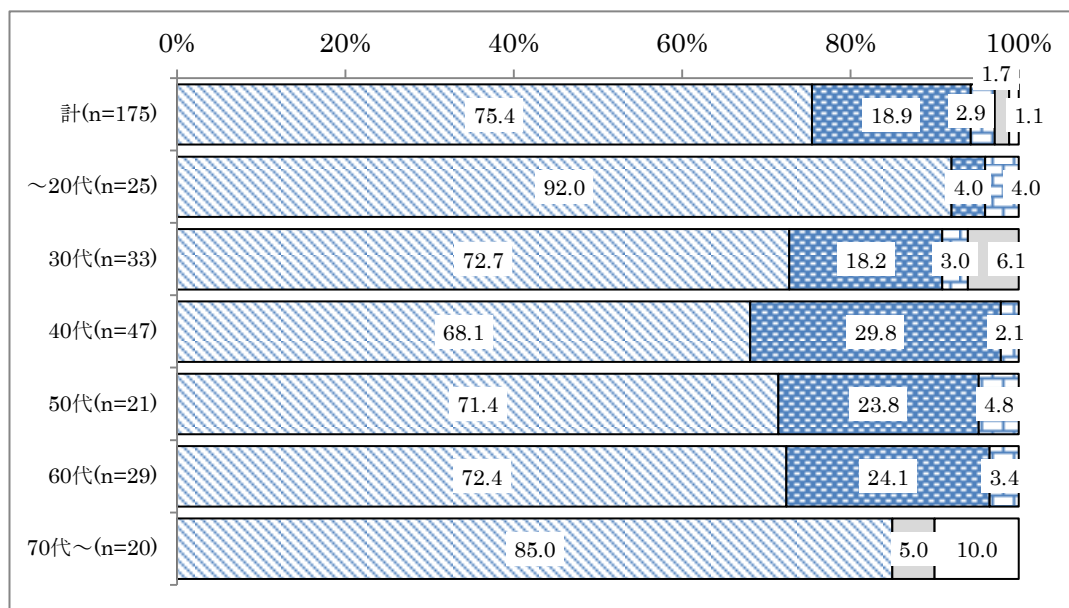
(4) 老親や病身者の介護や看護

「両方同じ程度の役割」が女性は75.4%、男性は69.6%と、女性が5.8ポイント高くなっています。

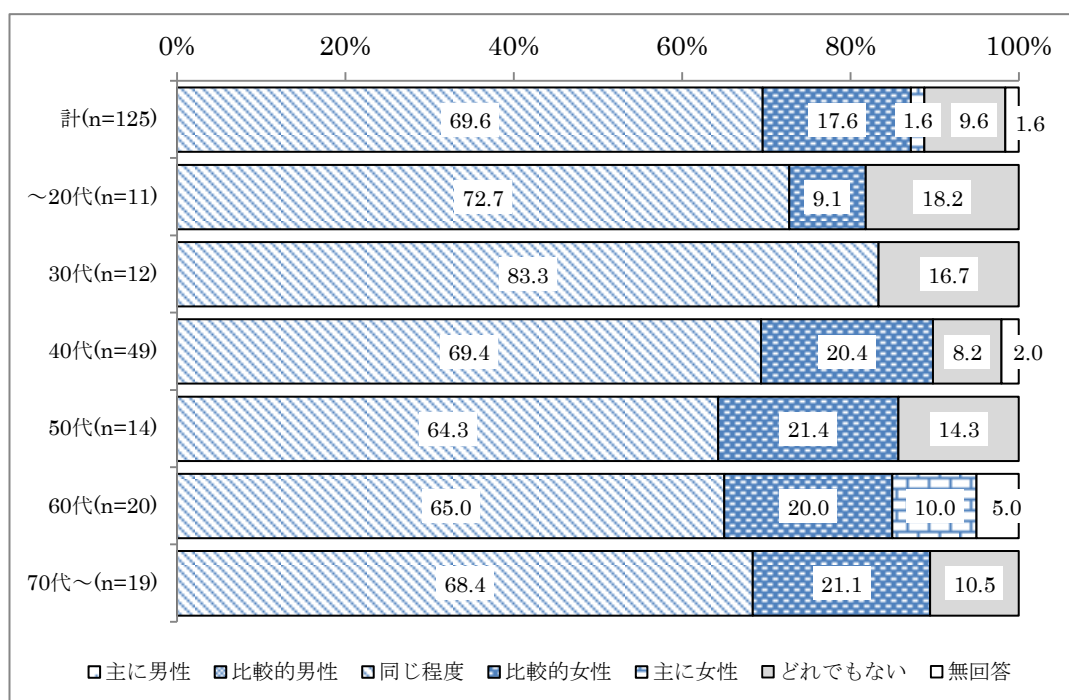
性別・年代別で見ると、『女性の役割』は、女性では「30代」から「60代」が2～3割、男性では「40代」から「70代～」が2～3割となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



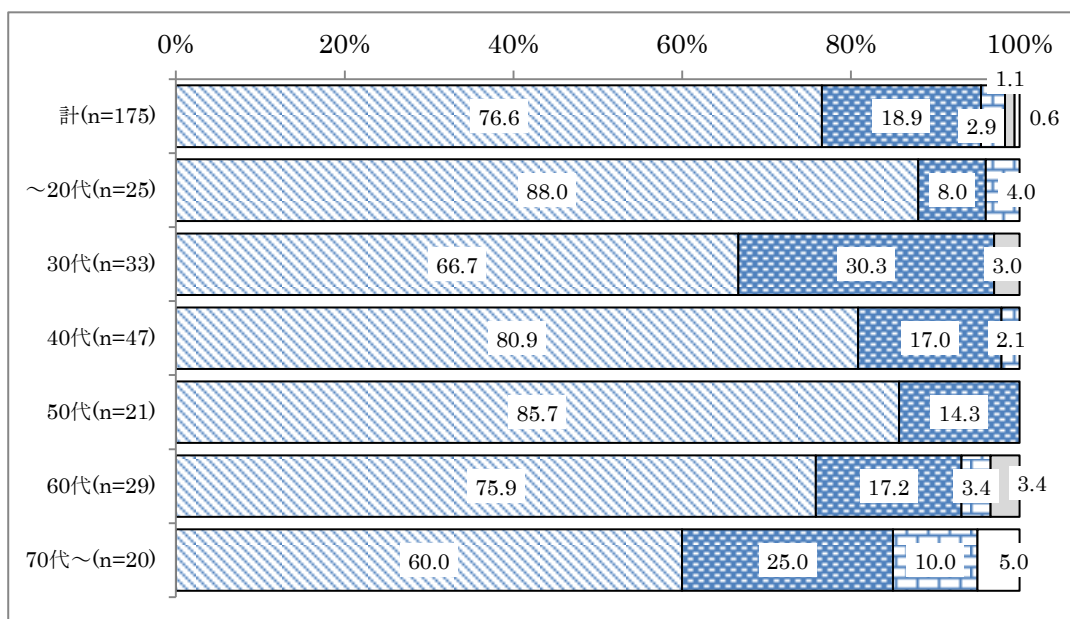
(5)子どもの教育としつけ、学校行事への参加

「両方同じ程度の役割」が女性は76.6%、男性は70.4%と、女性の方が6.2ポイント上回っています。

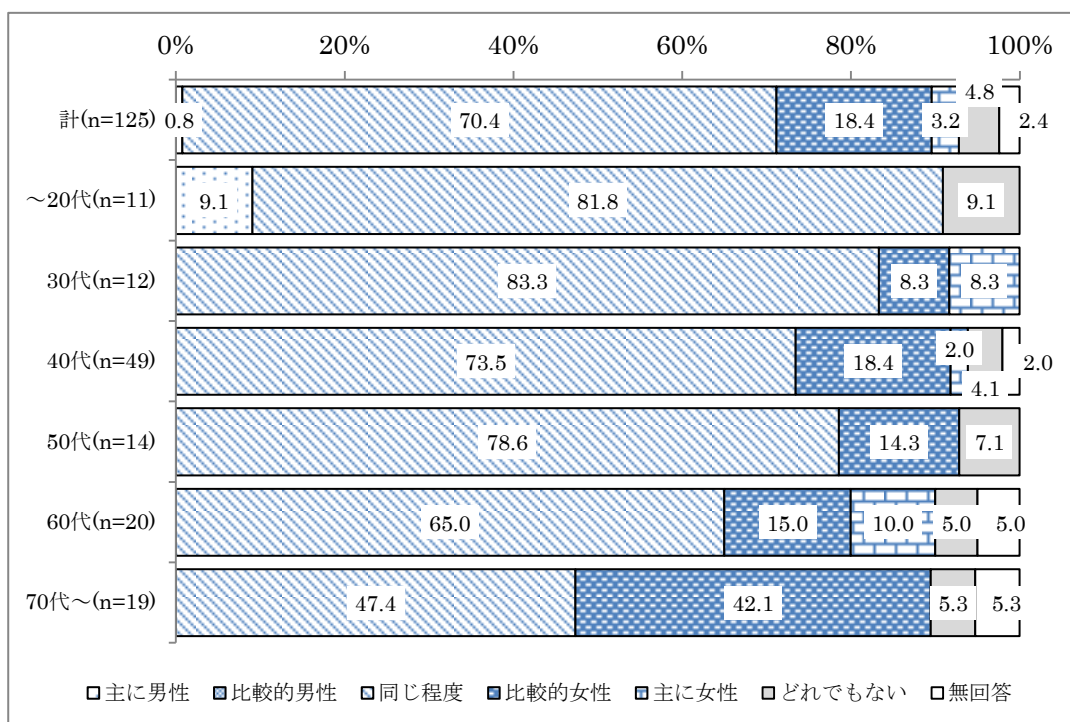
性別・年代別で見ると、『女性の役割』は、女性では「30代」、「60代」、「70代～」が2～3割、男性では「40代」、「60代」「70代～」が2～4割となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



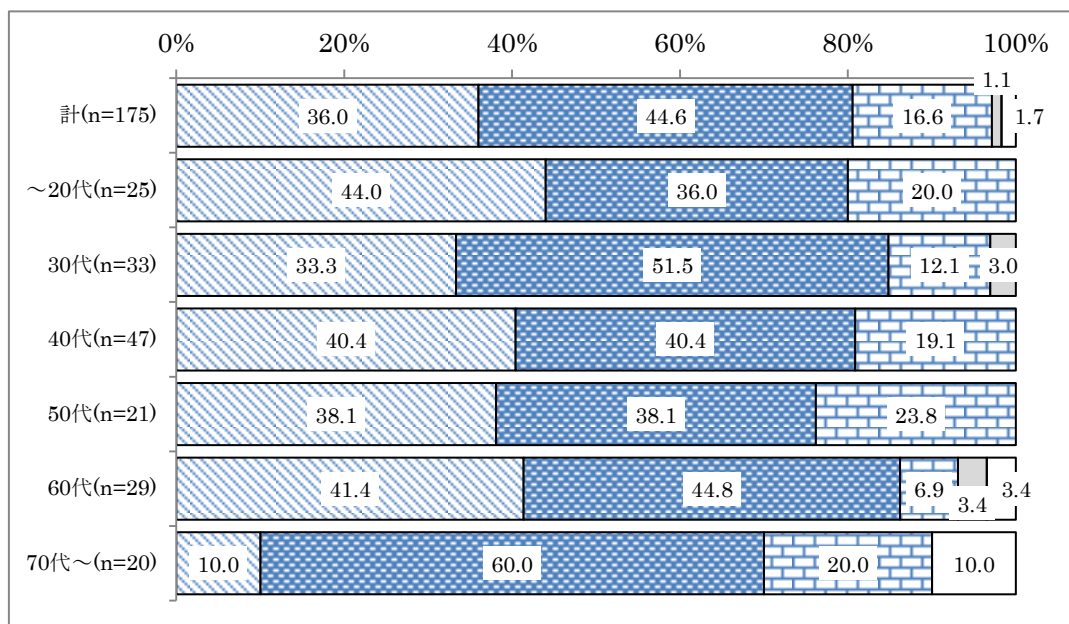
(6) 乳幼児の世話

『女性の役割』が女性は 61.2%、男性は 57.6%と、性別による大きな差異はありません。

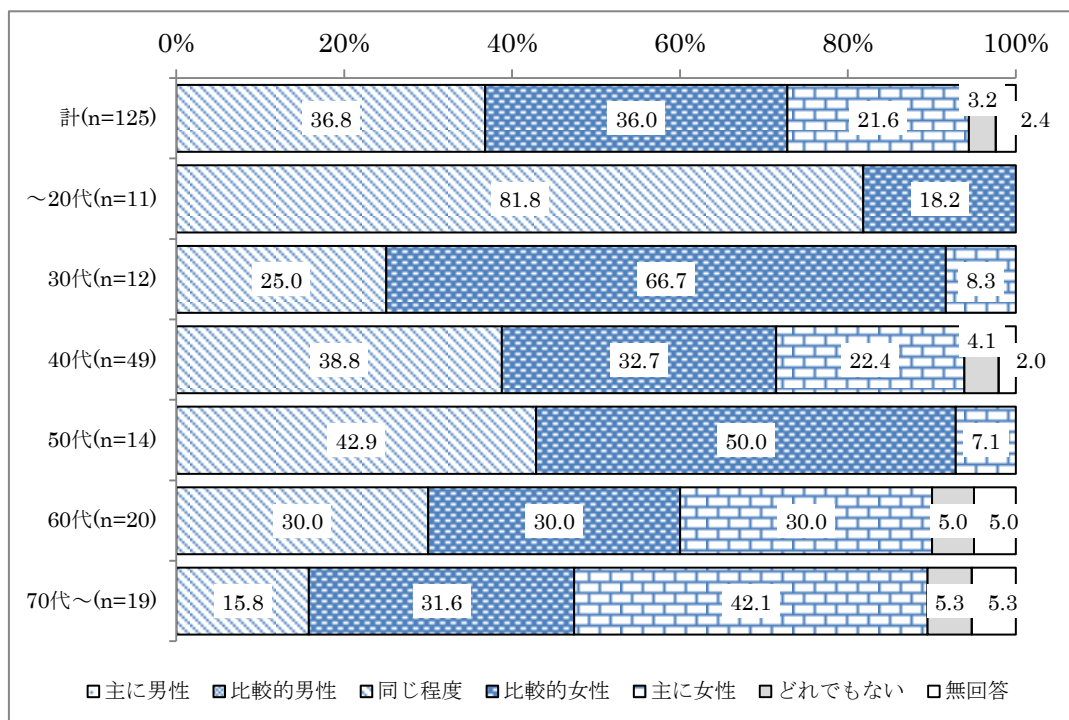
性別・年代別で見ると、『女性の役割』は、女性では全ての年代で5割以上、男性では「30代」から「70代～」が5割以上となっています。

<性別・年齢別>

【女性】



【男性】



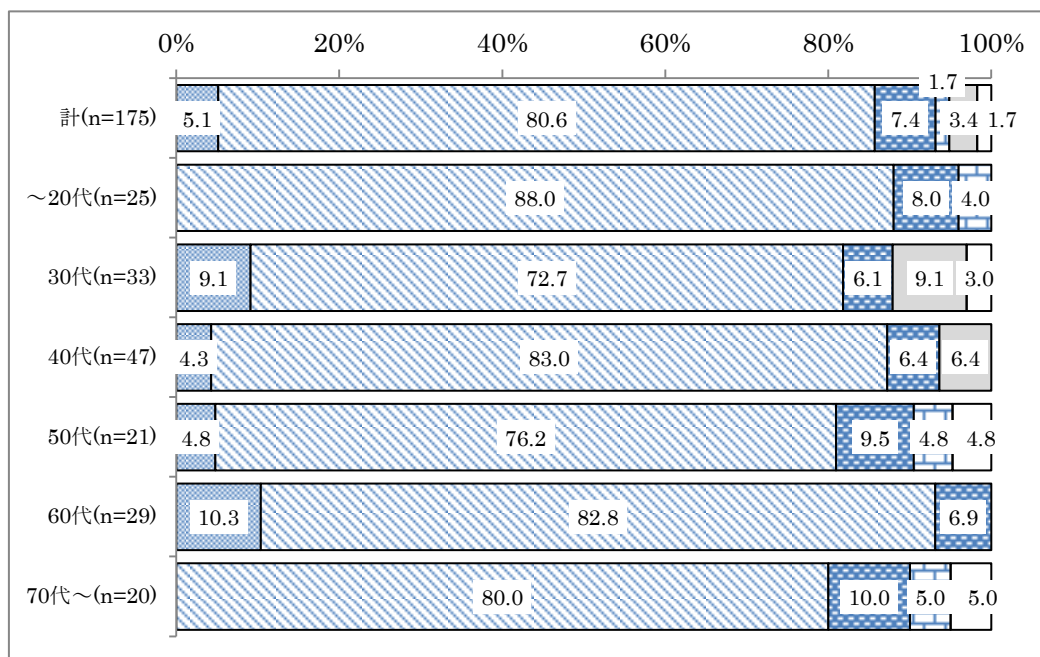
(7)自治会、ボランティアなど地域活動への参加

「両方同じ程度の役割」が女性は80.6%、男性は65.6%と、女性が15.0ポイント高くなっています。

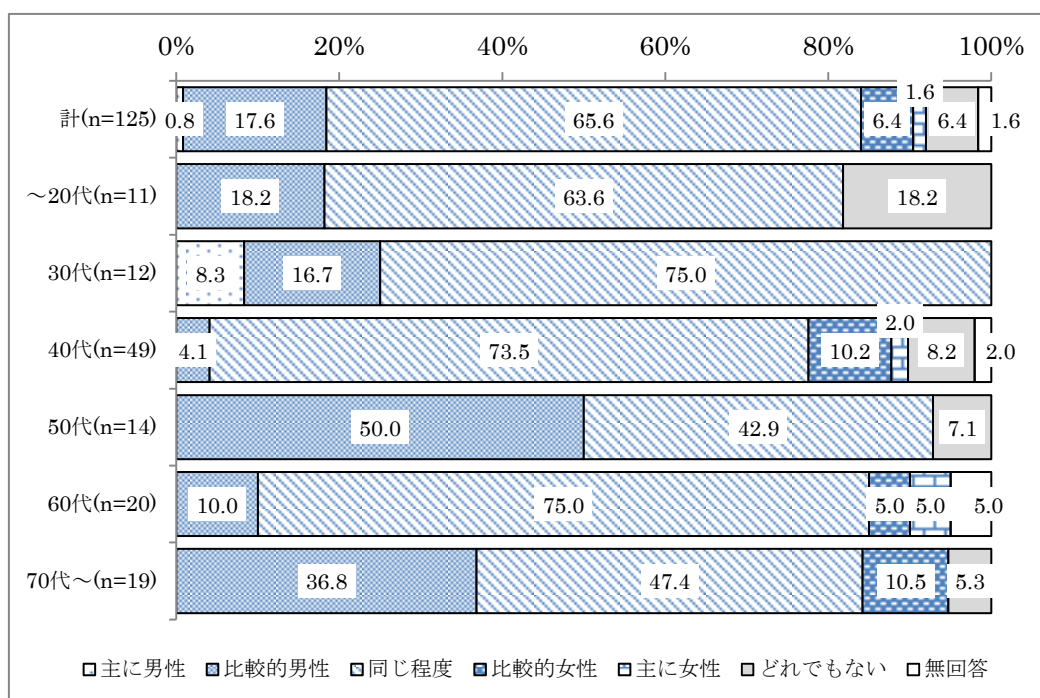
性別・年代別で見ると、『男性の役割』が男性では「50代」、「70代～」が3～5割と高くなっています。

<性別・年齢別>

【女性】



【男性】



問4. 1日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事（育児、介護等を含む）に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。
（○はそれぞれ1つずつ）

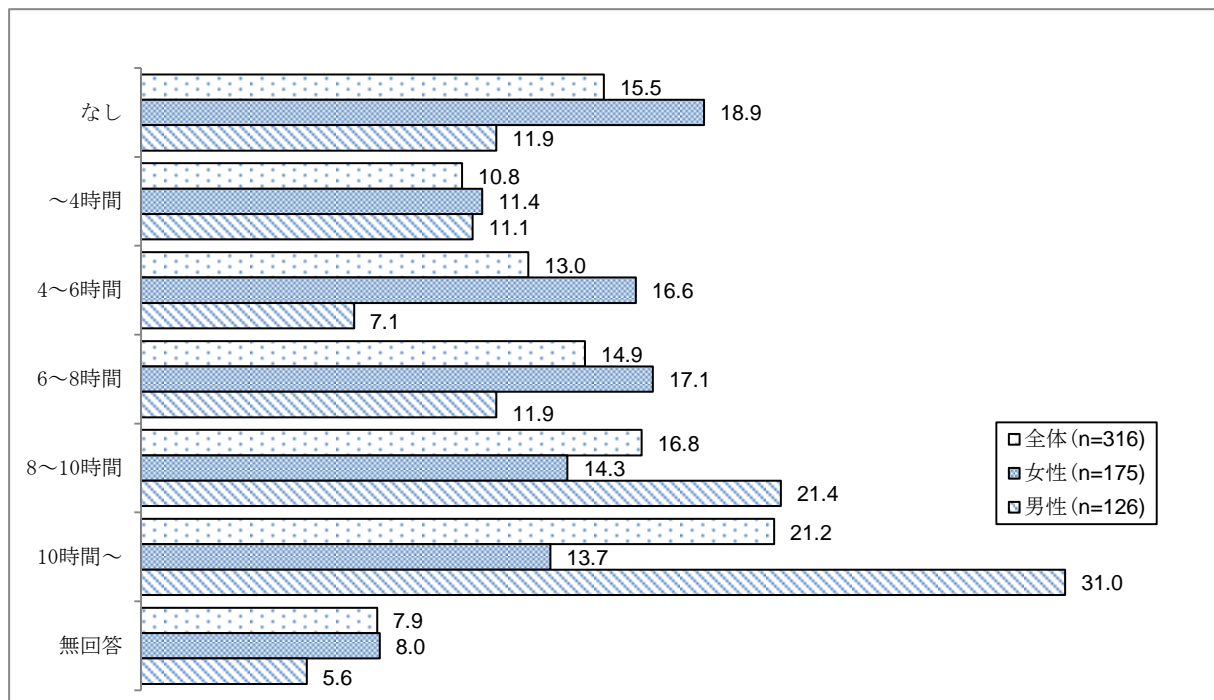
【仕事】（通勤時間を含む）

平日の仕事時間は、「なし」が女性は18.9%、男性は「10時間以上」が31.0%と最も高くなっています。

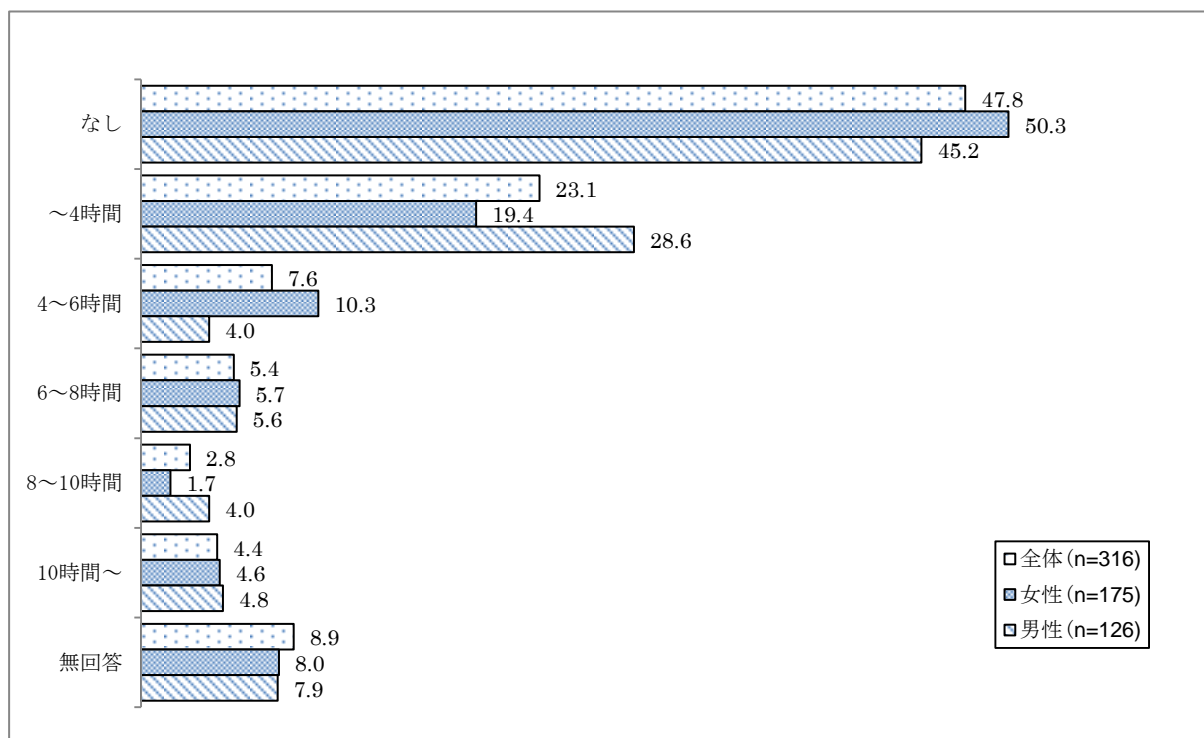
休日の仕事時間は、「なし」が女性は50.3%、男性は45.2%となっており、女性の方が5.1ポイント高くなっています。次いで「4時間未満」が女性は19.4%、男性は28.6%となっており、男性が9.2ポイント高くなっています。

<全体・性別>

仕事に要する平均時間【平日】



仕事に要する平均時間【休日】



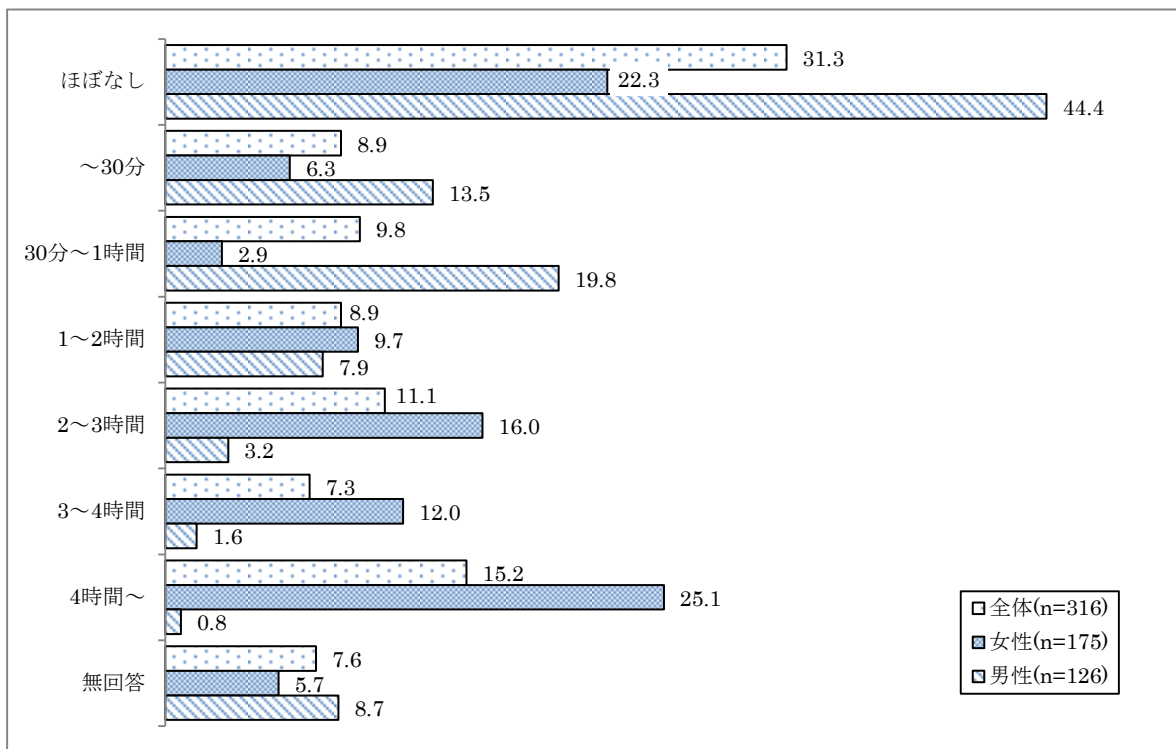
【家事】（育児・介護等を含む）

平日の家事時間は、女性「2時間以上」が53.1%に対し、男性「1時間未満」が77.7%となっています。

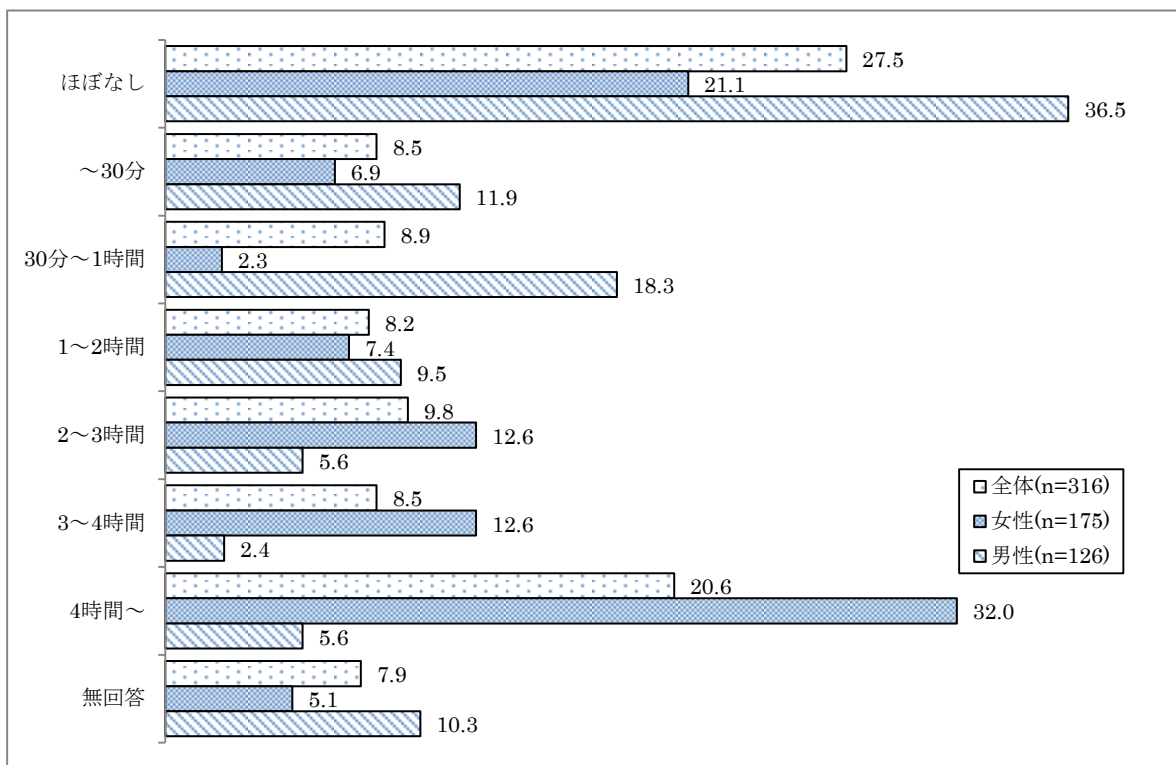
休日の家事時間は、女性「2時間以上」が57.2%、「1時間未満」が30.3%となっているのに対し、男性は、「1時間未満」が66.7%、「2時間以上」が13.6%となっています。

<全体・性別>

家事に要する平均時間【平日】



家事に要する平均時間【休日】



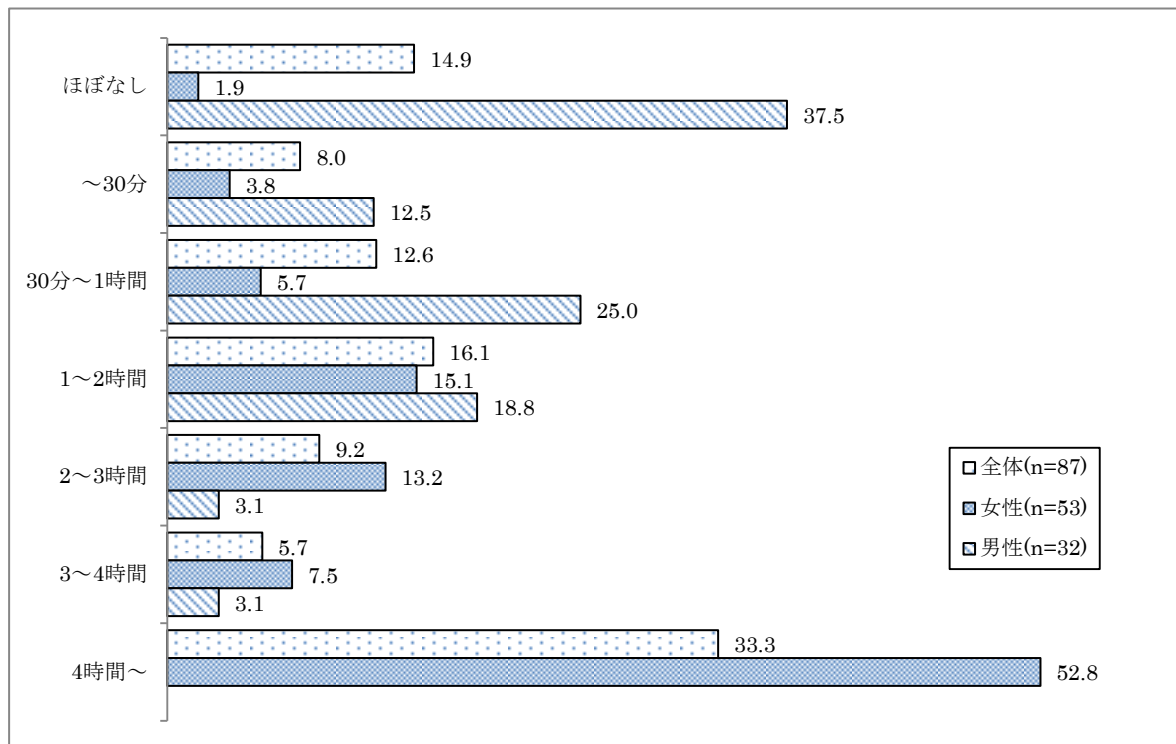
【子育て】（中学生以下の子どもがいる世帯）

平日の子育てに要する時間は、女性は「4時間以上」が52.8%、「1時間～2時間未満」が15.1%となっています。男性は「ほとんどない」が37.5%、「30分～1時間未満」が25.0%となっています。

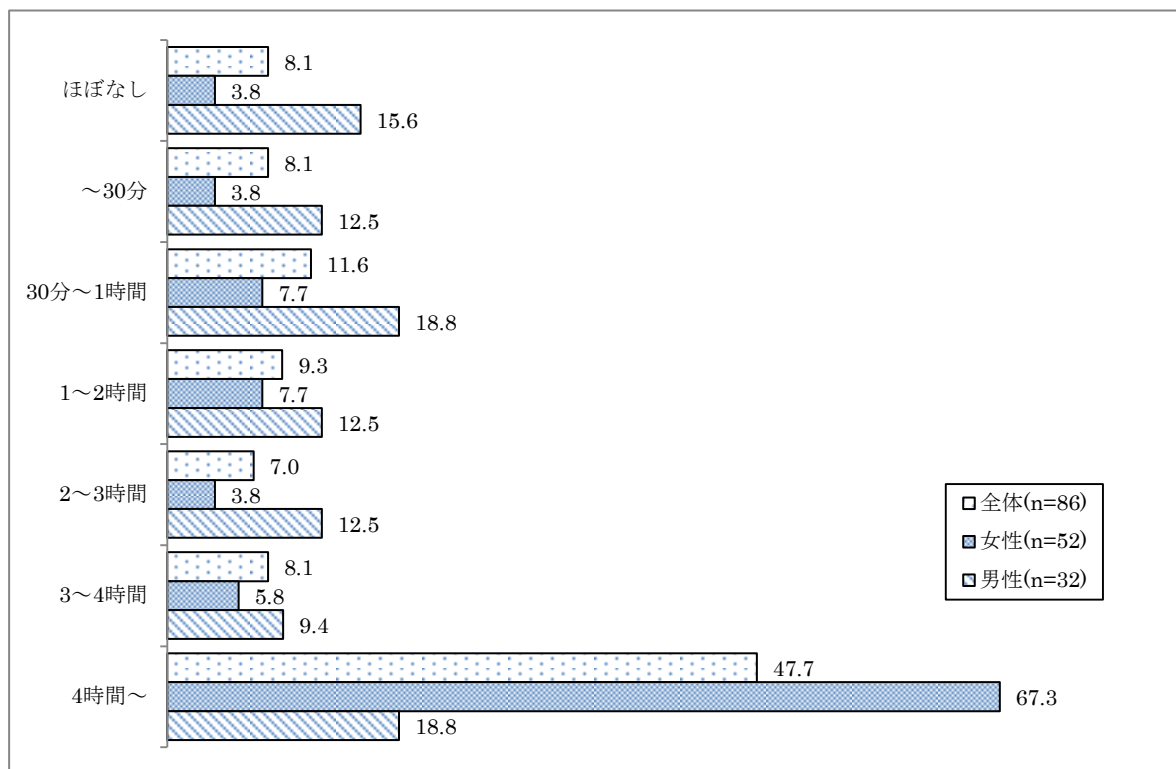
休日の子育てに要する時間は、女性は「4時間以上」が67.3%、「2時間未満」が15.4%となっています。男性は「4時間以上」と「30分～1時間未満」がともに18.8%となっています。

<全体・性別>

子育てに要する平均時間【平日】



子育てに要する平均時間【休日】



4 就労について

<全員の方にお聞きします。>

問5. 女性が仕事に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。

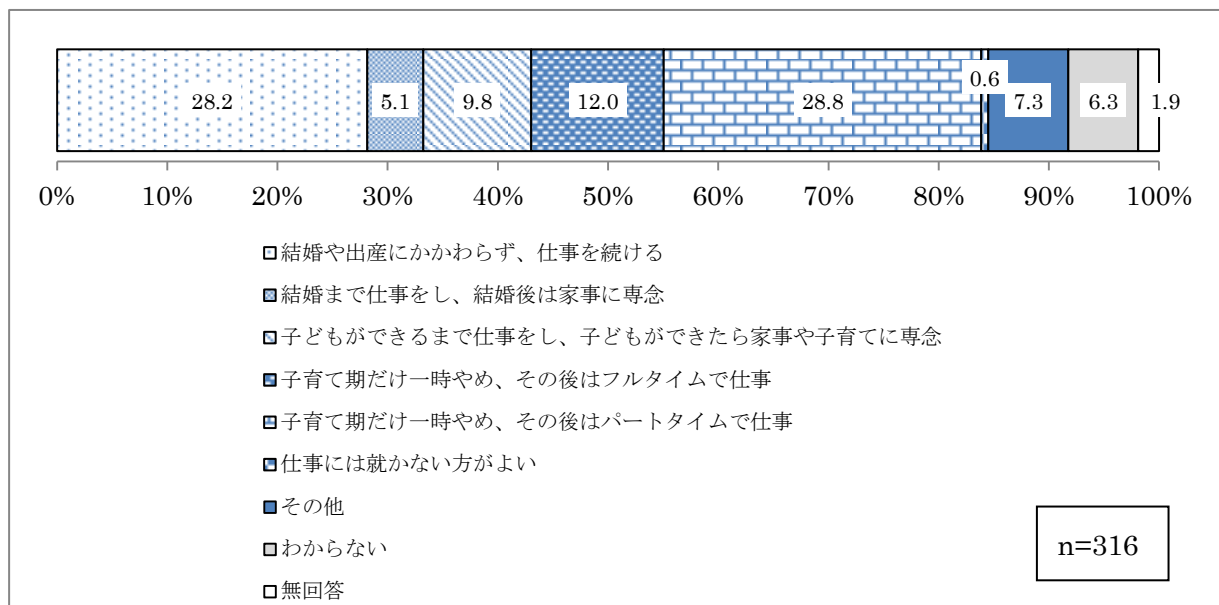
(○は1つだけ)

全体では、「子育て期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をする方がよい」が28.8%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、仕事をする方がよい」が28.2%となっています。

女性全体では「結婚や出産にかかわらず、仕事をする方がよい」が29.1%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をする方がよい」が33.1%に対し、男性全体では「結婚や出産にかかわらず、仕事をする方がよい」が26.2%、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をする方がよい」が22.2%と、どちらも女性が男性を上回っています。

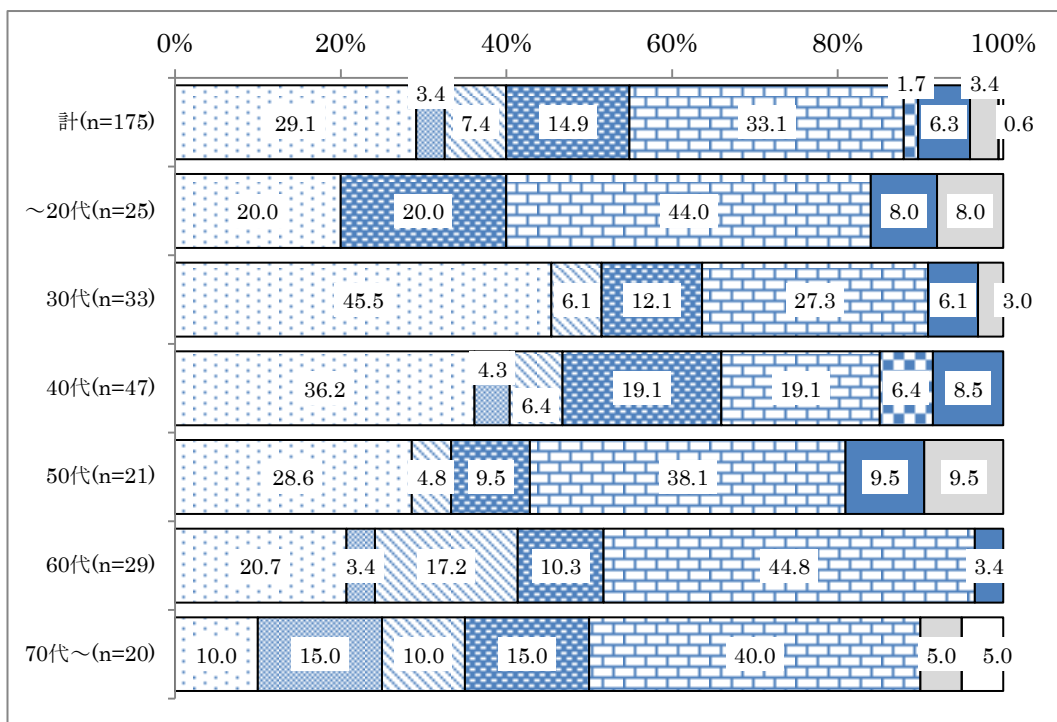
性別・年代別でみると、女性では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をする方がよい」は「30代」から「50代」が約3～4割、「結婚や出産にかかわらず、仕事をする方がよい」が「40代」をのぞくすべての年代で約3～4割となっています。男性では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事をする方がよい」は「～20代」から「40代」と「60代」で約2～3割、「結婚や出産にかかわらず、仕事をする方がよい」が「50代」は約4割、「～20代」から「40代」と「60代」は約2～3割となっています。

<全体>

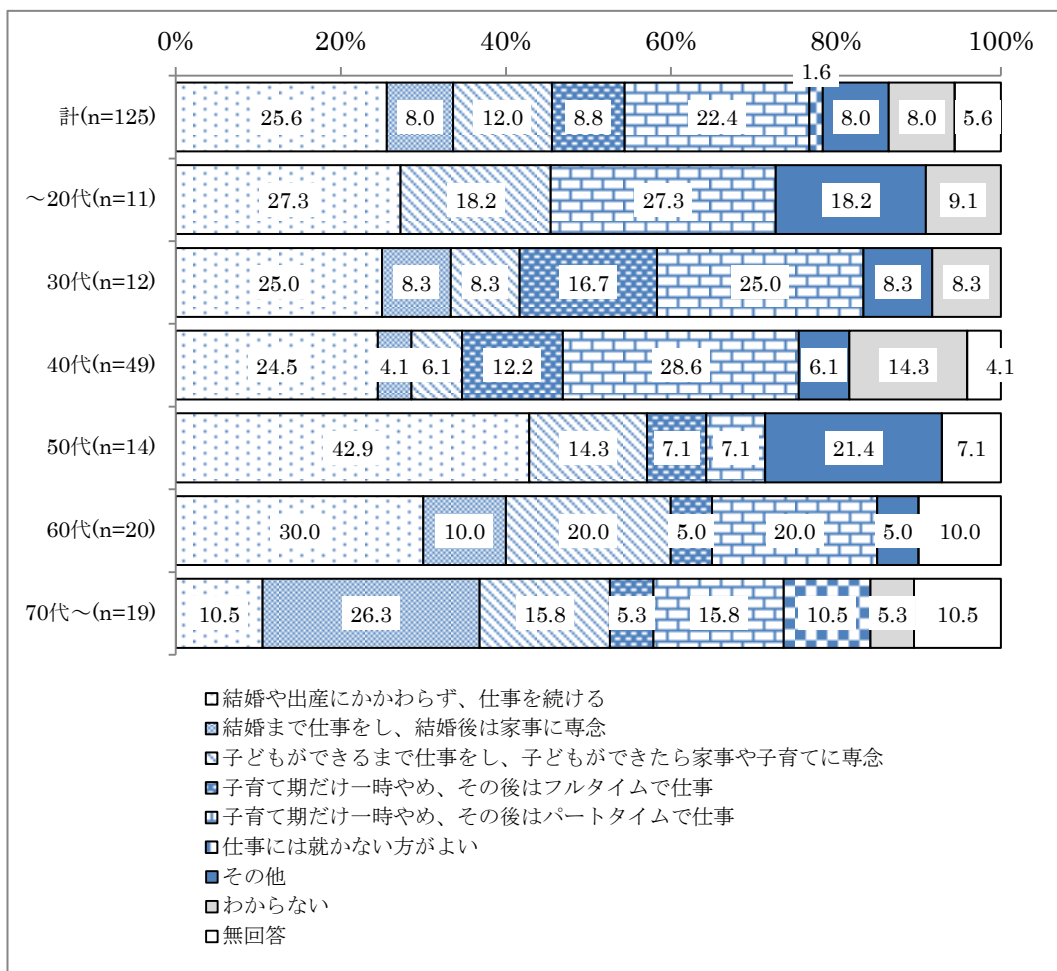


<性別・年代別>

【女性】



【男性】



<現在仕事をしている方にお聞きします>

問6. あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

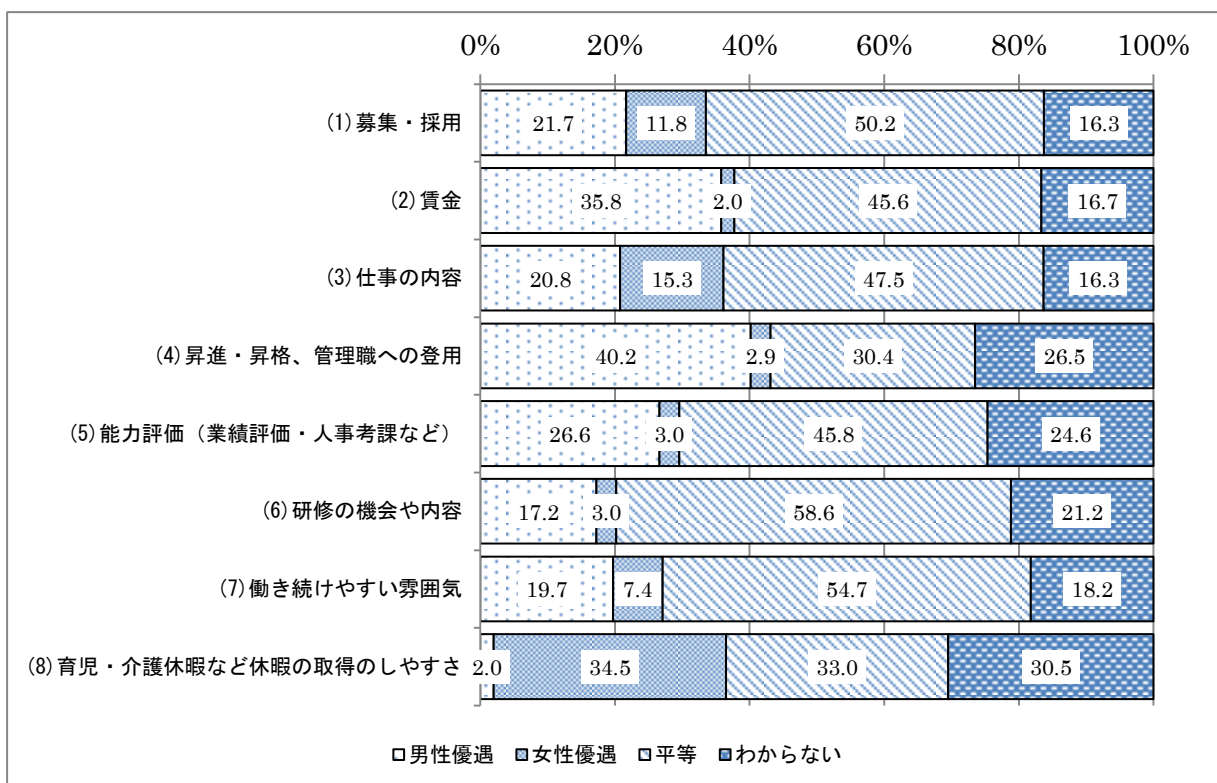
全体では「男性優遇」が、「(4)昇進・昇格、管理職への登用」で40.2%と最も高く、次いで「(2)賃金」で35.8%となっています。

また、「女性優遇」が、「(8)育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」で34.5%となっています。

「平等」は「(1)募集・採用」、「(6)研修の機会や内容」、「(7)働き続けやすい雰囲気」がそれぞれ5割を超えています。

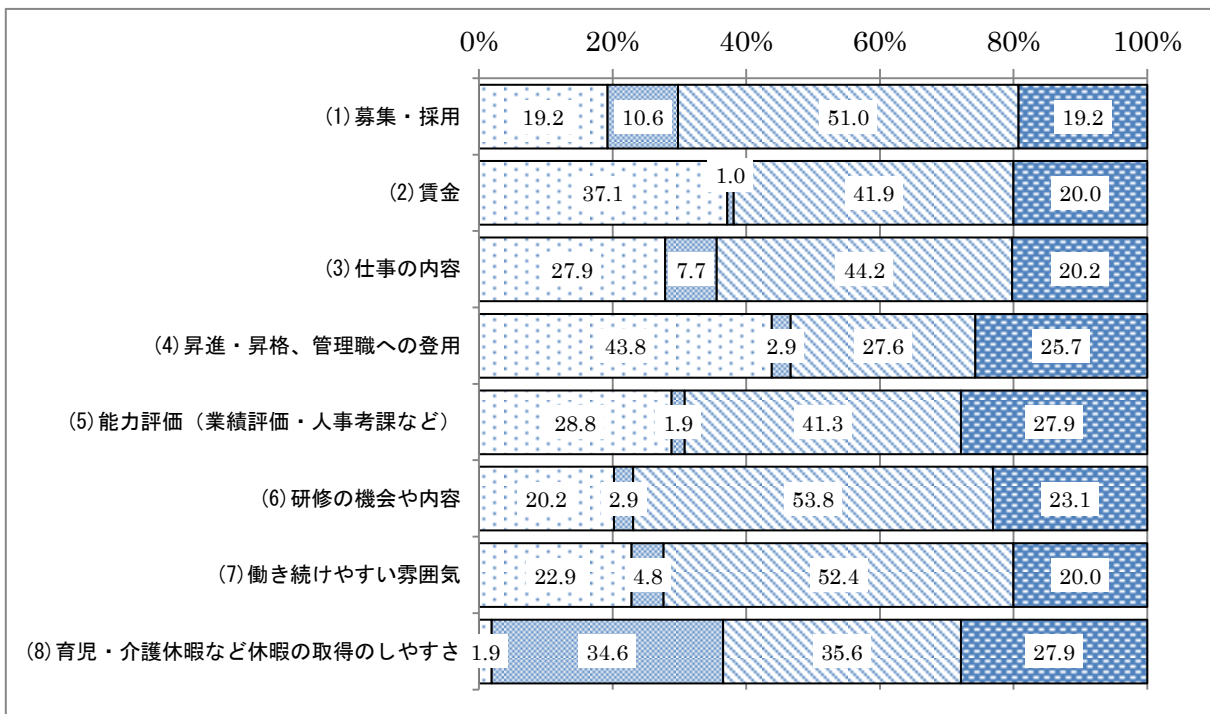
性別でみると、女性では「男性優遇」が「(4)昇進・昇格、管理職への登用」で43.8%、次いで「(2)賃金」で37.1%となっています。男性でも「男性優遇」が「(4)昇進・昇格、管理職への登用」と「(2)賃金」で高くなっていますが、女性よりもポイントは少なくなっています。

<全体>

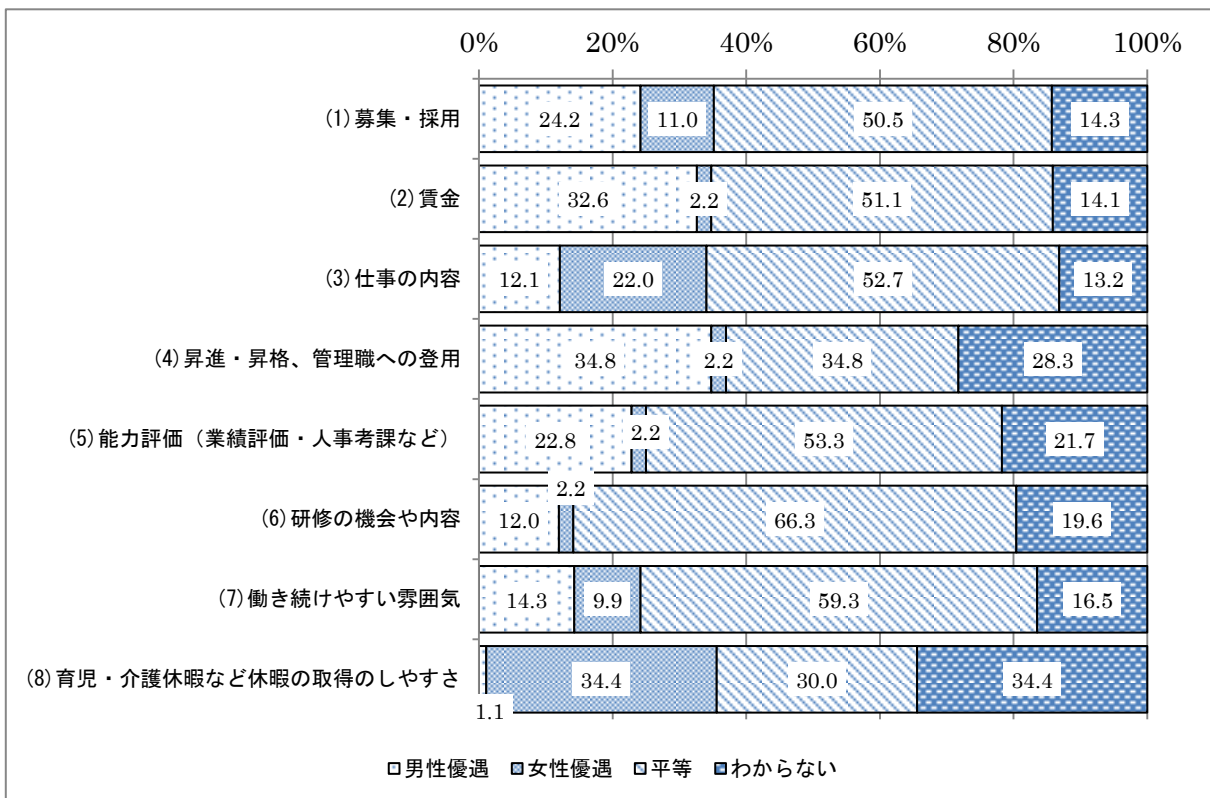


<性別>

【女性】



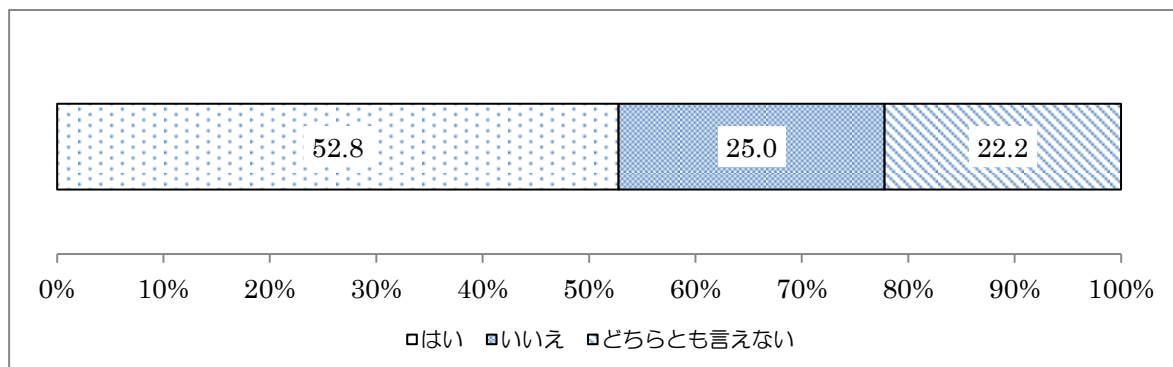
【男性】



＜64歳以下の女性の方で、現在、家事専業または、無職の方(学生は除く)にお聞きします。＞

問7. あなたは今後働きたいとお考えですか。あてまるものの番号を1つだけ選んでください。

今後働きたいかどうかについては、「はい」が52.8%と最も高く、「いいえ」が25.0%、「どちらとも言えない」が22.2%となっている。

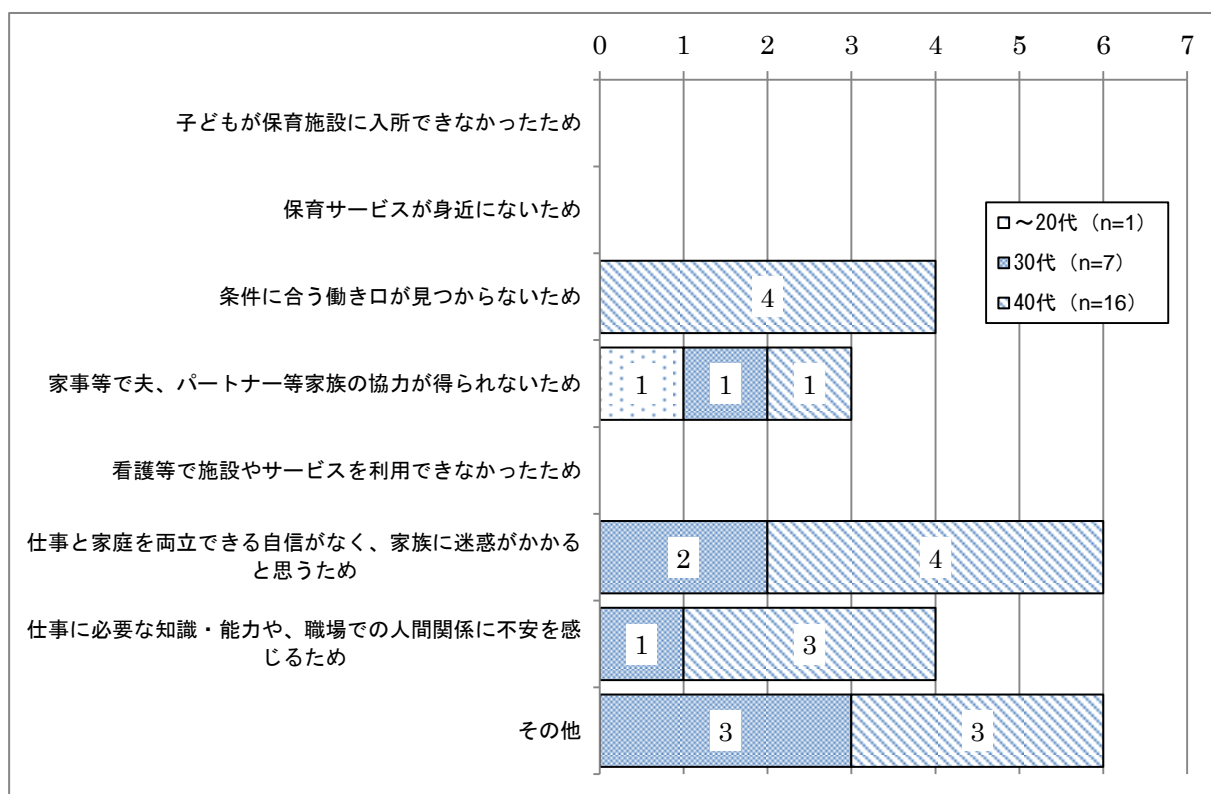


(n=36)

＜問7で「1」と回答した方にお聞きします。＞

問7-1. 今後は働きたいけれども、現在働くことができない理由はなんですか。
あてはまるものの番号をすべて選んでください。(〇はいくつでも)

現在働けない理由を実数でみると、「仕事と家庭を両立できる自信がなく、家族に迷惑がかかると思うため」が最も多く、次いで「仕事内容、勤務場所、勤務時間等の条件に合う働き口が見つからないため」と「仕事に必要な知識・能力や職場での人間関係に不安を感じるため」となっています。



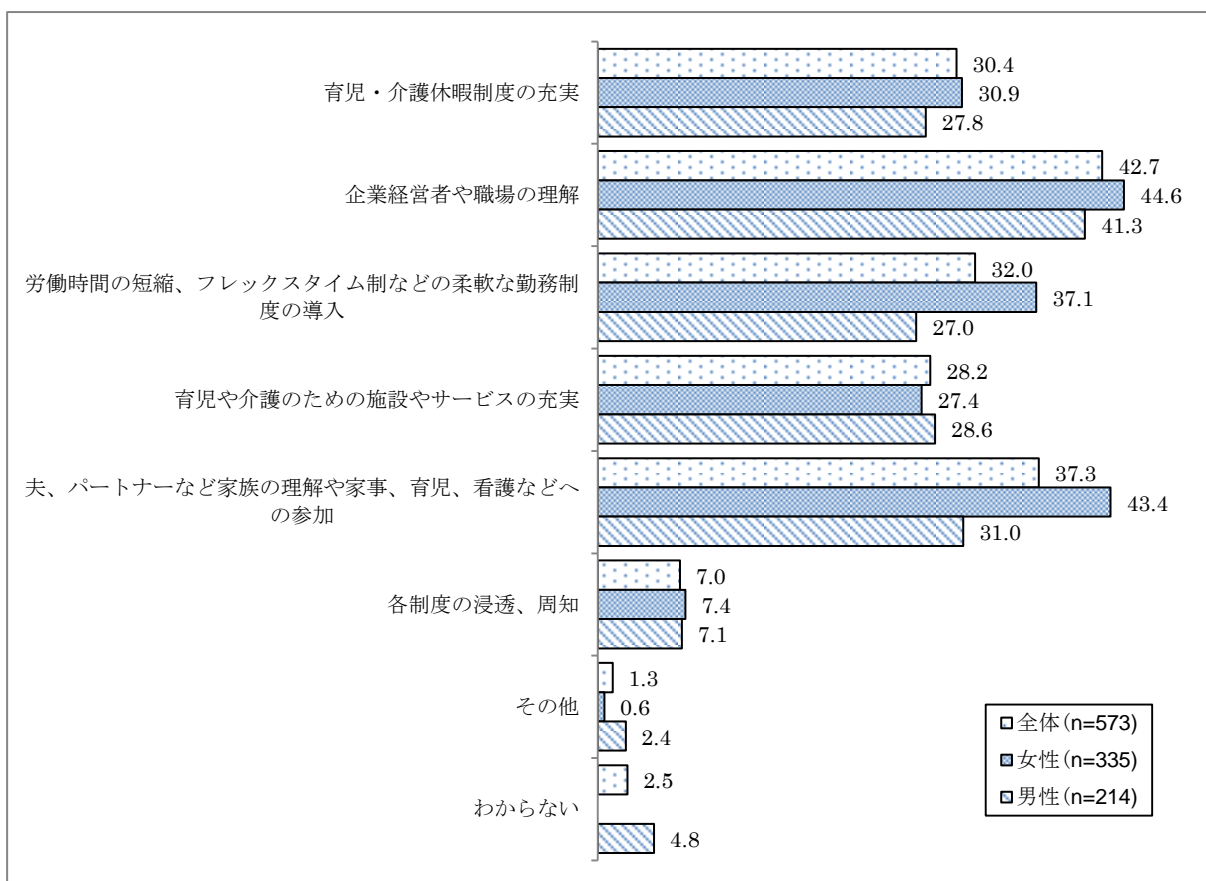
＜全員の方にお聞きします。＞

問8. 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

全体では、「企業経営者や職場の理解」が42.7%と最も高く、次いで「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」が37.3%となっています。

性別では、「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」が女性は43.4%に対し、男性は31.0%、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が女性は37.1%、男性は27.0%となっており、それぞれ約10ポイント差があります。

＜全体・性別＞

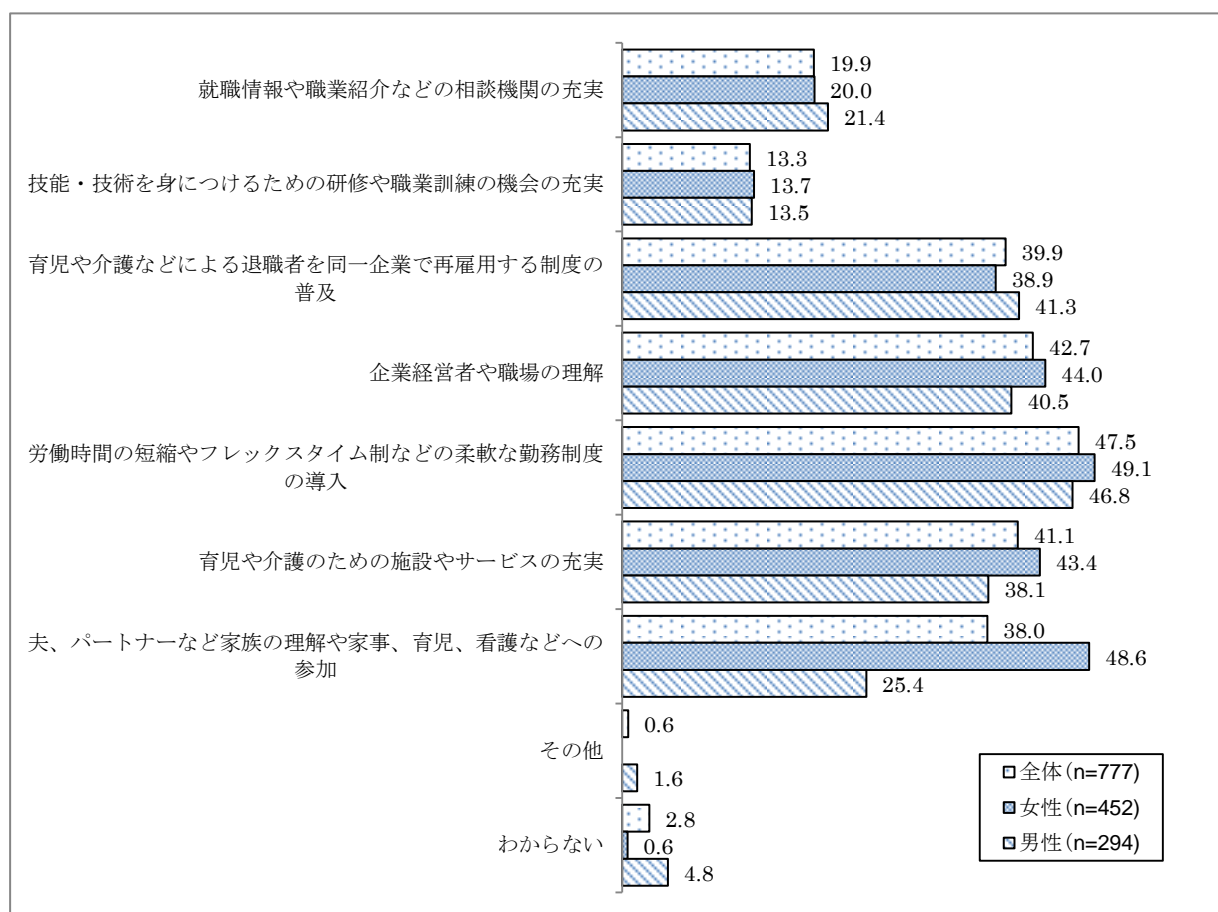


問9. 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が47.5%と最も高く、次いで「企業経営者や職場の理解」が42.7%となっています。

性別では「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が男女ともに最も高く、女性 49.1%、男性 46.8%となっています。一方「夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加」については、女性 48.6%、男性 25.4%と23.2ポイント差があります。

<全体・性別>



5 仕事と生活の調和について

<現在仕事をしている方にお聞きします。>

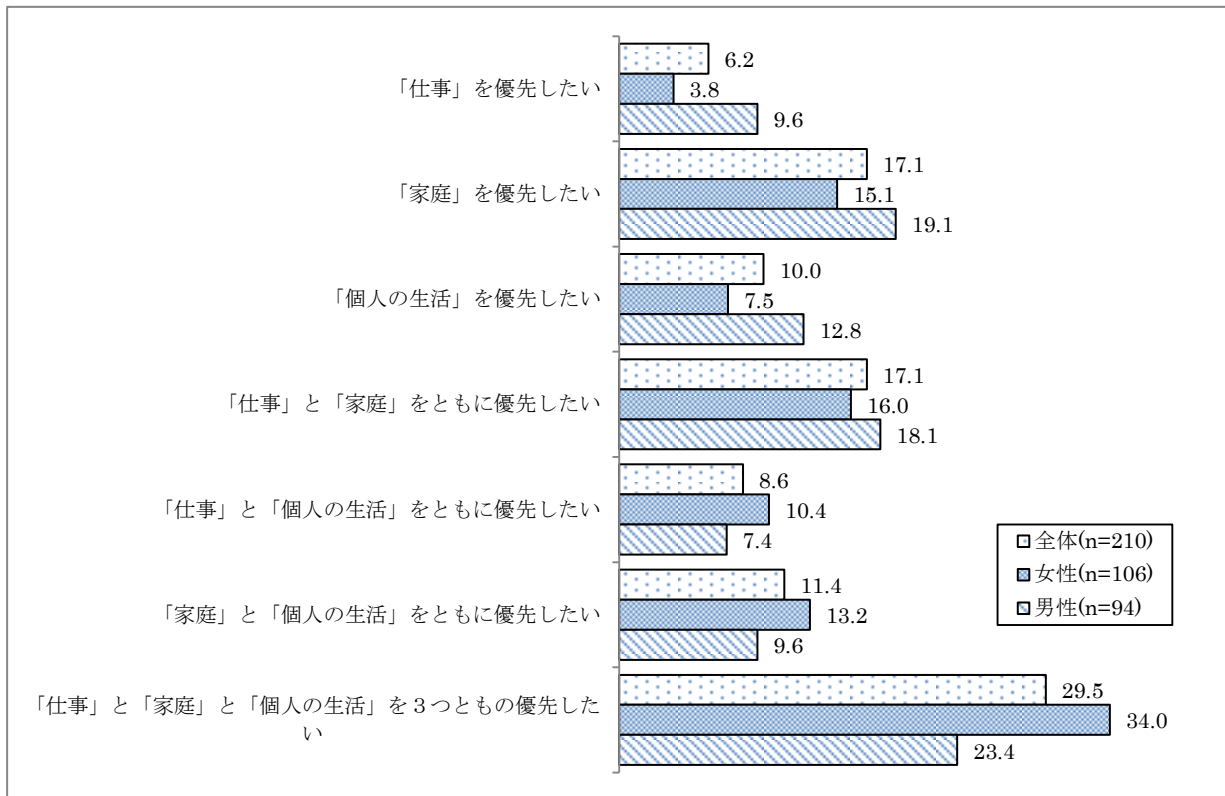
問10. あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭」、「個人の生活」の3つのうち何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

(1) 希望として（○は1つだけ）

全体では《「仕事」と「家庭」と「個人の生活」の3つとも優先したい》が29.5%と最も高く、次いで《「家庭」を優先したい》と《「仕事」と「家庭」をともに優先したい》が、ともに17.1%となっています。

性別では、女性は《「仕事」と「家庭」と「個人の生活」を優先したい》が最も高く34.0%、次いで《「仕事」と「家庭」を優先したい》が16.0%となっています。男性は《「仕事」と「家庭」と「個人の生活」の3つとも優先したい》が23.4%、次いで《「家庭」を優先したい》が19.1%となっています。《「仕事」「家庭」「個人の生活」を優先したい》については、女性が男性より10.6ポイント高くなっています。

<全体・性別>



(2) 現実（現状）として（〇は1つだけ）

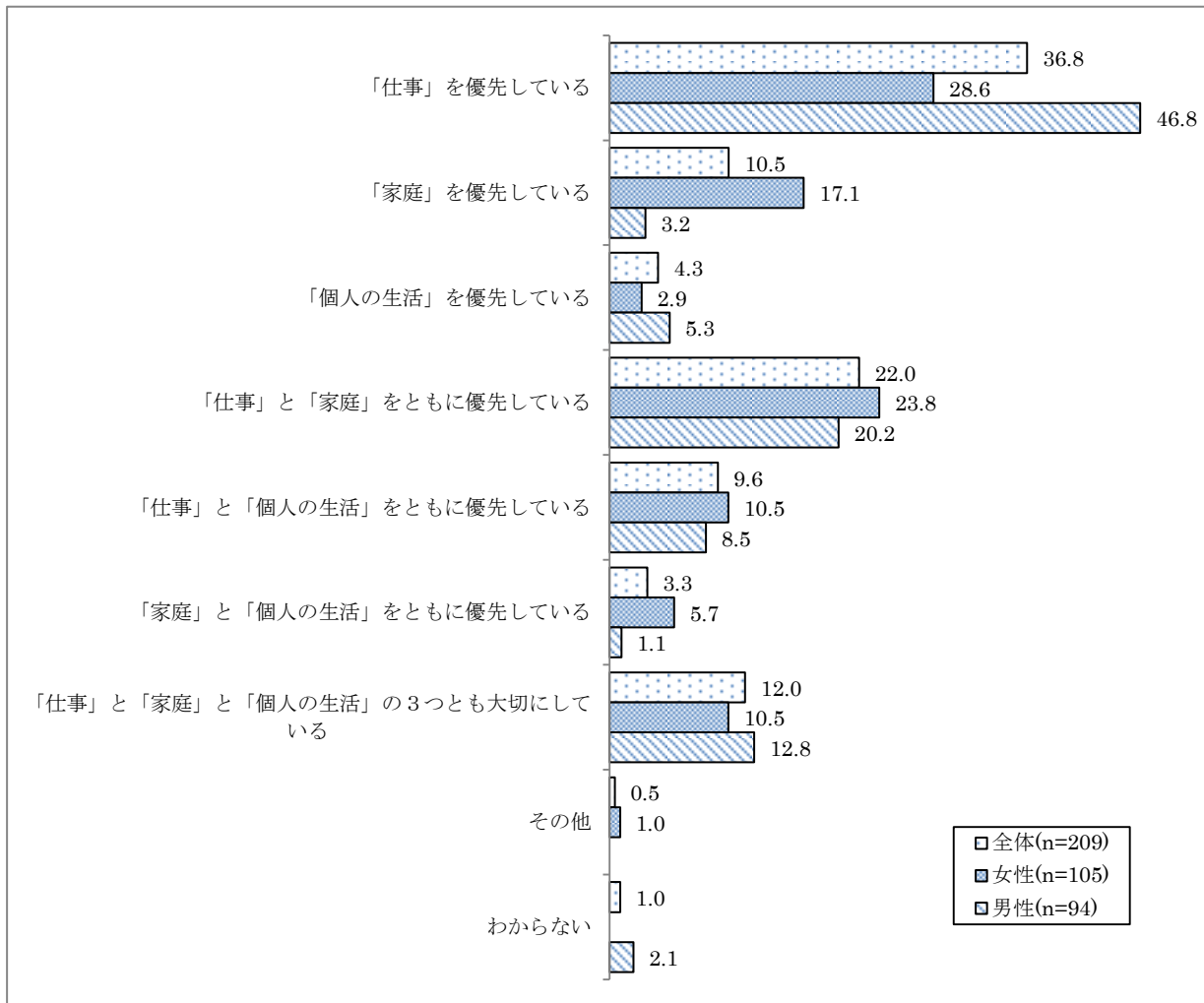
全体では《「仕事」を優先している》が36.8%と最も高く、次いで《「仕事」と「家庭」をともに優先している》が22.0%となっています。

《「仕事」を優先している》は、女性が28.6%に対し、男性は46.8%と、男性が女性を大きく上回っており、《「家庭」を優先している》は、女性が17.1%に対し、男性は3.2%と女性が男性を大きく上回っています。

希望と現実（現状）の比較

希望では《「仕事」と「家庭」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい》が29.5%と最も高くなっているのに対し、現実（現状）では、《「仕事」を優先している》が36.8%と最も高くなっており、希望と現実（現状）にギャップが生じています。

<全体・性別>

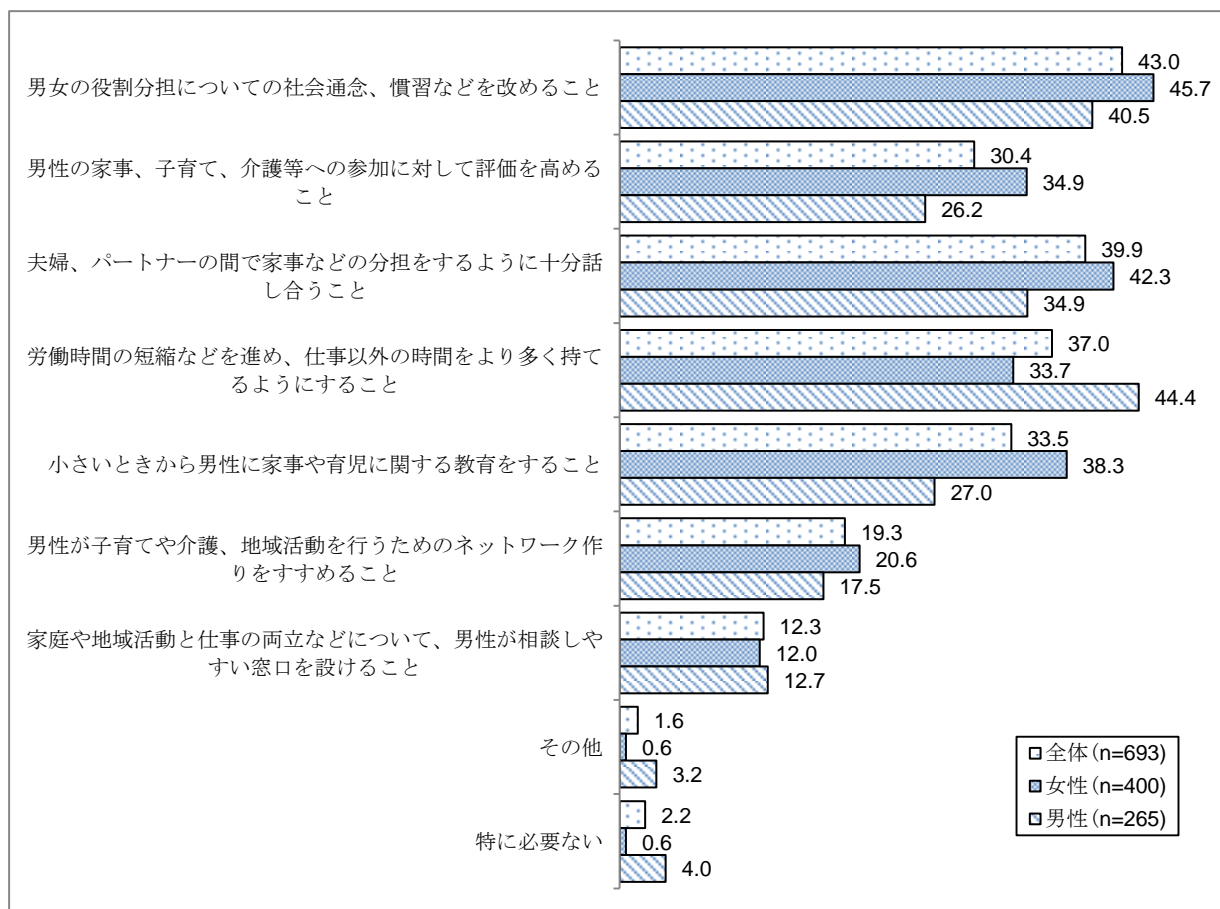


問11. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では「男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改めること」が43.0%と最も高く、次いで「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が39.9%、「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が37.0%となっています。

性別では、女性では「男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改めること」が45.7%と最も高く、次いで「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が42.3%となっています。男性では「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が44.4%と最も高く、次いで「男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改めること」が40.5%となっています。

<全体・性別>



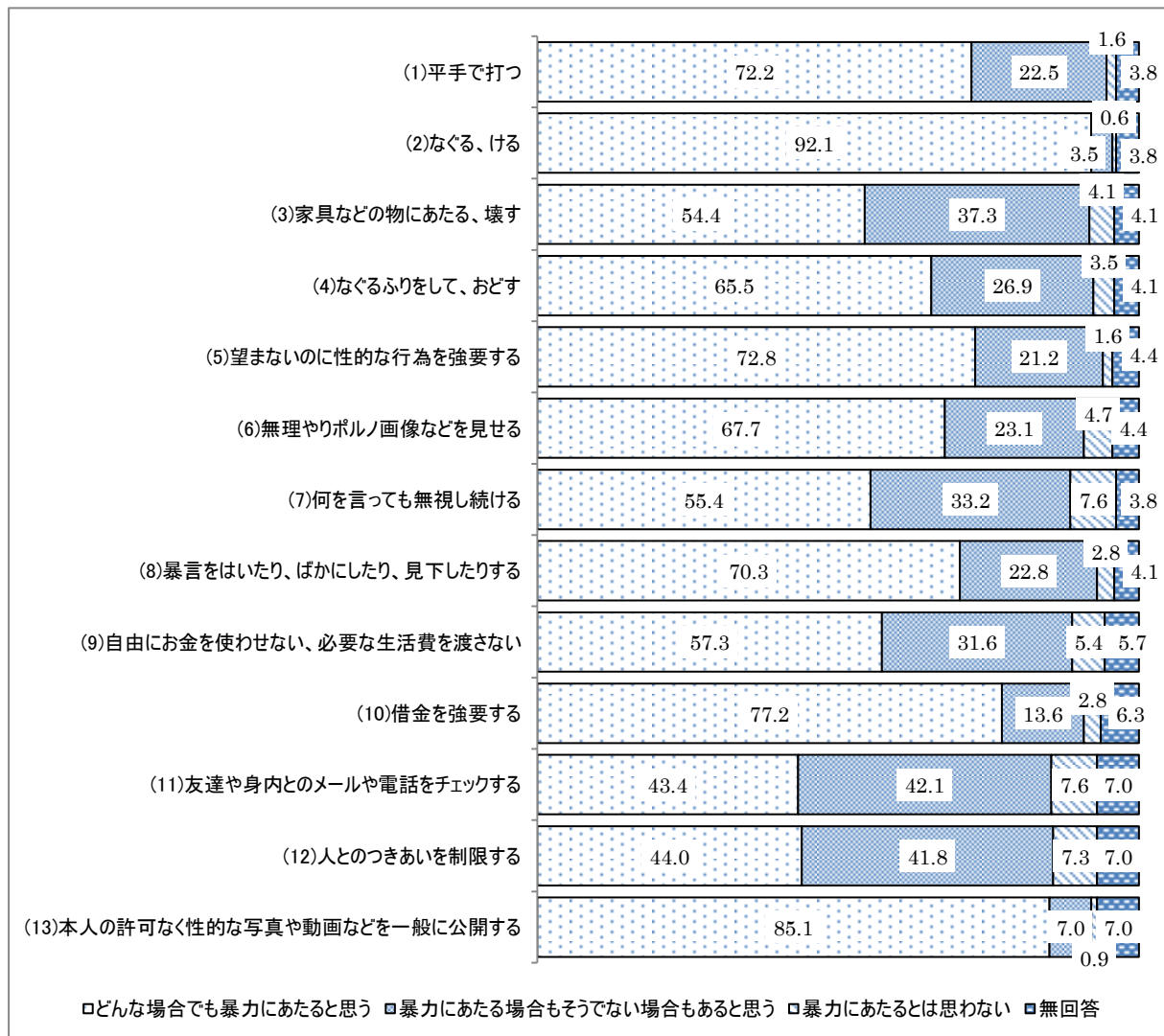
6 ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問12. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。

（○はそれぞれ1つずつ）

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「(2)なぐる、ける」は92.1%と最も高く、次いで「(13)本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する」が85.1%となっています。

<全体>

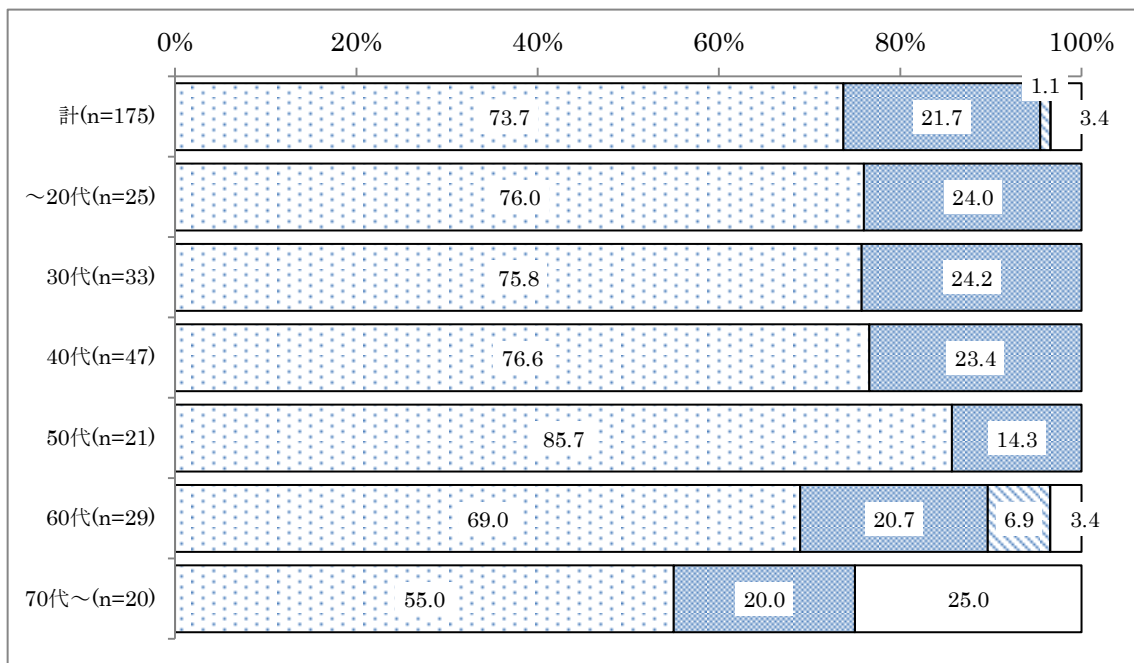


(1)平手で打つ

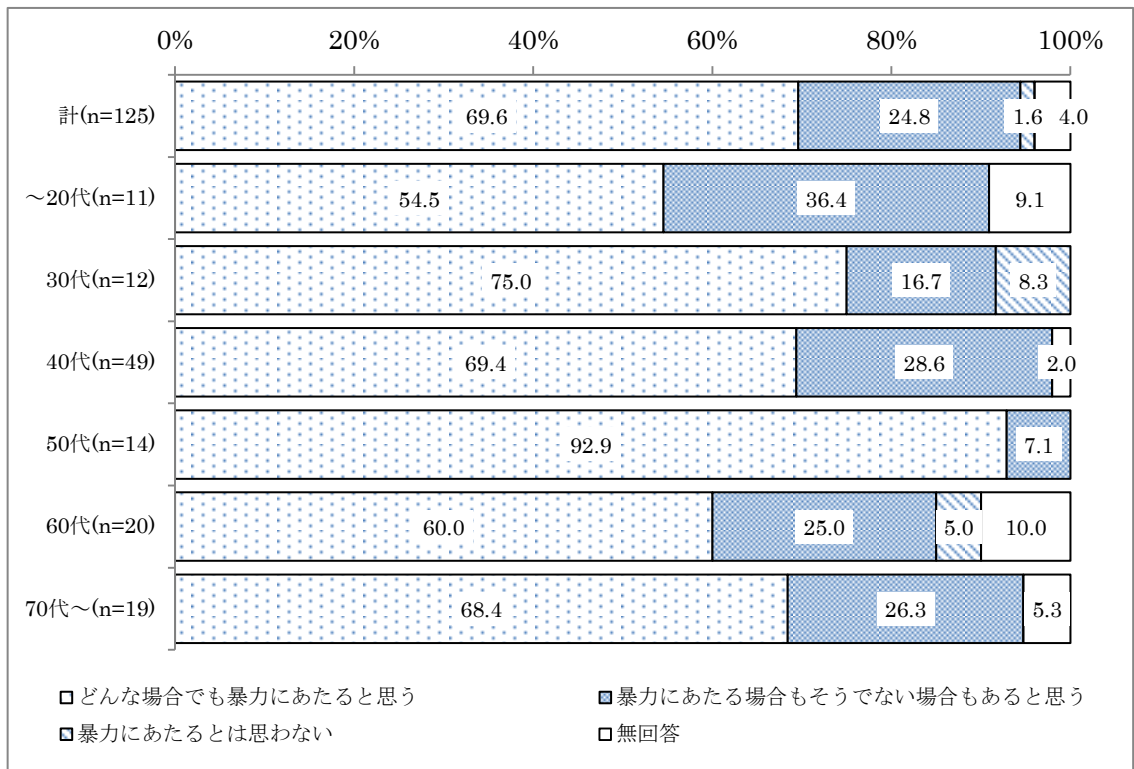
すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、「70代～」女性と「～20代」男性は5割台となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】

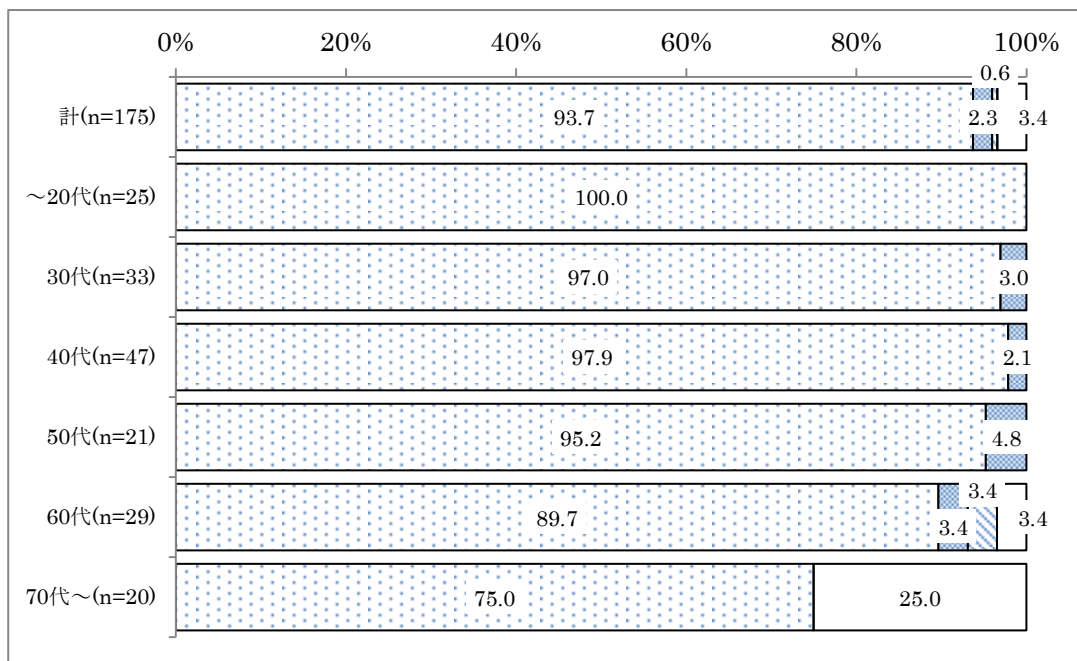


(2)なぐる、ける

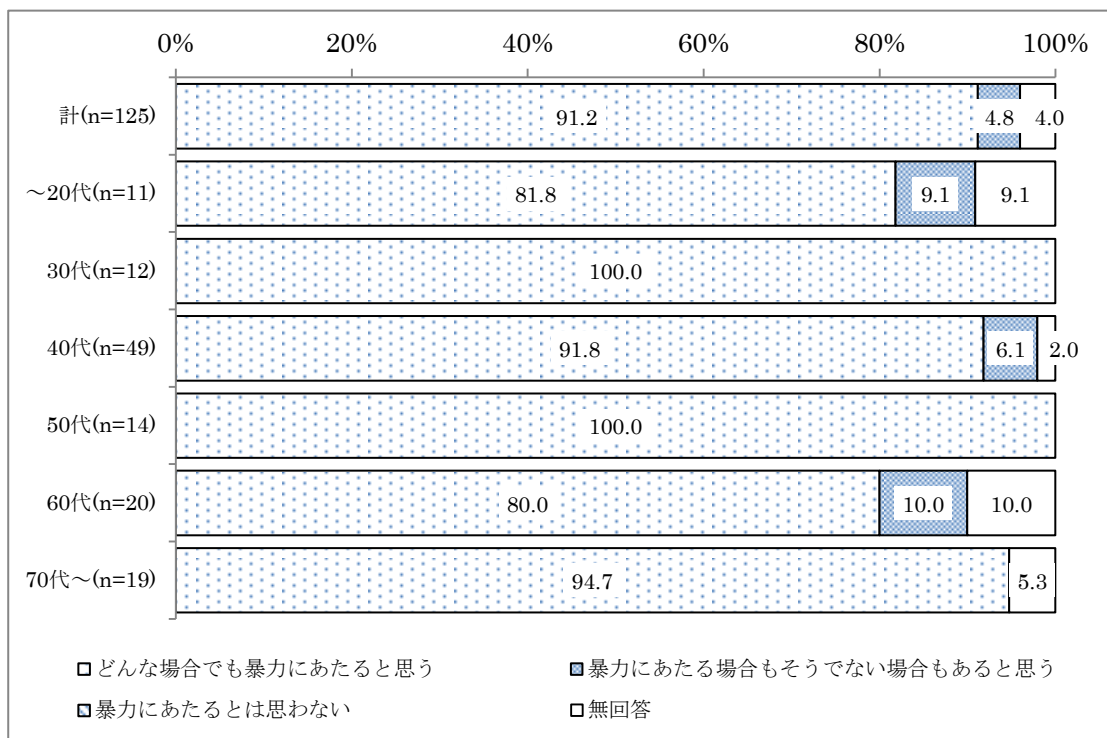
すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっており、男女で大きな差異はありませんでしたが、女性の「70代～」では、7割台となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】

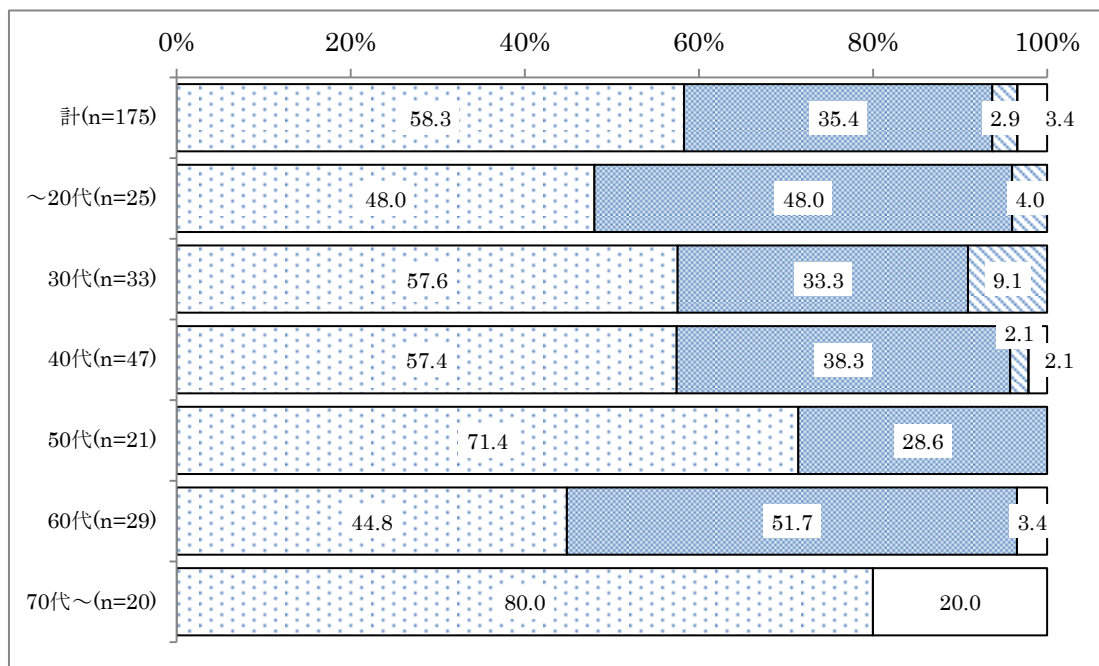


(3)家具などの物にあたる、壊す

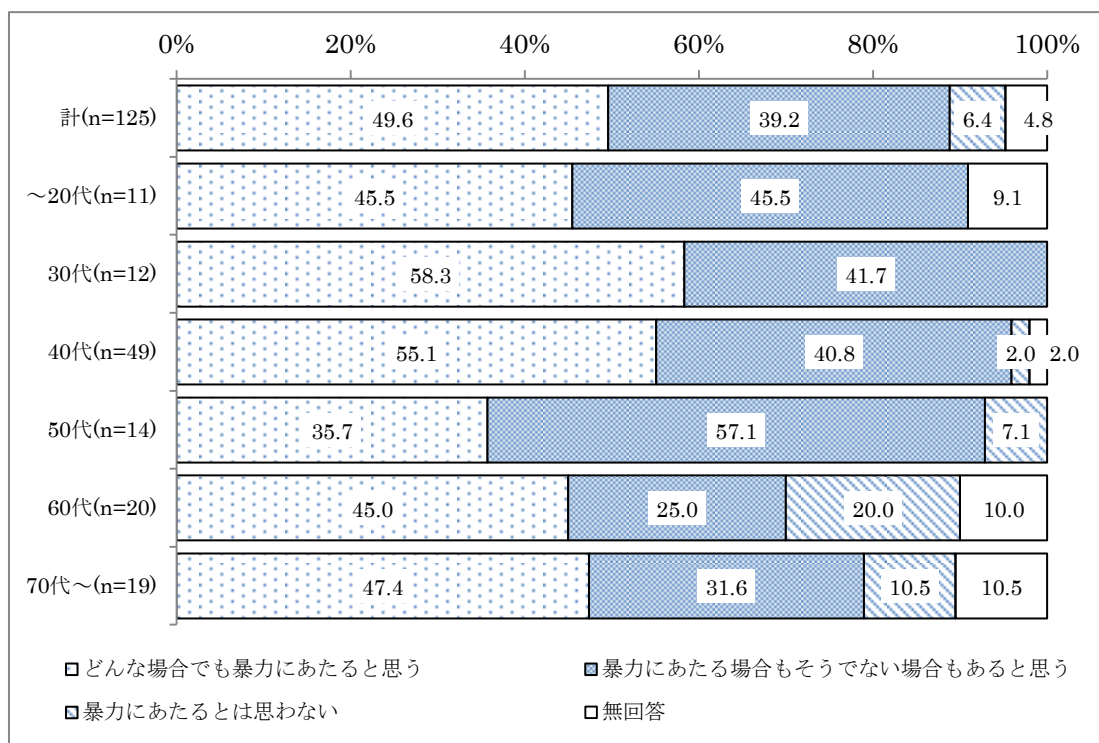
「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、「60代」女性と「50代」男性を除くすべての年代で最も高くなっており、性別では女性 58.3%、男性 49.6%と女性の方が8.7ポイント高くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



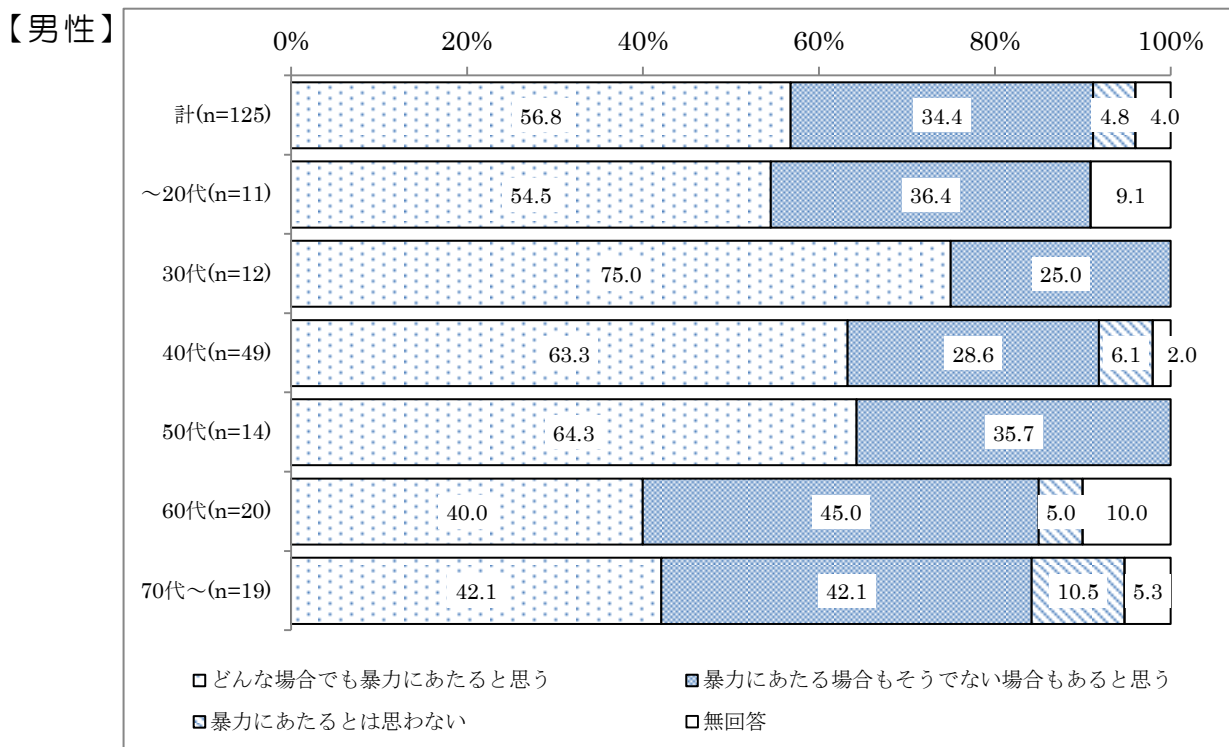
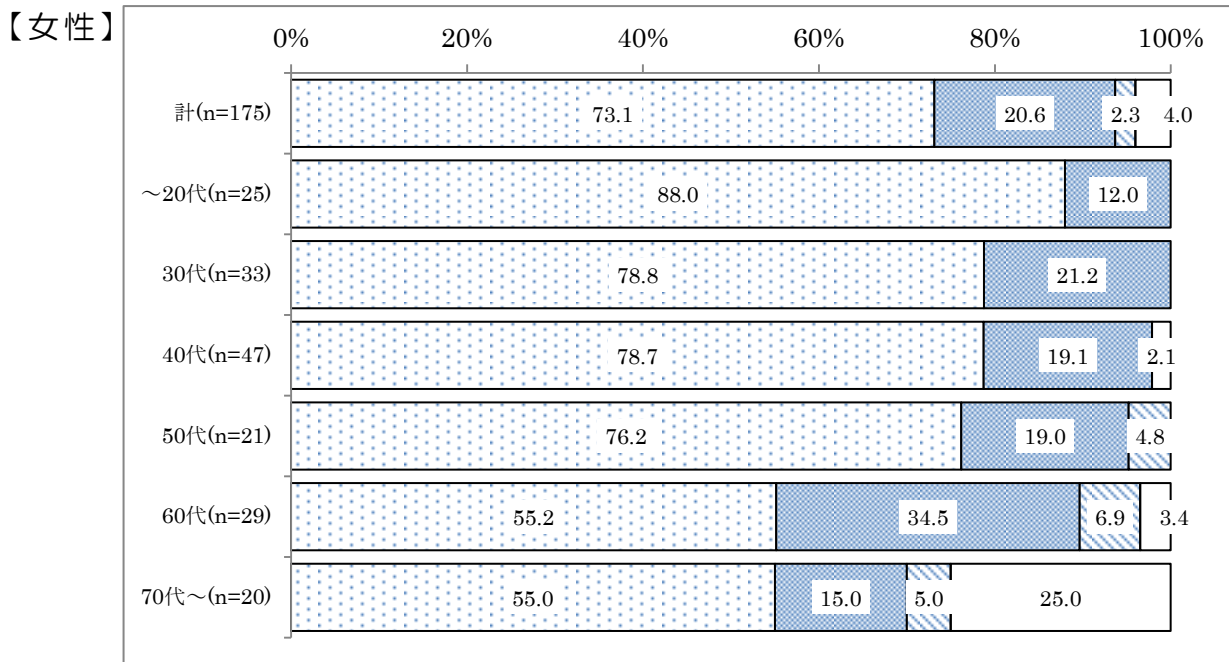
【男性】



(4)なぐるふりをして、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性ではすべての年代で最も高くなっており、男性では「60代」を除くすべての年代で最も高くなっています。また、性別では女性の方が13.8ポイント高くなっています。

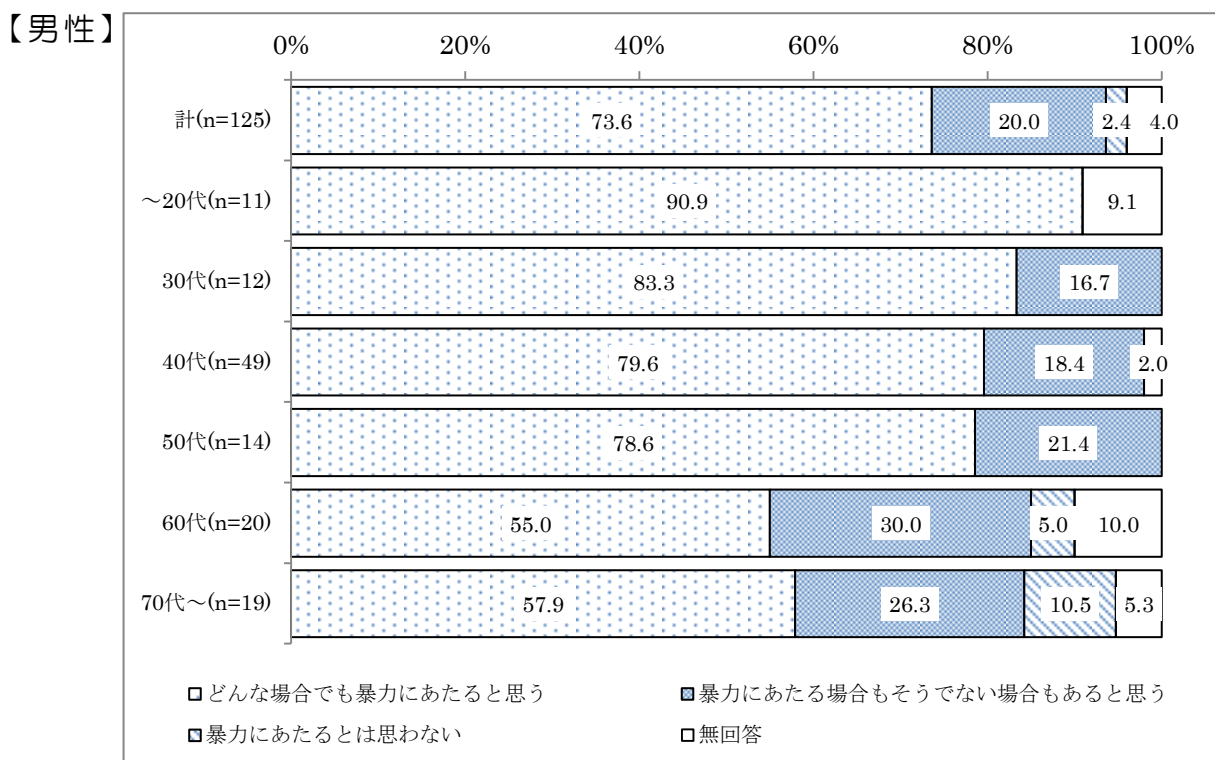
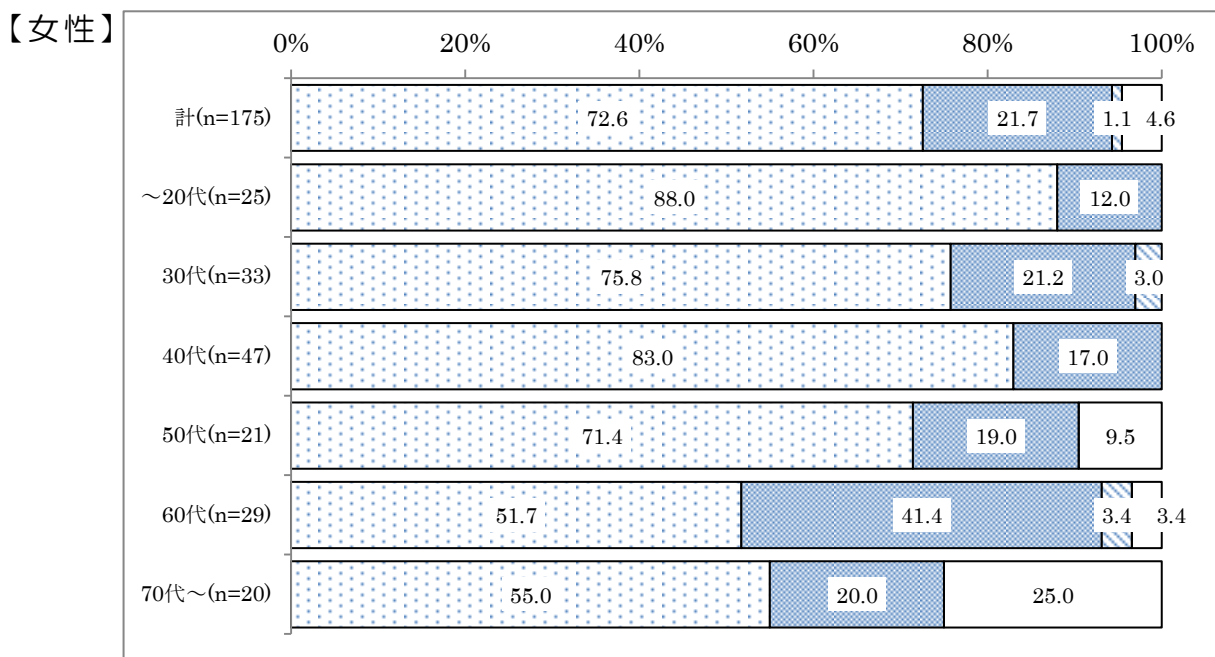
<性別・年代別>



(5)望まないのに性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、男女ともにすべての年代で最も高くなっていますが、男女ともに「60代」と「70代～」では5割台と他の年代に比べて低くなっています。

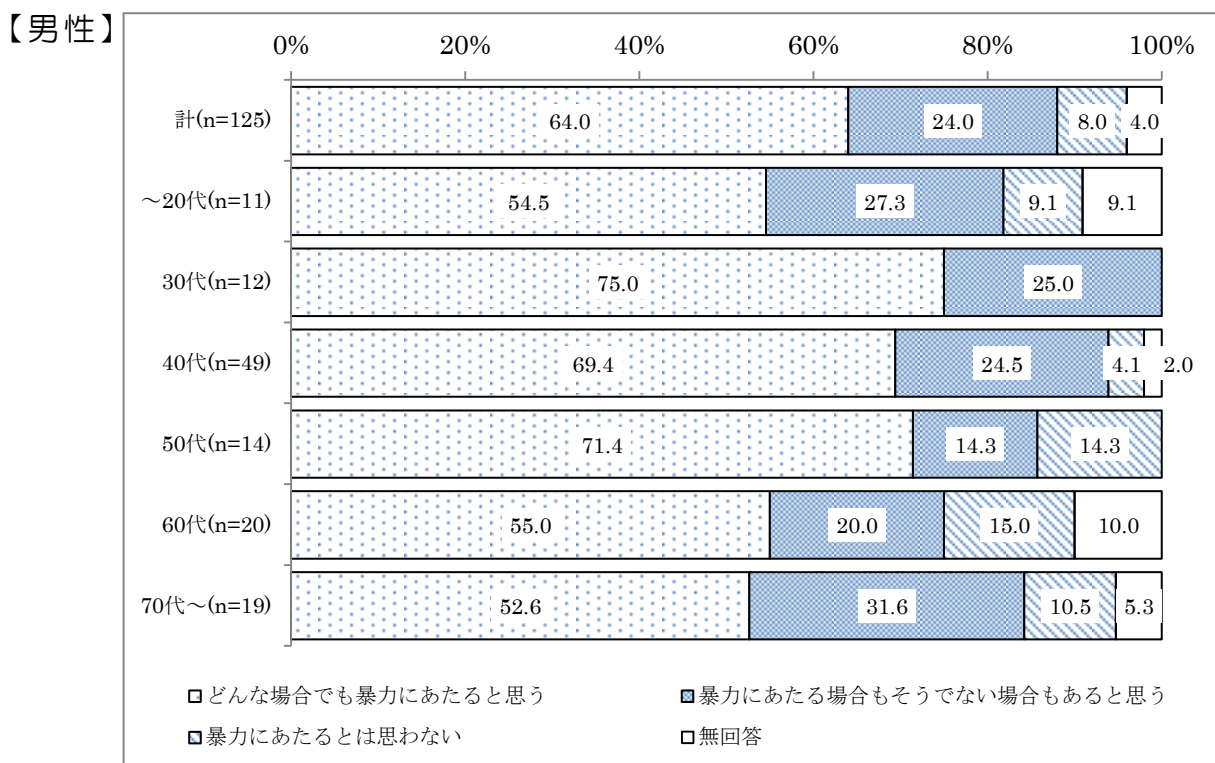
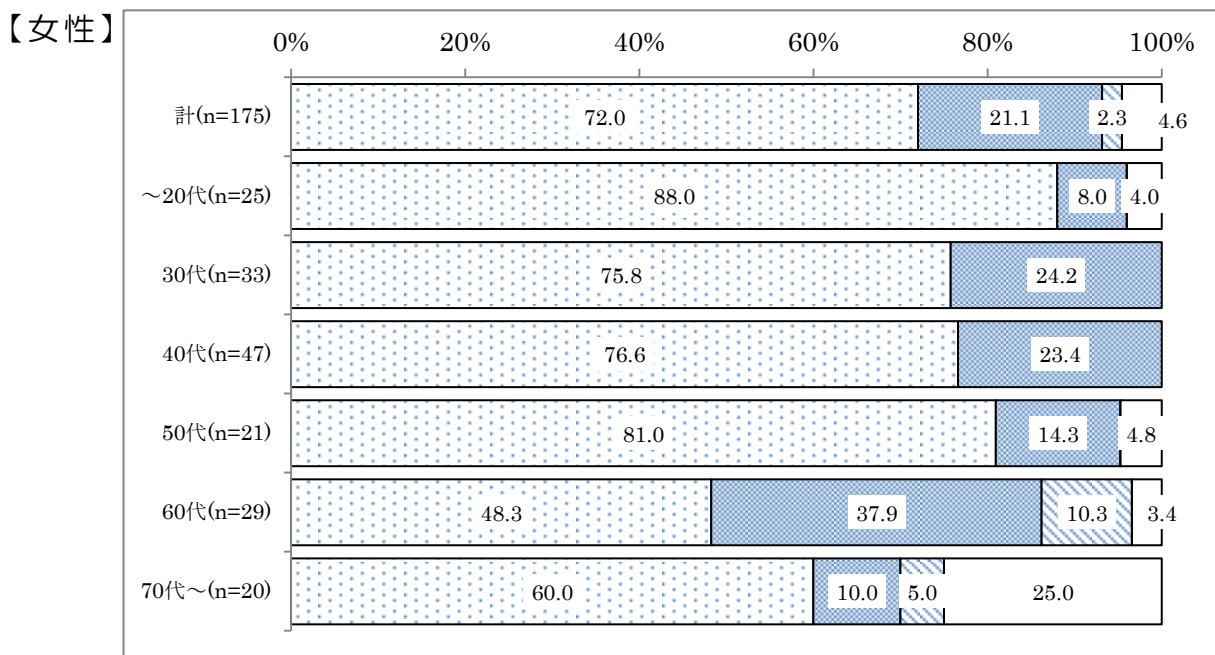
<性別・年代別>



(6)無理やりポルノ画像などを見せる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、男女ともにすべての年代で最も高くなっており、性別では女性 72.0%と男性 64.0%となっており、女性の方が 8.0 ポイント高くなっています。

<性別・年代別>

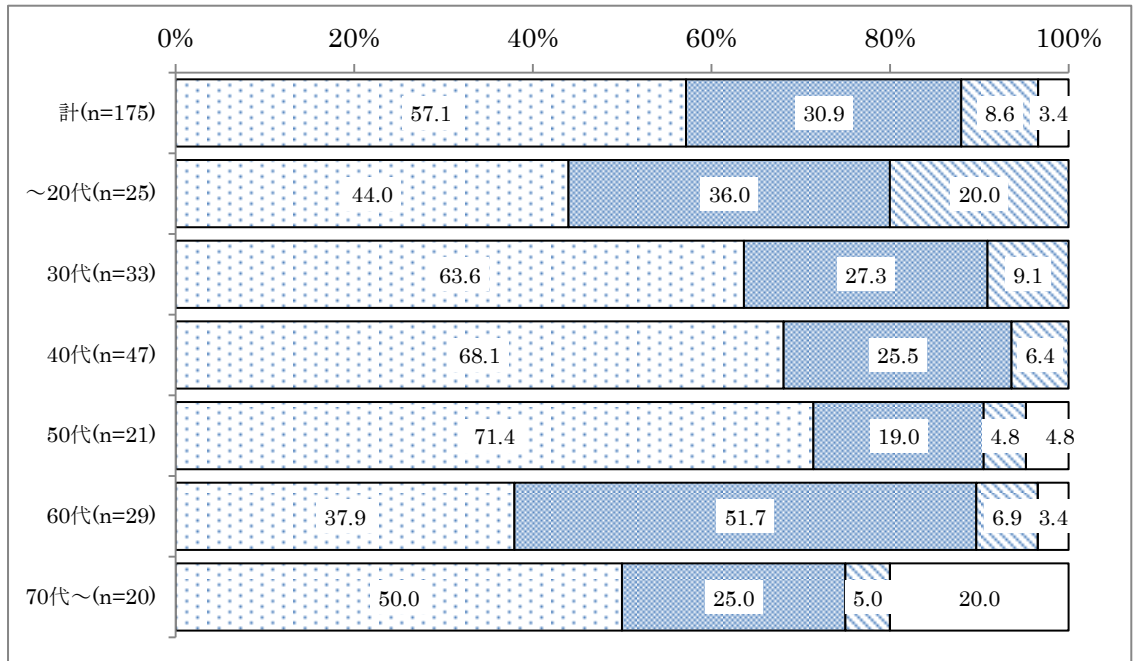


(7)何を言っても無視し続ける

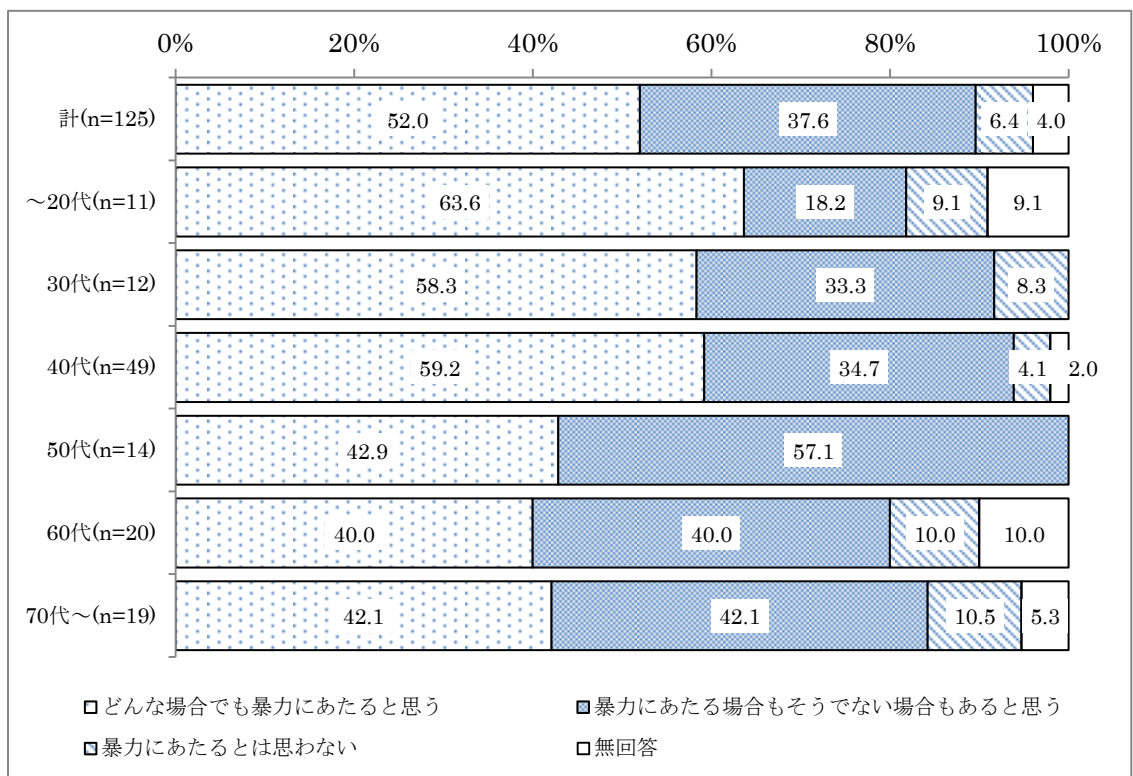
「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、「60代」女性、「50代」男性を除くすべての年代で最も高くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】

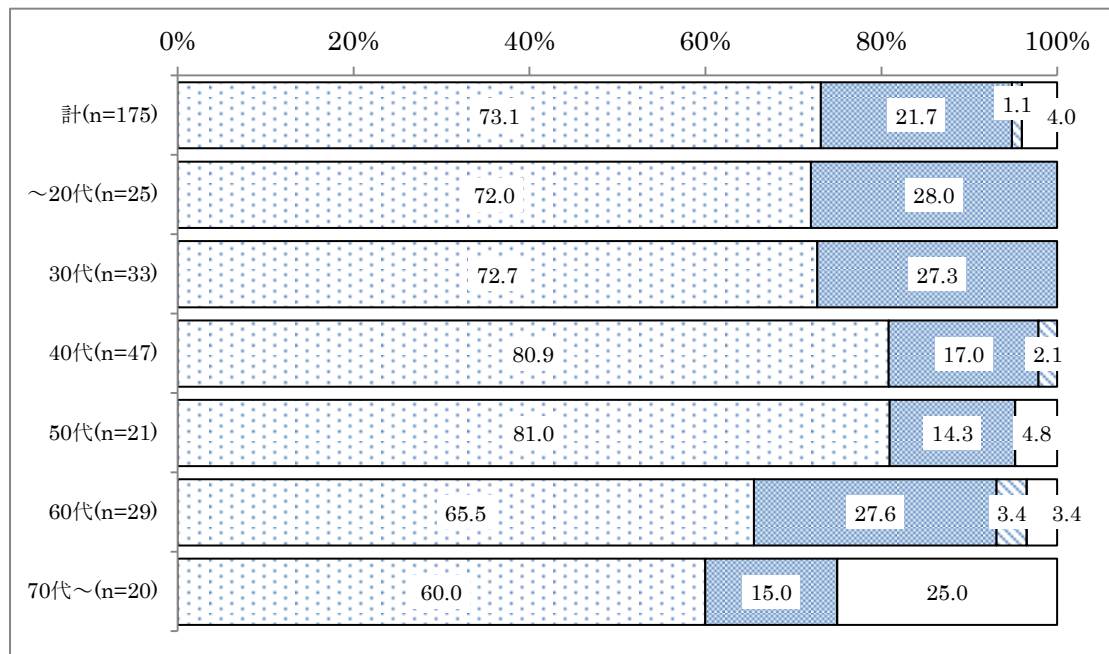


(8) 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする

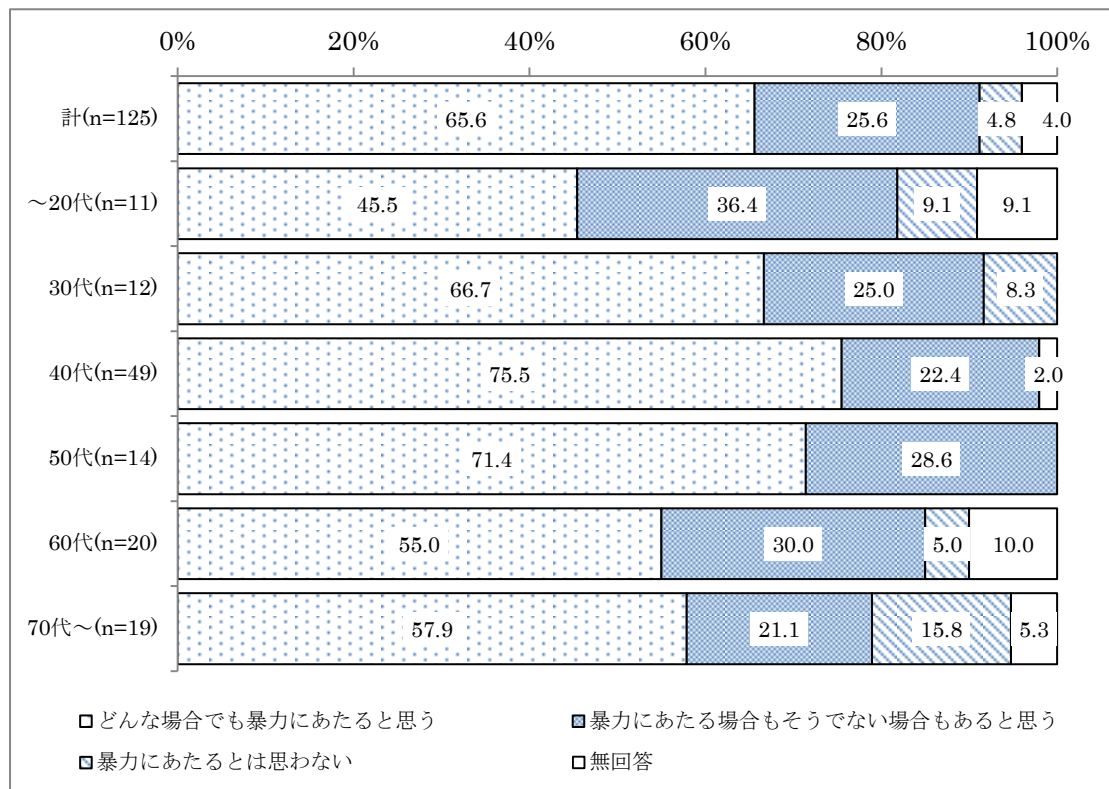
「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、男女ともに全ての年代で最も高くなっていますが、男女ともに「60代」と「70代～」は、他の年代に比べて低くなっており、特に男性では5割台となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】

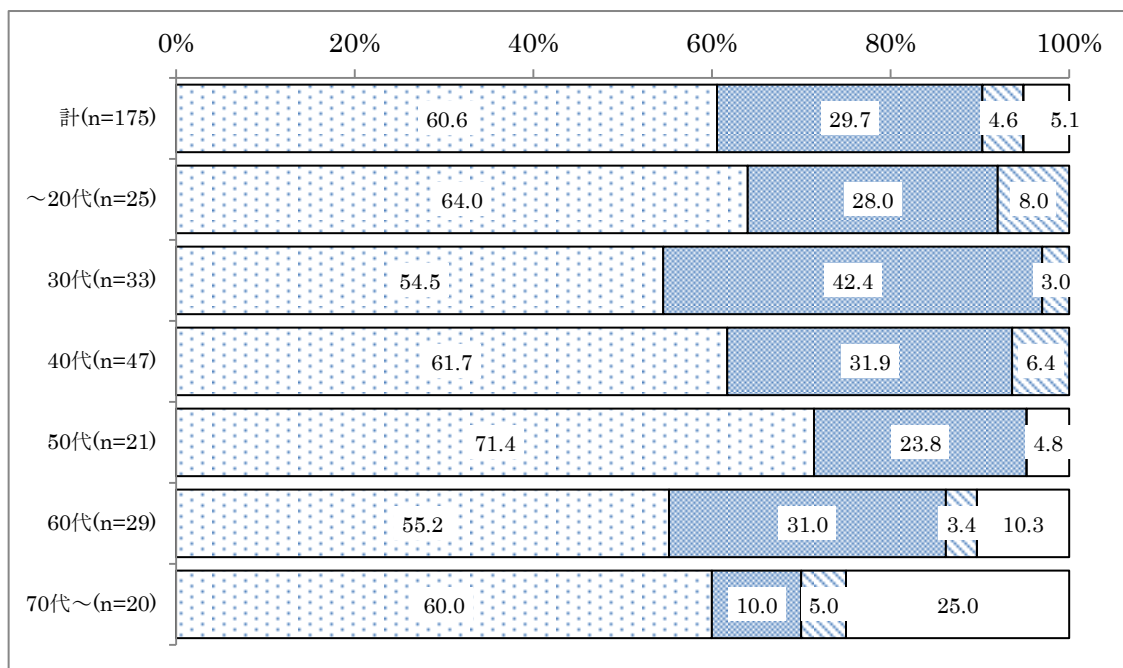


(9) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない

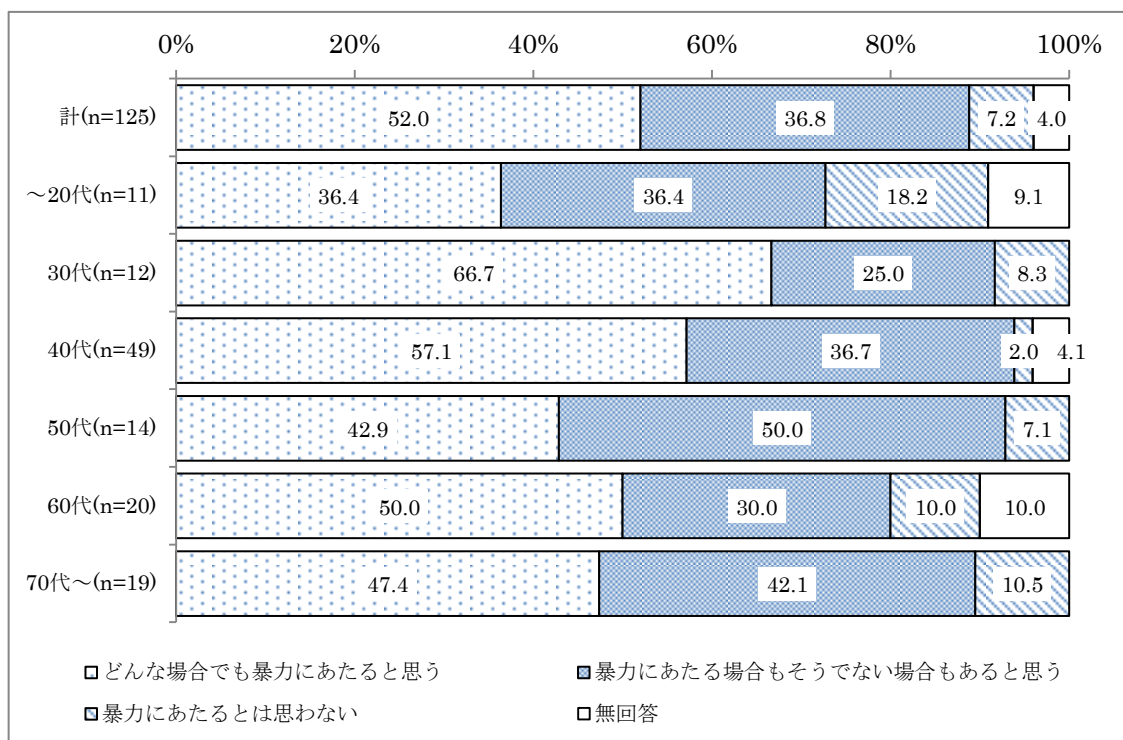
「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、「50代」男性を除く、すべての年代で最も高くなっています。性別では、女性 60.6%、男性 52.0%となっており、女性が8.6ポイント高くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



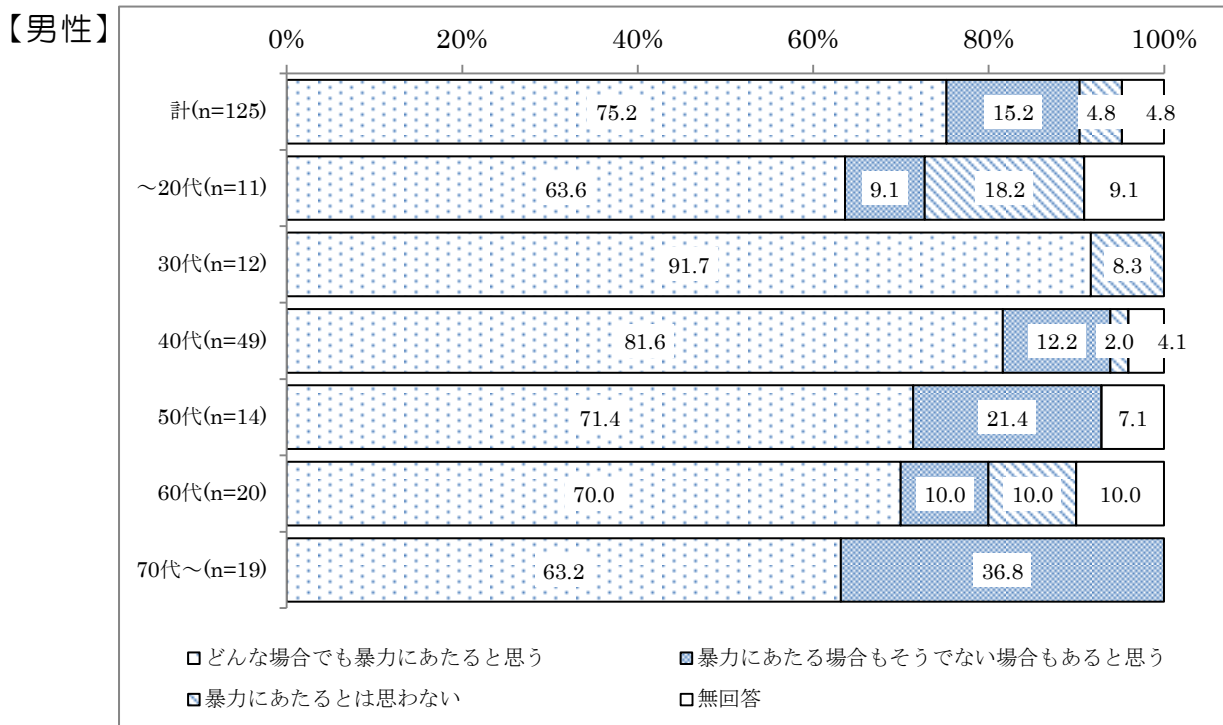
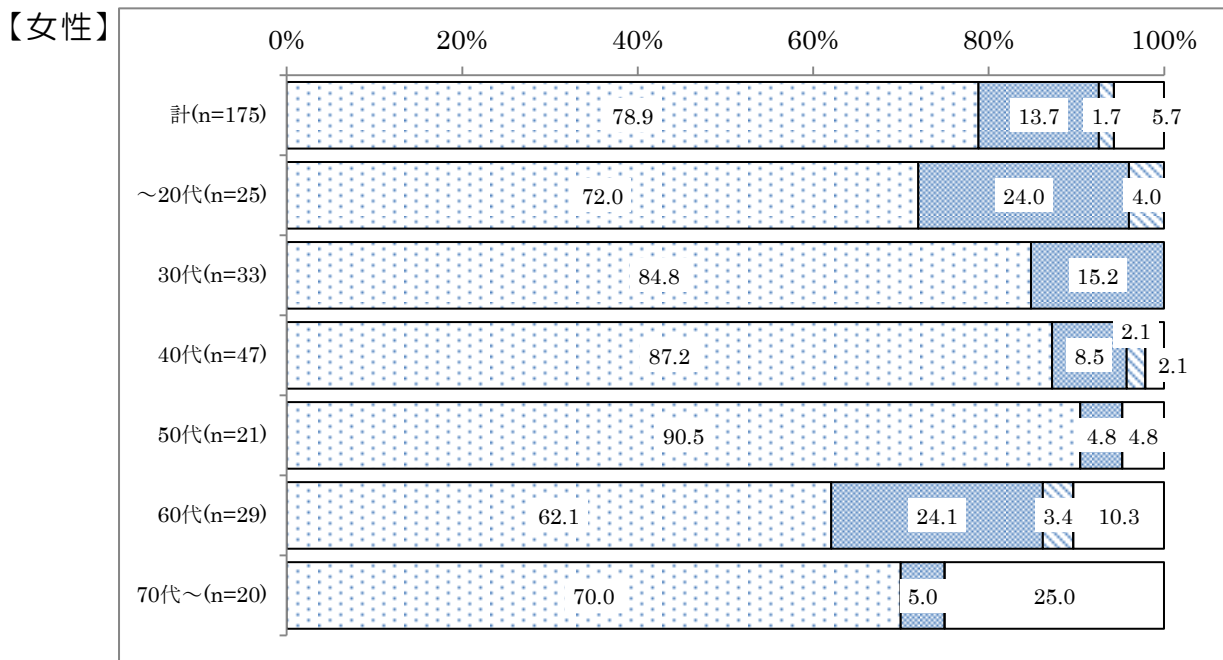
【男性】



(10)借金を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、男女ともに全ての年代で最も高くなっています。が、「60代」女性と「～20代」、「70代」男性が6割台と、他の年代に比べて低くなっています。

<性別・年代別>

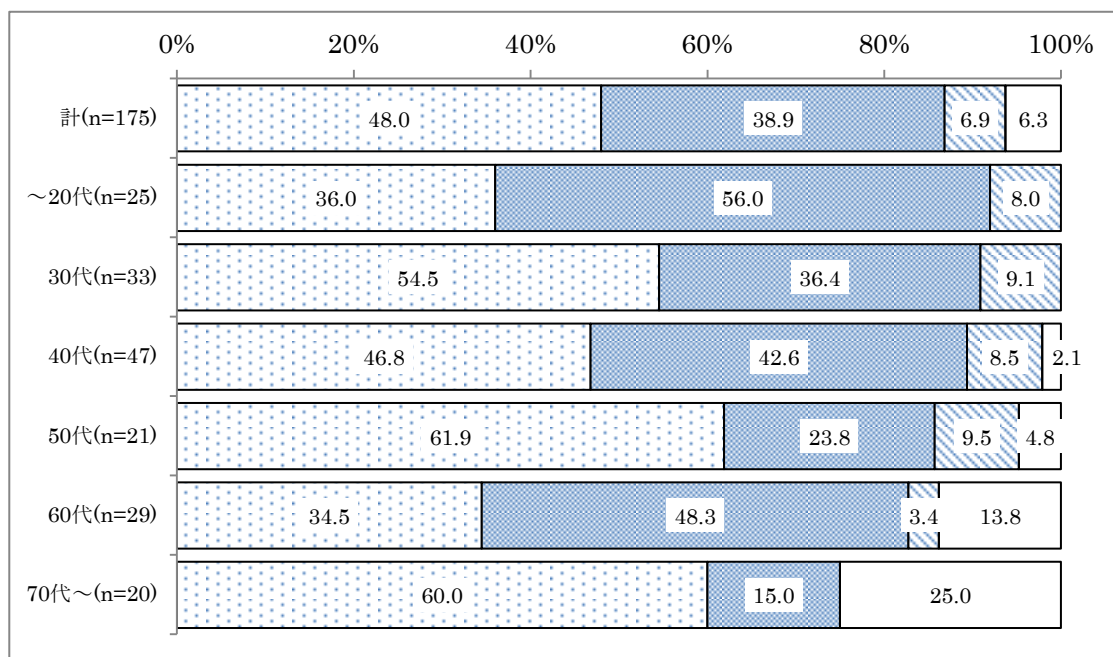


(11) 友達や身内とのメールや電話をチェックする

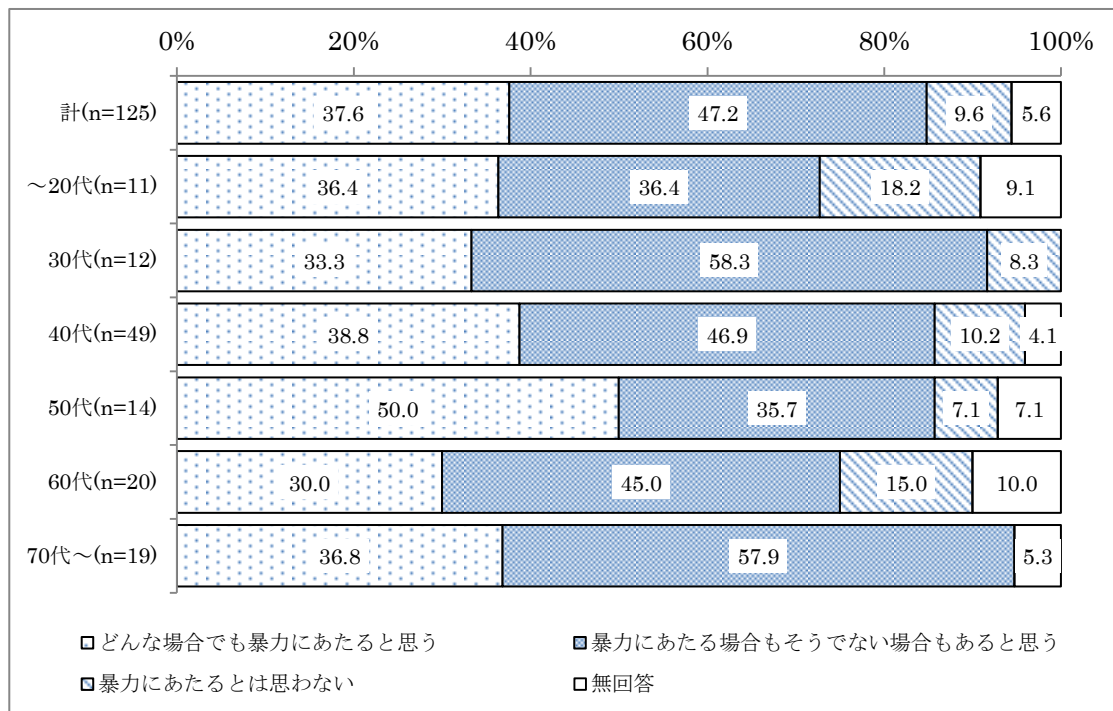
「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性では「～20代」と「60代」を除いて最も高く、性別では10.4ポイント女性の方が高くなっています。一方男性は、「50代」を除くすべての年代で、「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が最も高くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



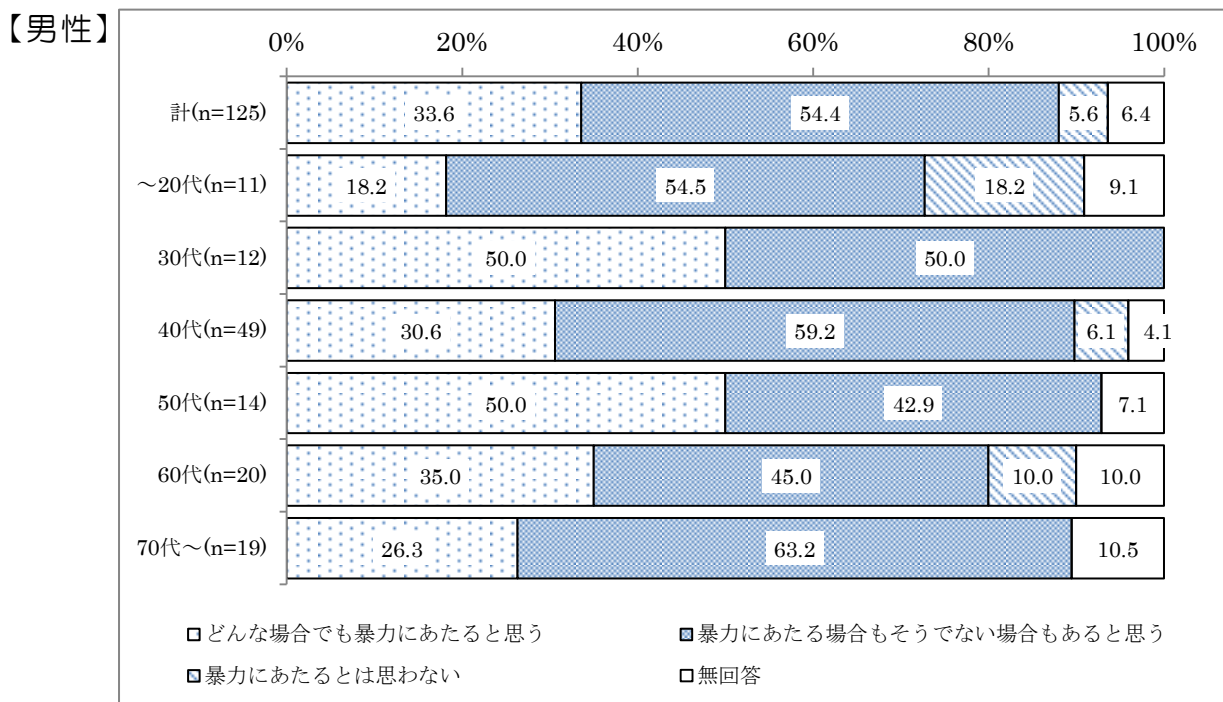
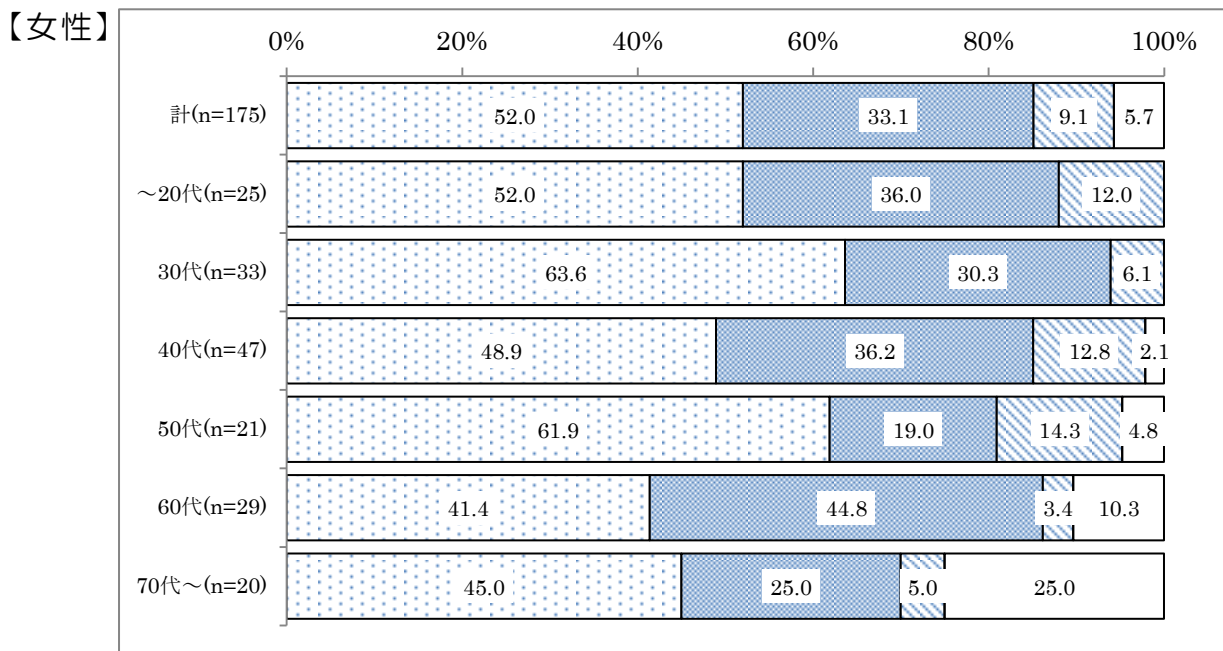
【男性】



(12) 人とのつきあいを制限する

女性では「60代」を除くすべての年代で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が最も高くなっていますが、男性では「30代」、「50代」を除き「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」が最も高くなっています。

<性別・年代別>

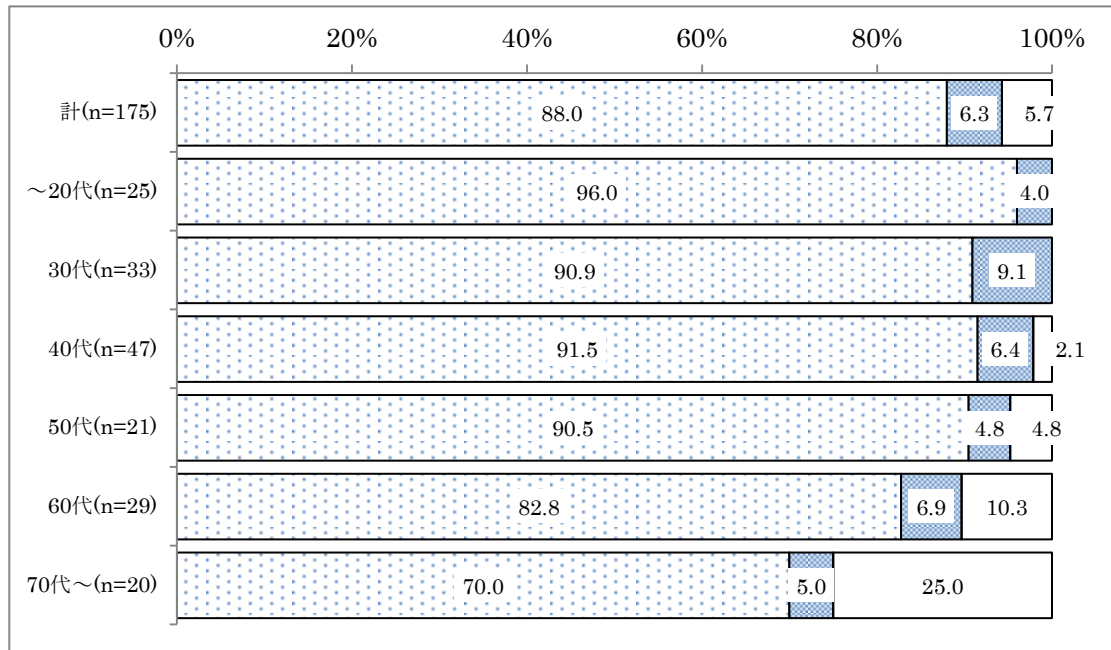


(13) 本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する

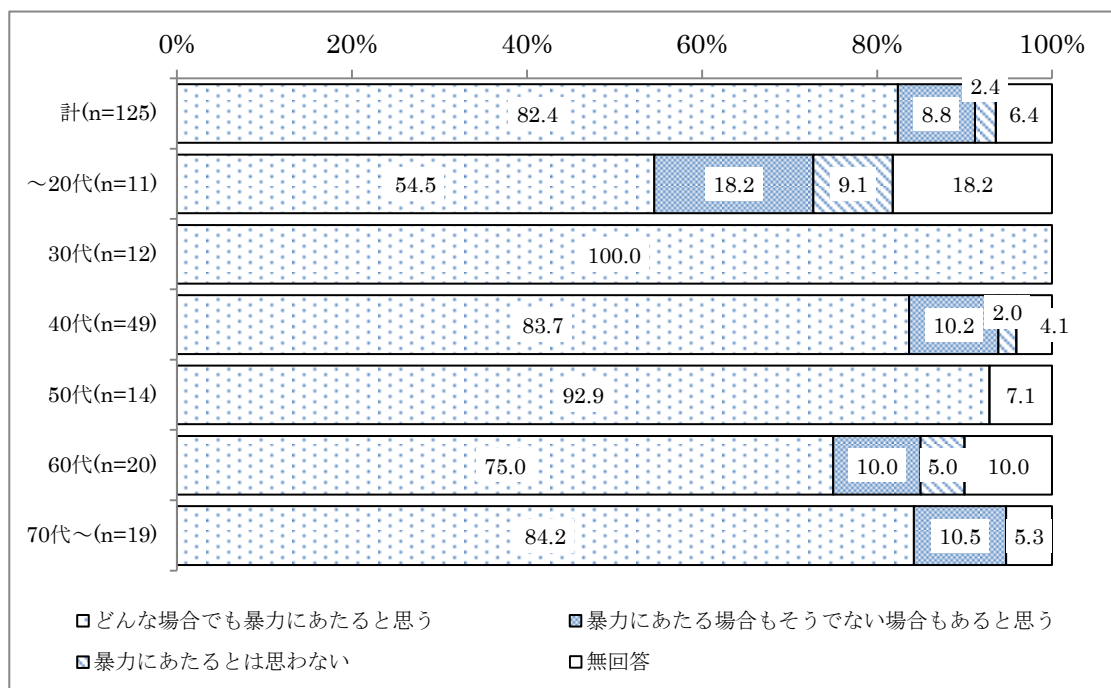
「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、男女ともにすべての年代で最も高くなっています。性別では、女性の方が5.6ポイント高くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】

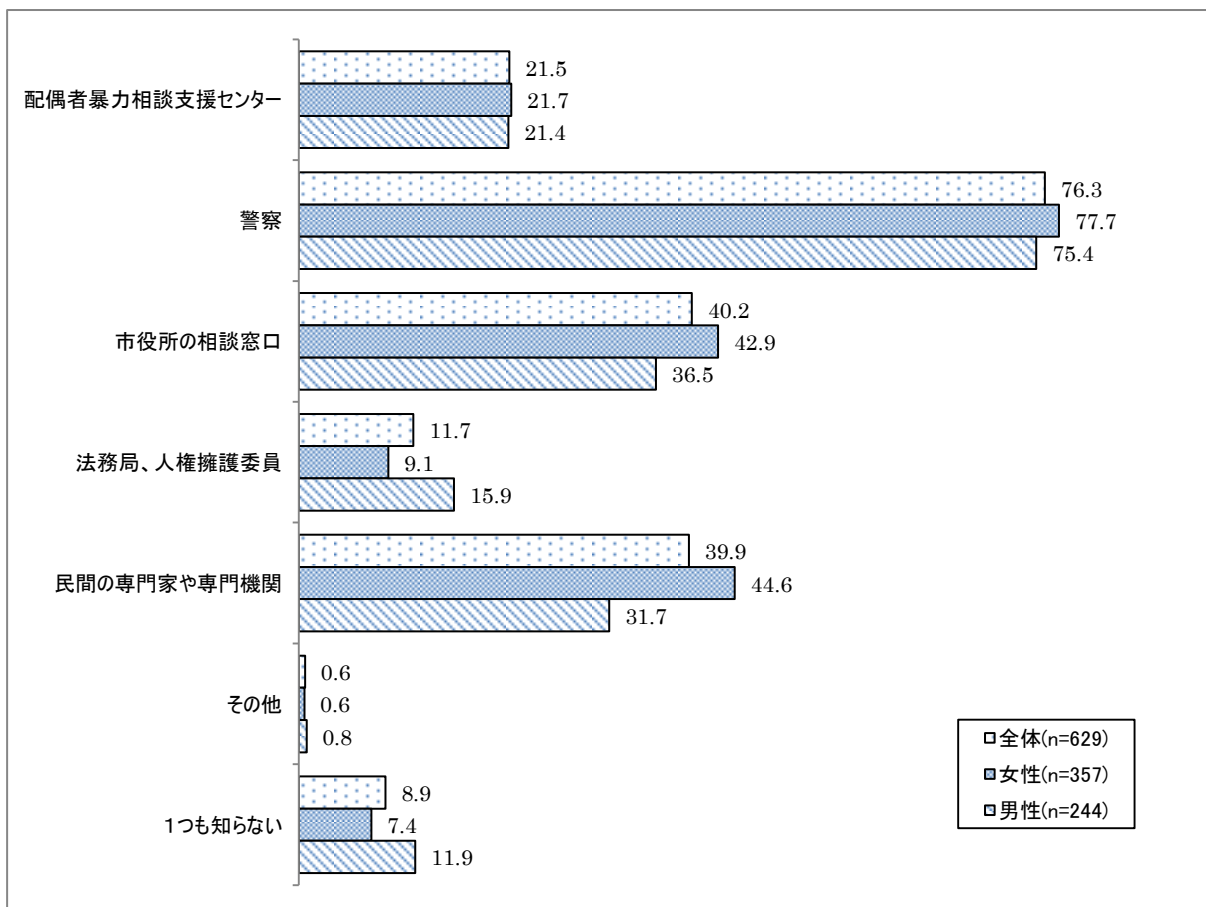


問13. あなたは、配偶者・パートナーからの暴力について、相談窓口としてどのようなものを知っていますか。また、知っている場合、どのような方法で知りましたか。

【相談窓口】（〇はいくつでも）

全体では「警察」が76.3%と最も高く、次いで「市役所の相談窓口」が40.2%、「民間の専門家や専門機関」が39.9%となっています。性別では「法務局、人権擁護委員」以外は女性の認知度の方が高くなっています。

<全体・性別>

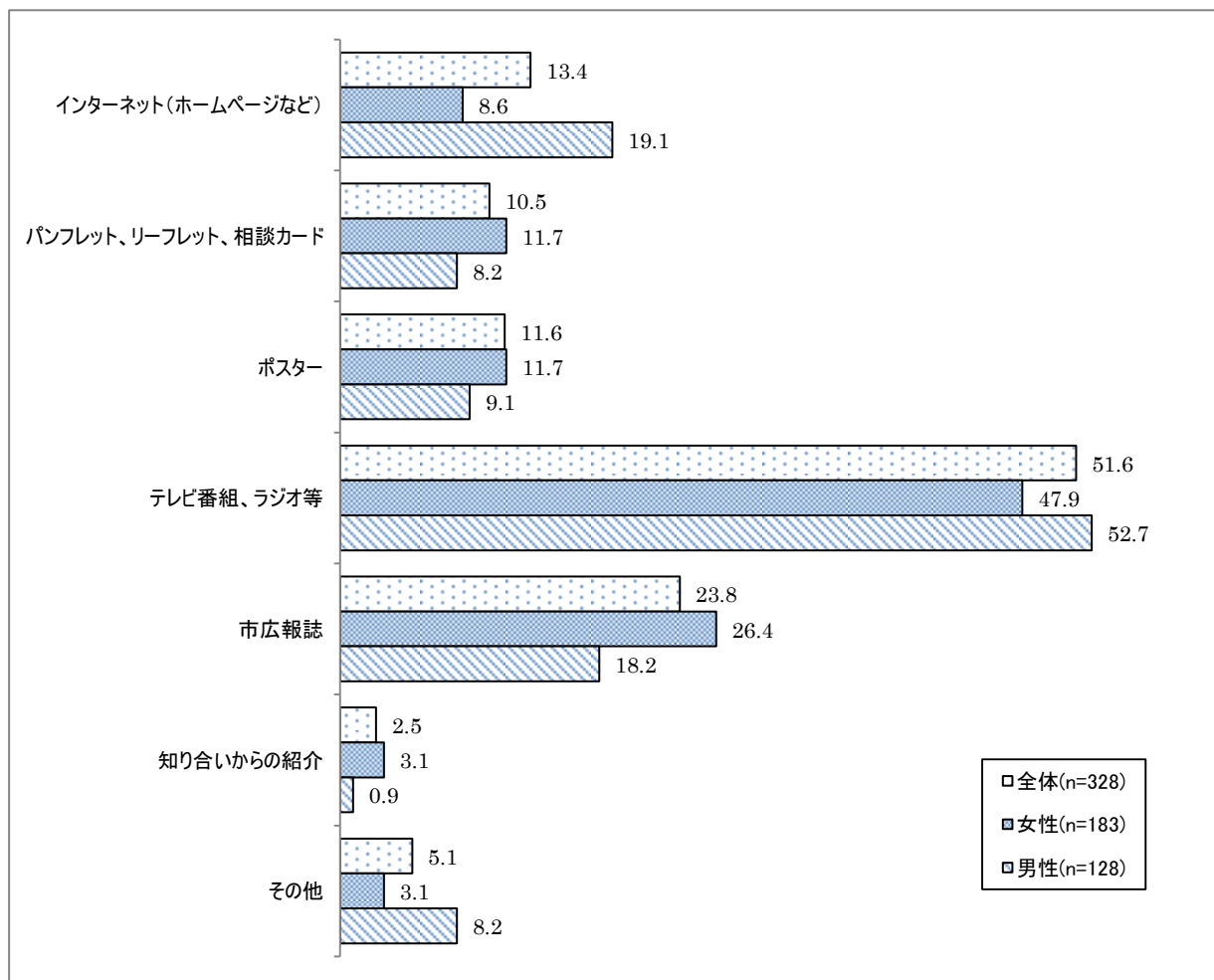


【方法】(〇はいくつでも)

全体では「テレビ番組、ラジオ等」が51.6%と最も高く、次いで「市広報誌」が23.8%となっています。

性別では、女性は「市広報誌」が26.4%と2番目に高いのに対し、男性は「インターネット(ホームページなど)」が19.1%と2番目に高くなっています。

<全体・性別>

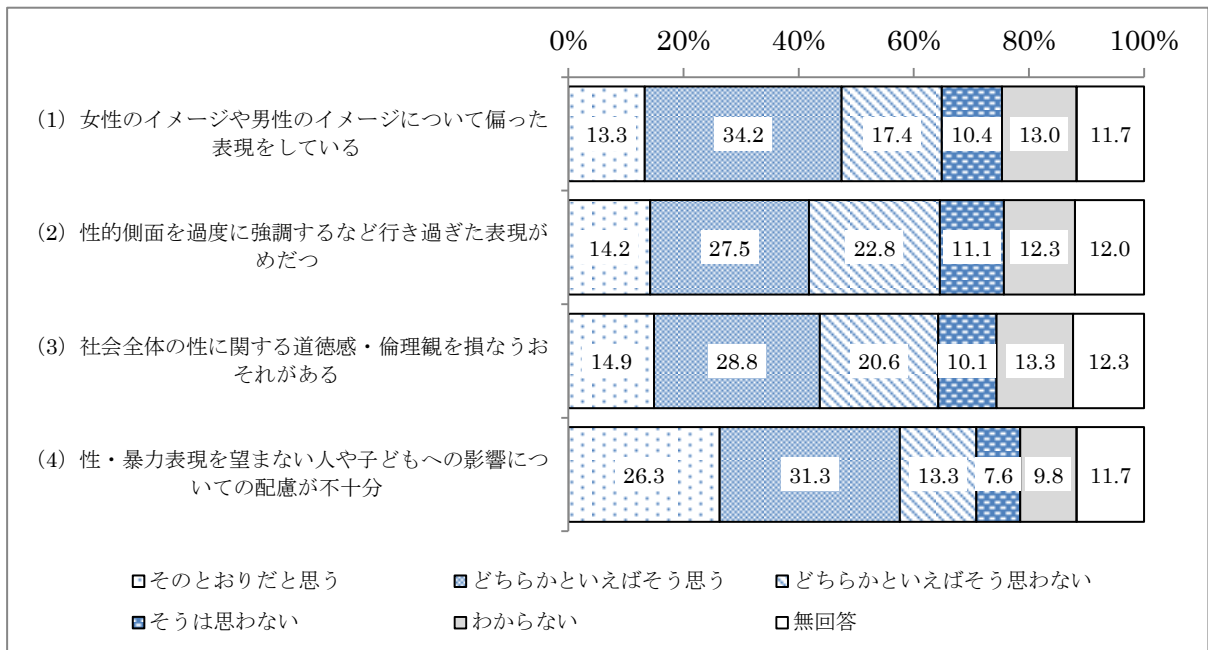


問14. テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアにおける性・暴力表現に関する以下の意見について、あなたはどのように思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

全体では『そう思う』(「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合)が最も高いのは、「(4)性・暴力表現を望まない人や子どもへの影響についての配慮が不十分」で57.6%となっています。

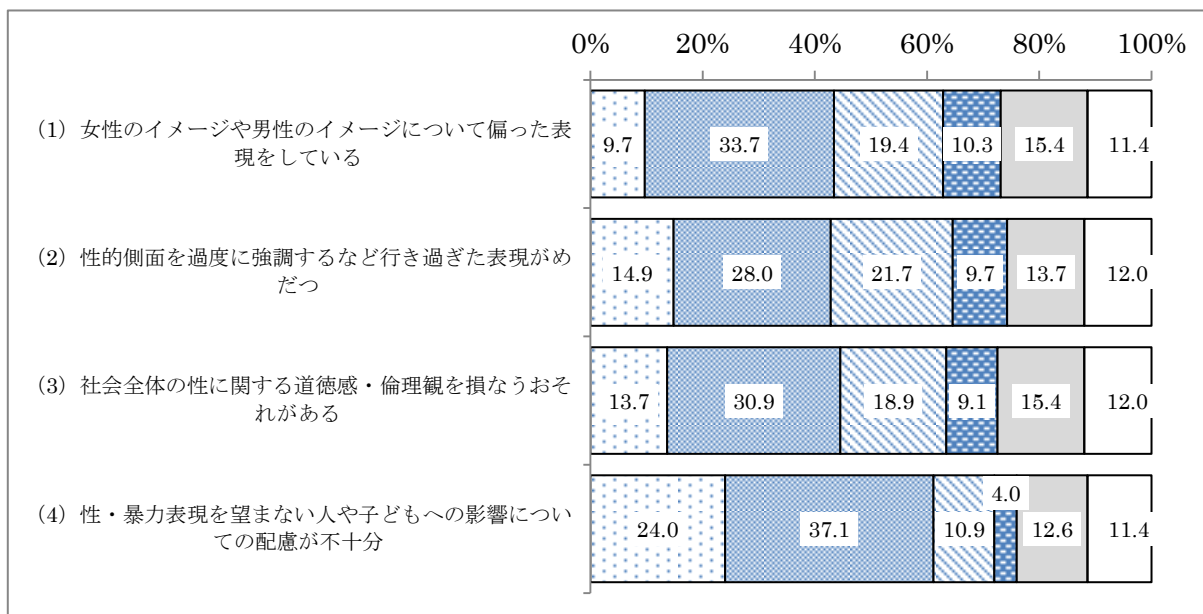
性別では『そう思う』は「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」以外の項目で、男性よりも女性の方が高くなっています。

<全体>

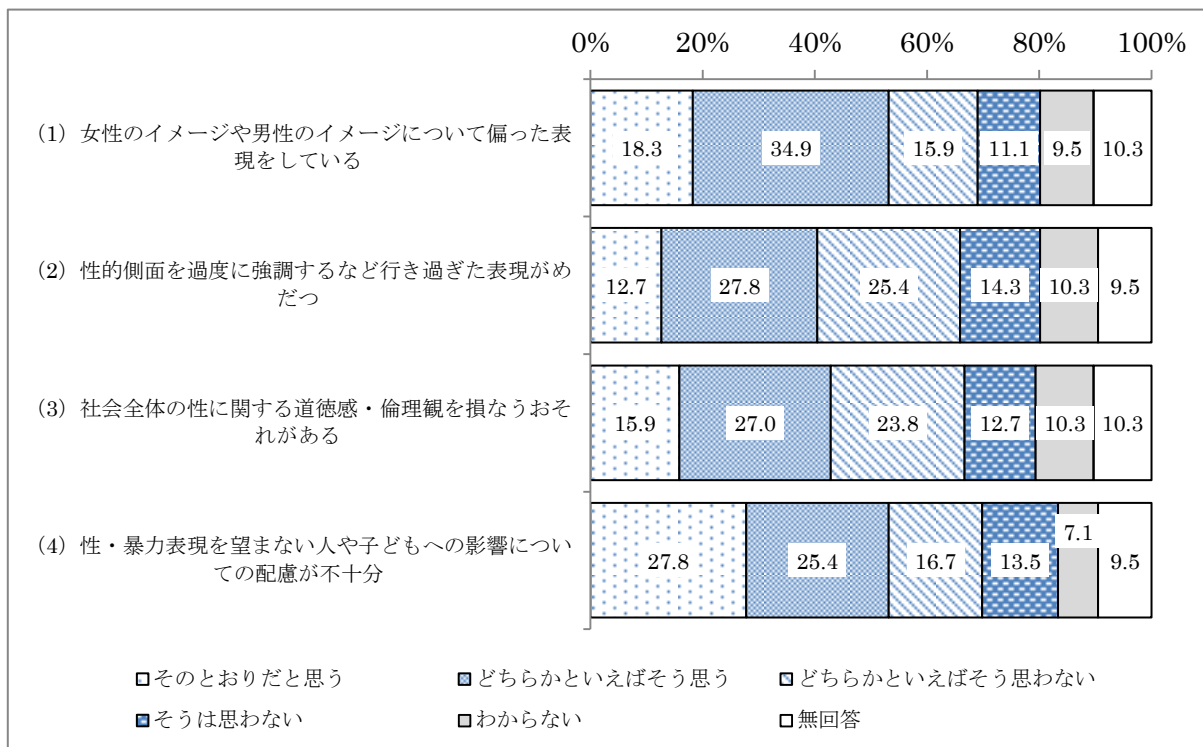


<性別>

【女性】



【男性】



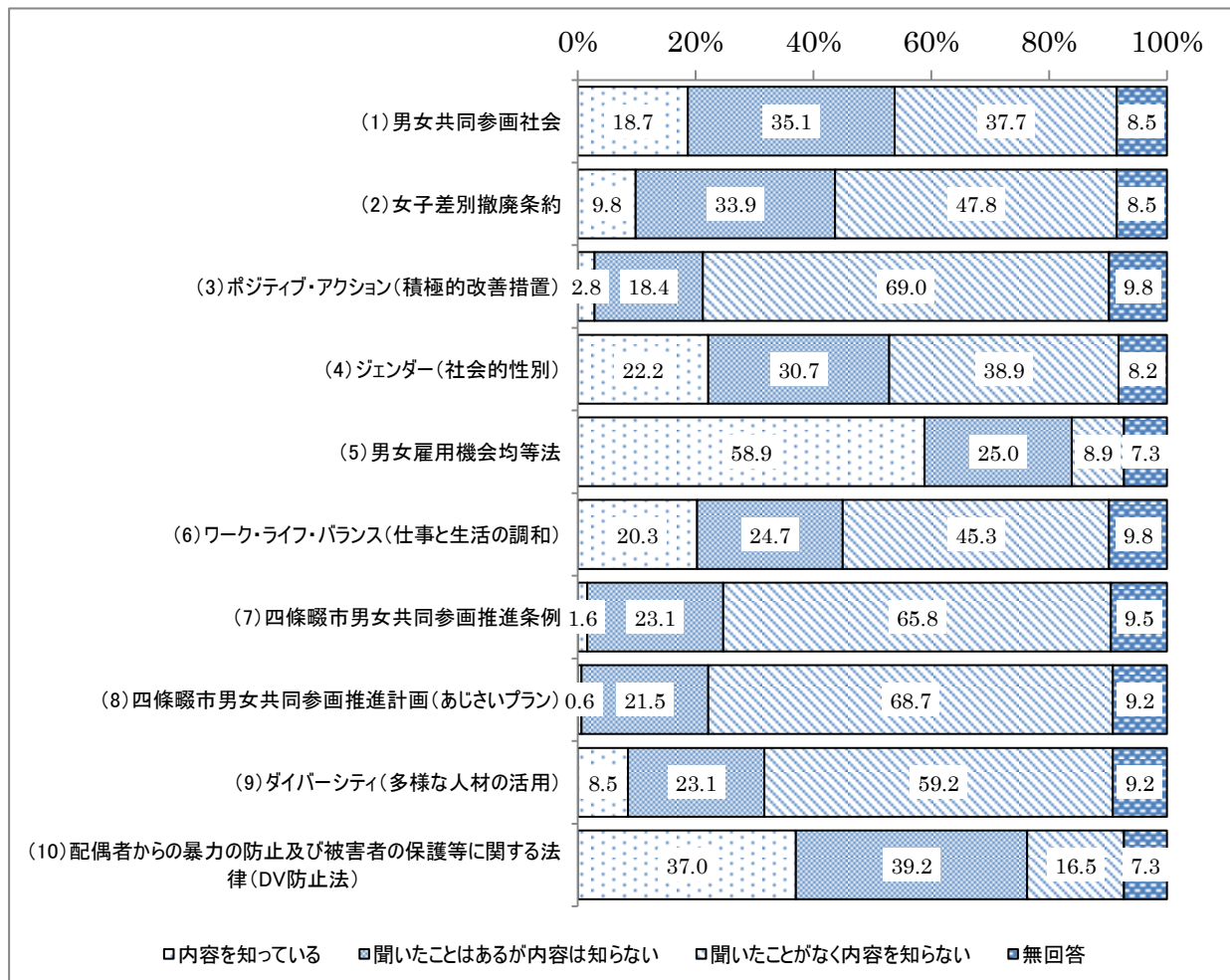
7 男女共同参画社会の実現について

問15. 次にあげる項目のうちで、あなたがお存じのものはありますか。
あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

『知っている』（「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた割合）は「(5)男女雇用機会均等法」が83.9%と最も高く、次いで「(10)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」が76.2%となっています。

一方、「聞いたことがなく内容も知らない」、は「(3)ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」が69.0%と最も高く、次いで「(8)四條畷市男女共同参画推進計画（あじさいプラン）」が68.7%、「(7)四條畷市男女共同参画推進条例」が65.8%となっています。

<全体>



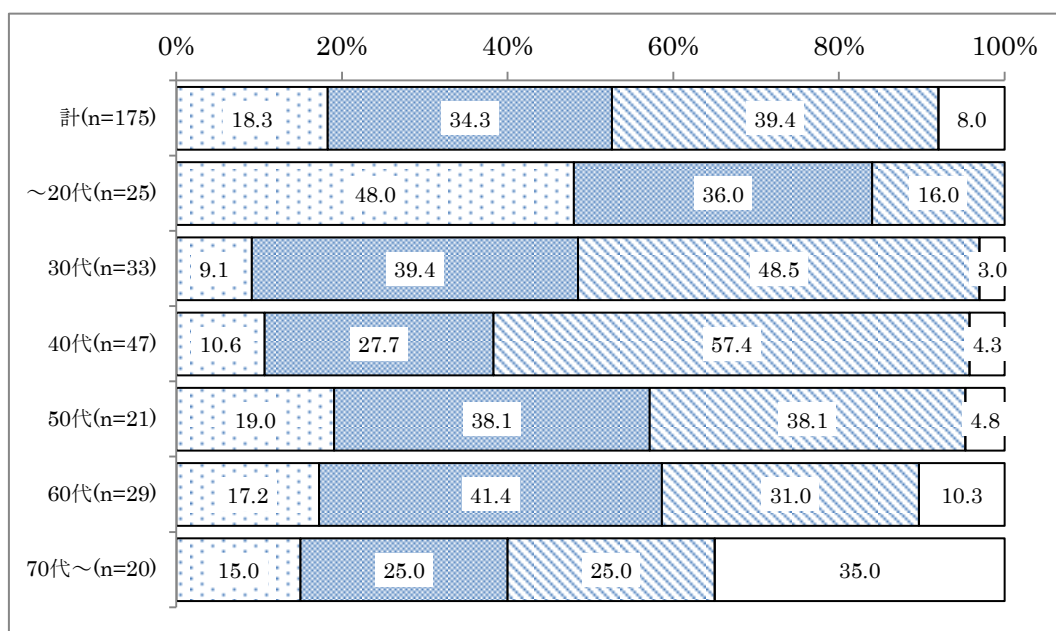
(1)男女共同参画社会

『知っている』は、女性が 52.6%に対し、男性は 57.6%と男性が女性を5ポイント上回っています。

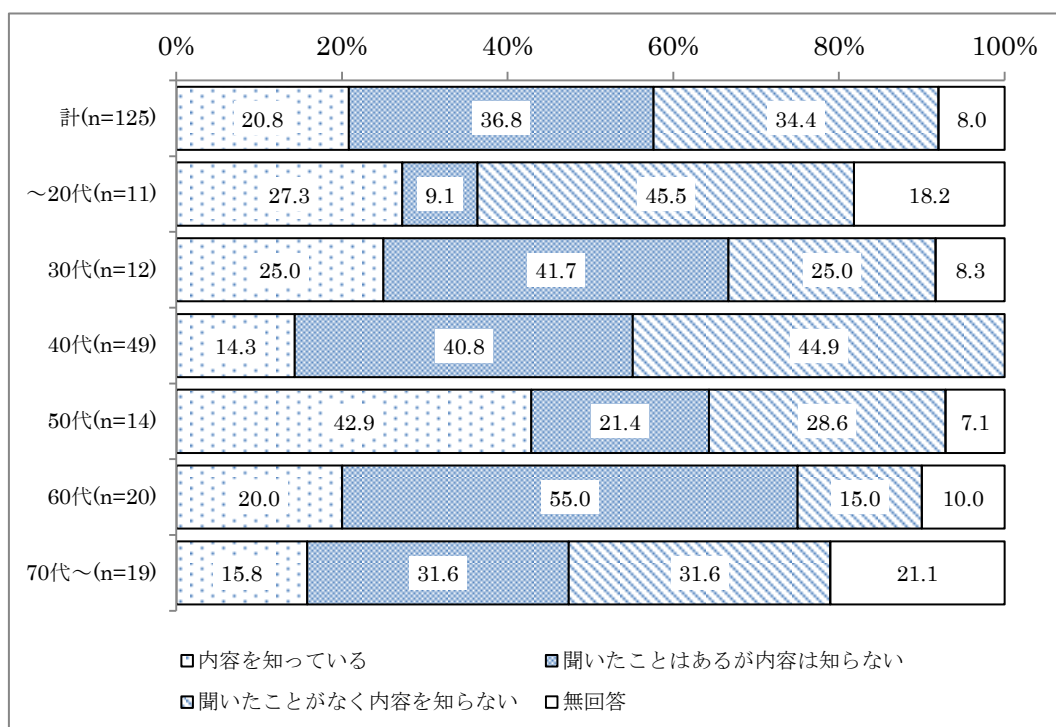
性別・年代別でみると、『知っている』は、女性では「～20代」が84.0%と最も高く、男性では「60代」が75.0%と最も高くなっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



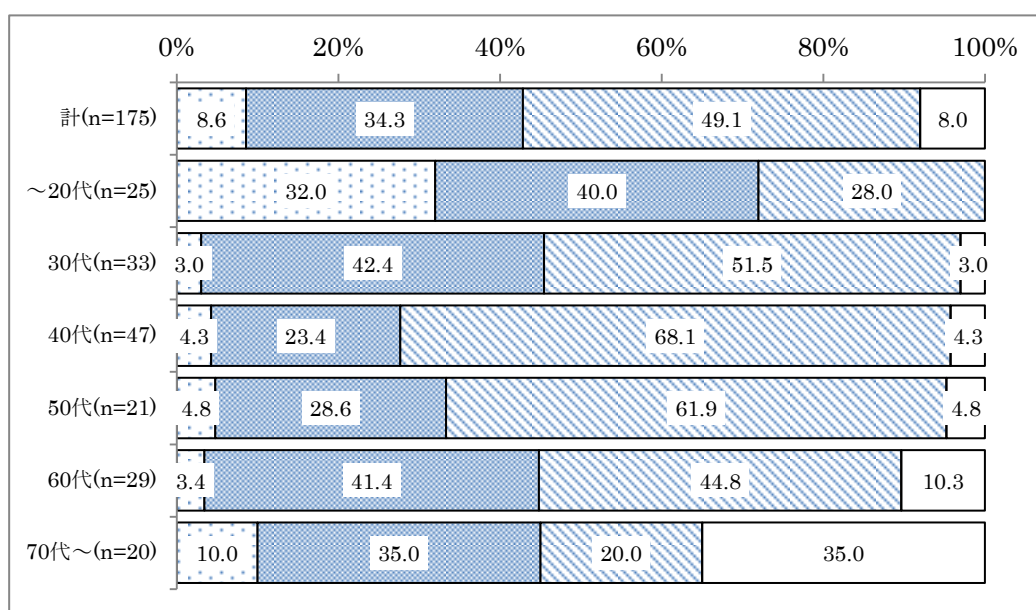
(2) 女子差別撤廃条約

『知っている』は、女性が42.9%に対し、男性が45.6%と男性が女性を2.7ポイント上回っています。

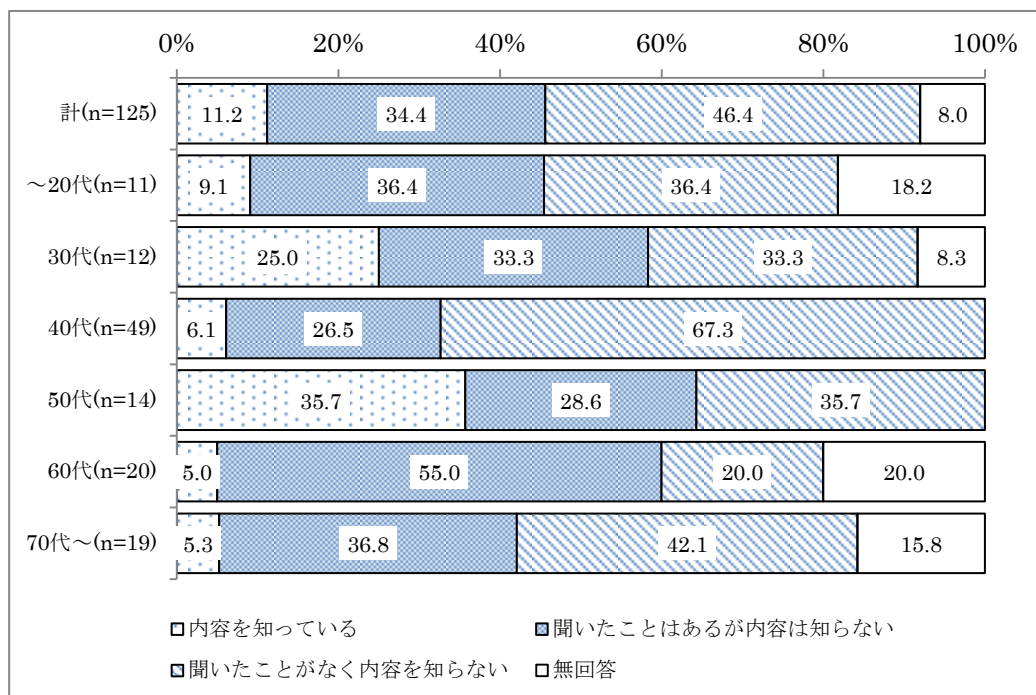
性別・年代別でみると、『知っている』は、女性では「～20代」が72.0%と最も高くなっています。男性では「50代」が64.3%、「60代」が60.0%、「30代」が58.3%となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



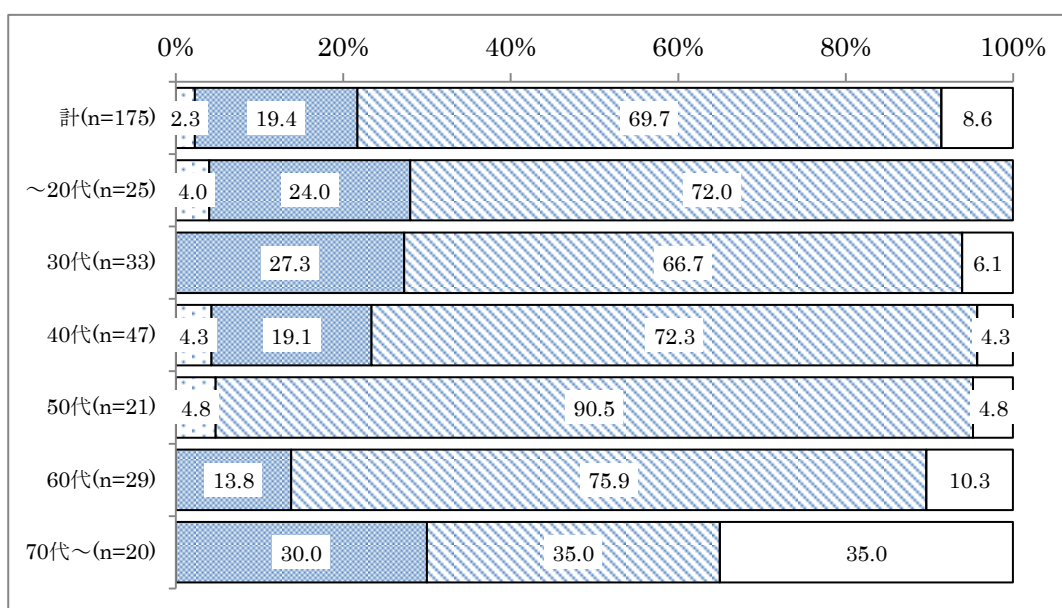
(3) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

『知っている』は、女性が 21.7%、男性が 20.8%と男女ともに2割台となっています。

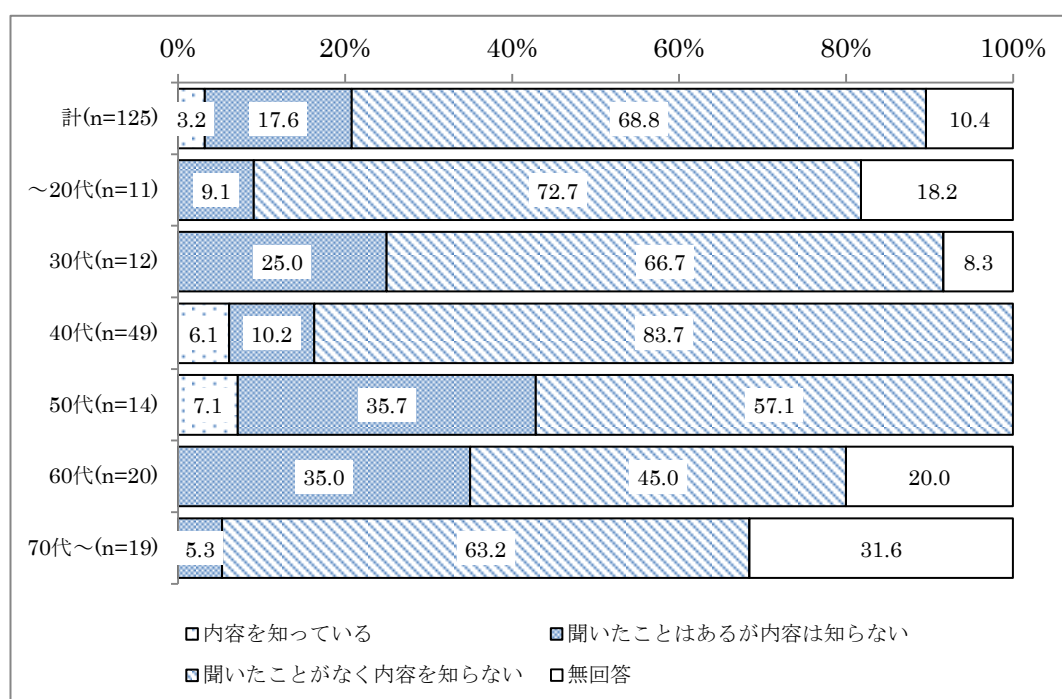
性別・年代別でみると、『知っている』は、女性では「70代～」が 30.0%、「～20代」が 28.0%、「30代」が 27.3%となっています。男性では、「50代」が 42.8%、「60代」が 35.0%となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



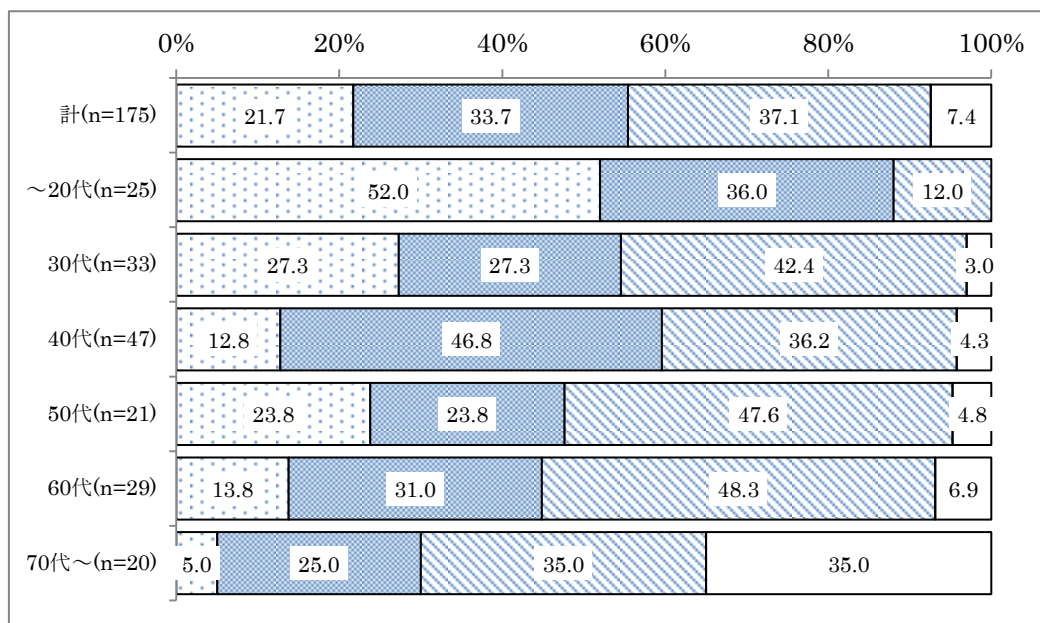
(4) ジェンダー（社会的性別）

『知っている』は、女性が 55.4%に対し、男性は 50.4%と、男女ともに5割台となっています。

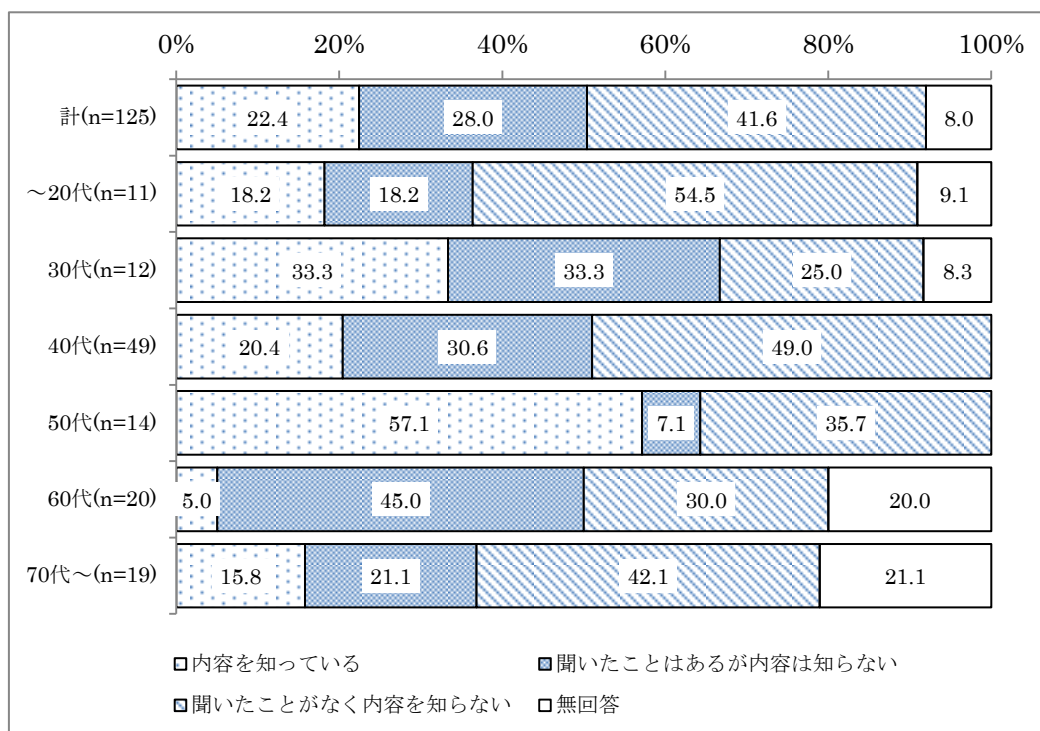
性別・年代別で見ると、「内容を知っている」は、女性の「～20代」、男性の「50代」で高く、5割を超えています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



(5)男女雇用機会均等法

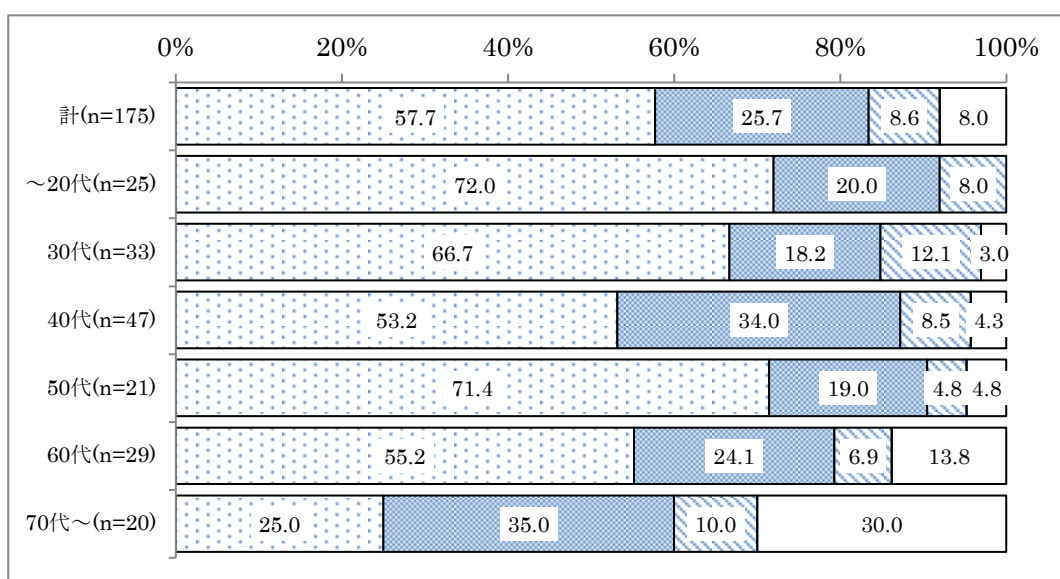
『知っている』は、女性が 83.4%、男性が 86.4%と、男女ともに8割を超えています。

性別・年代別でみると、『知っている』は、女性の「60代」、「70代～」と男性「～20代」を除いては、男女ともに8割を超えています。

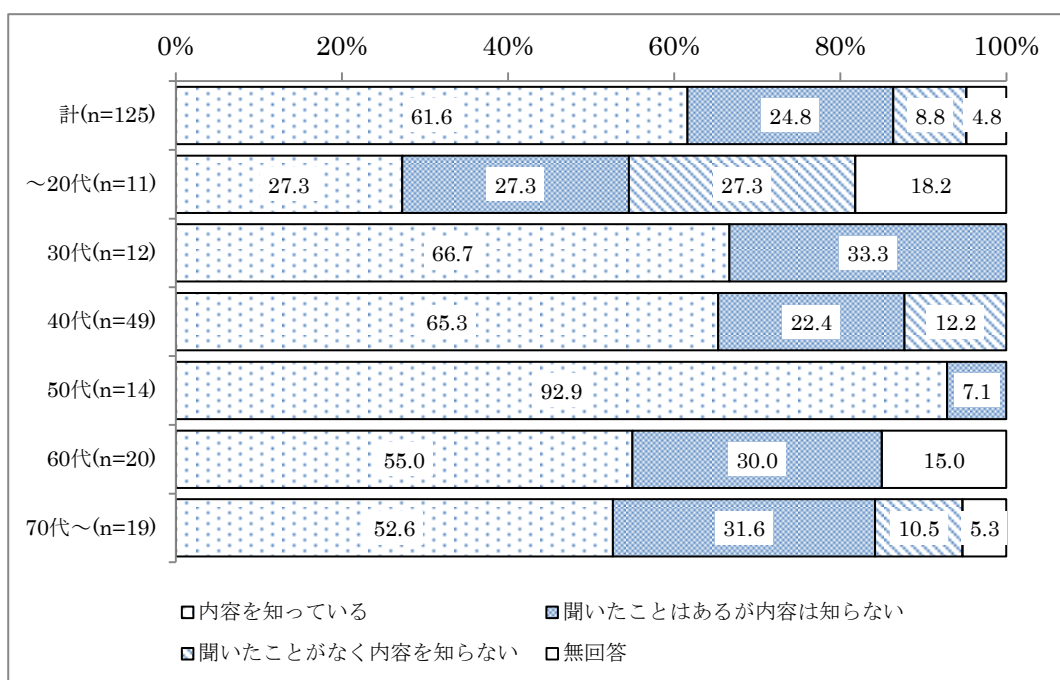
また、「内容を知っている」は、「～20代」の男女間で差異があり、女性が72.0%に対し、男性が27.3%と女性が男性を大きく上回っています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



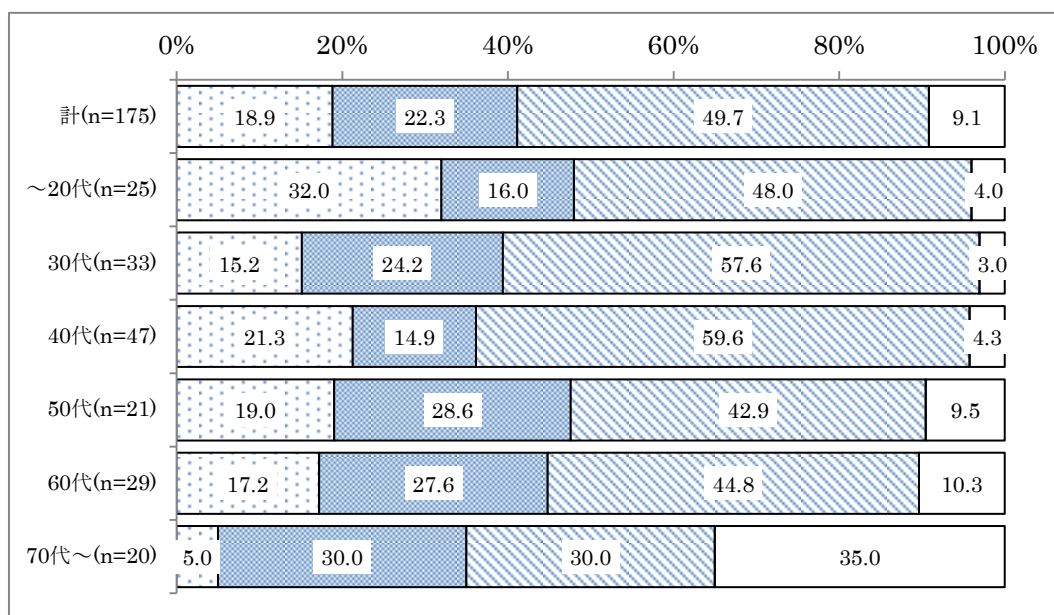
(6)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

『知っている』は、女性が41.2%に対し、男性は48.8%と男性が女性を7.6ポイント上回っています。

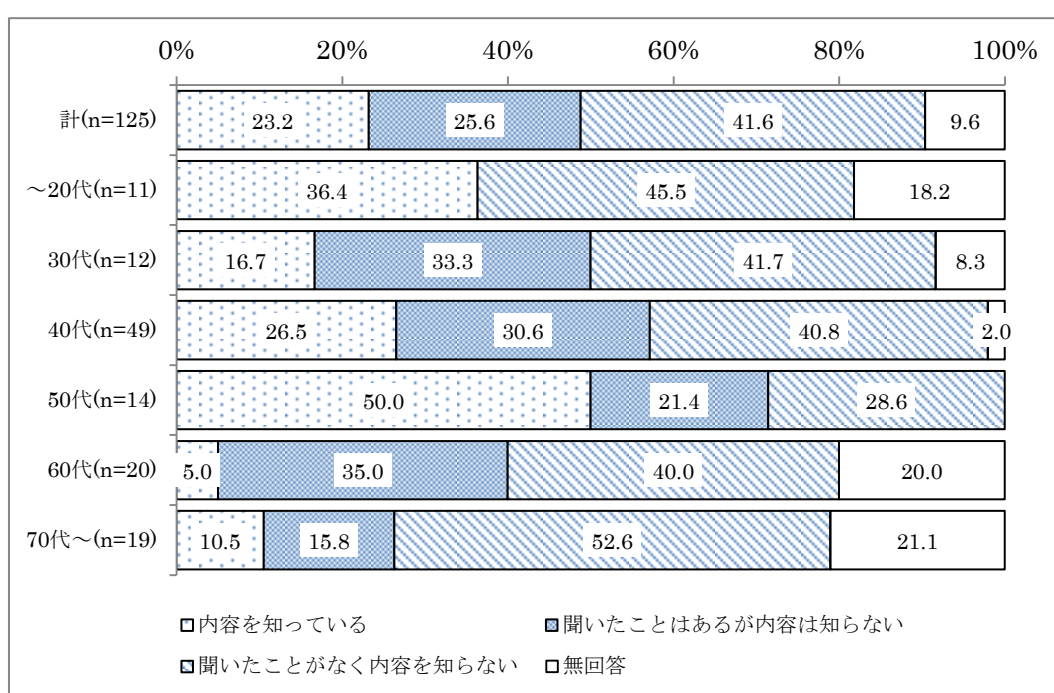
性別・年代別でみると、『知っている』は、女性では全ての年代で約4～5割となっています。男性では「50代」が71.4%、「30代」「40代」が5割台となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



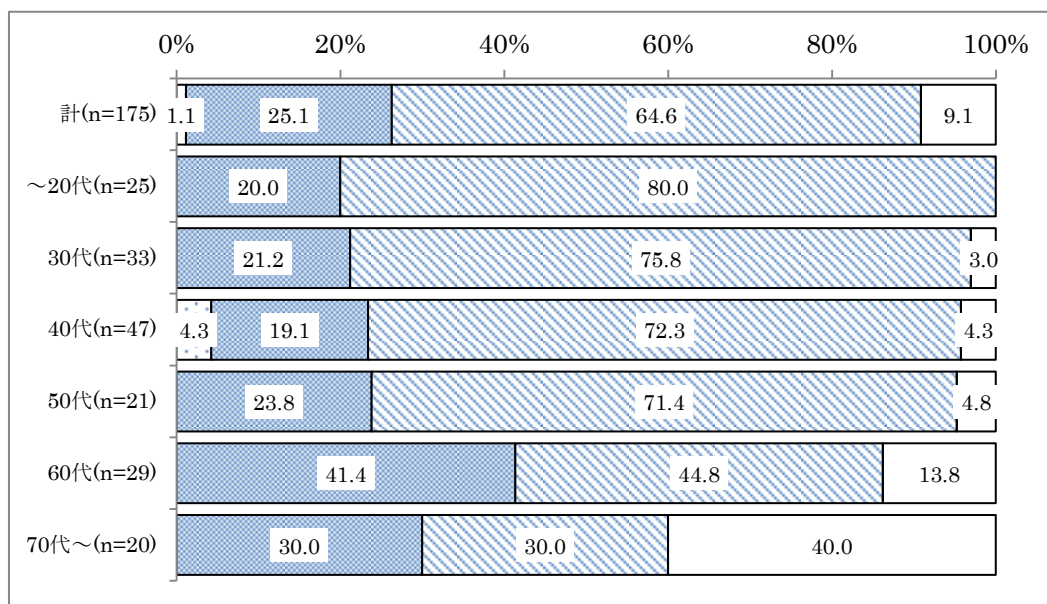
(7)四條畷市男女共同参画推進条例

『知っている』は、女性が 26.2%、男性が 21.6%と、男女ともに2割台となっています。

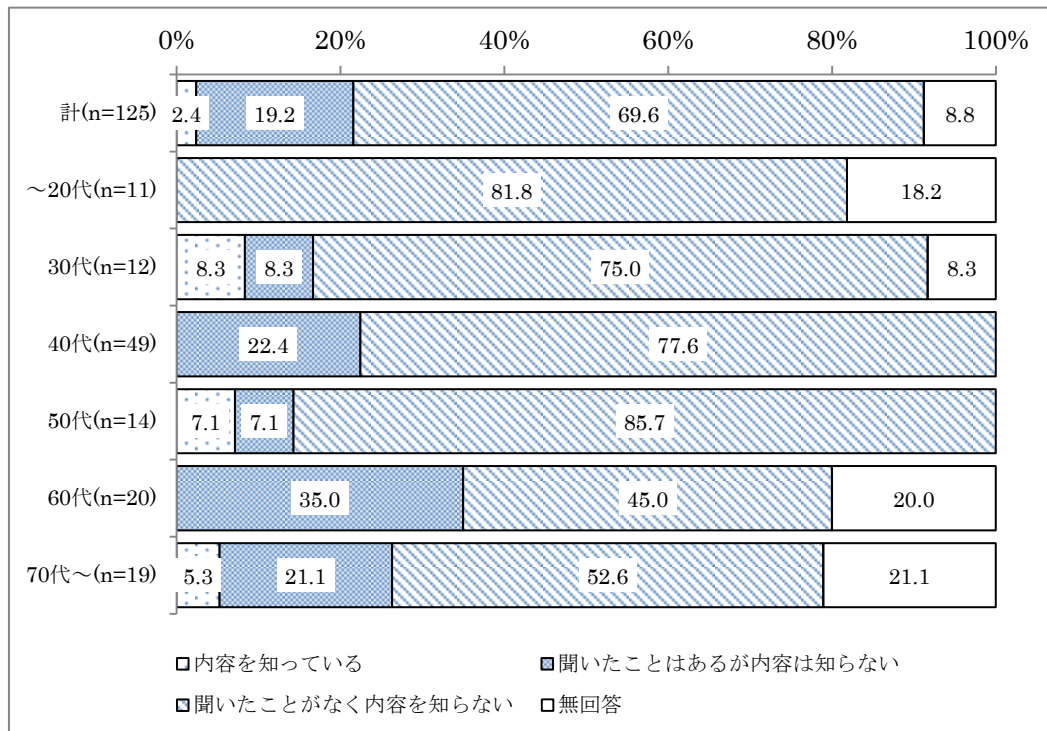
性別・年代別で見ると、『知っている』は男女ともに「60代」が最も高く、女性 41.4%、男性 35.0%となっていますが、その他の年代では3割を下回っています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



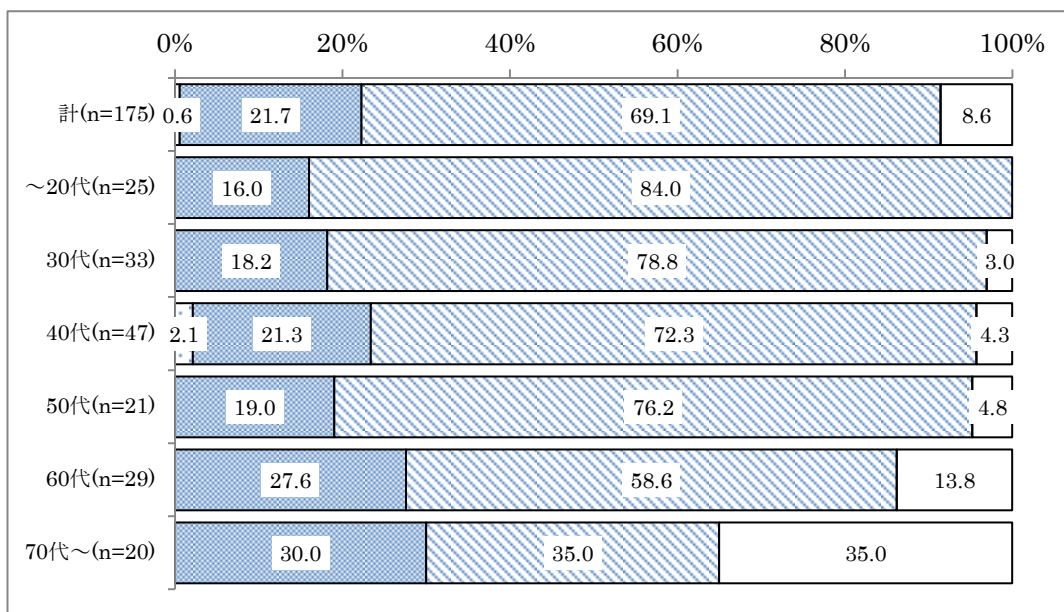
(8) 四條躰市男女共同参画推進計画（あじさいプラン）

『知っている』は、女性が 22.3%、男性が 21.6%と、男女ともに2割台となっています。

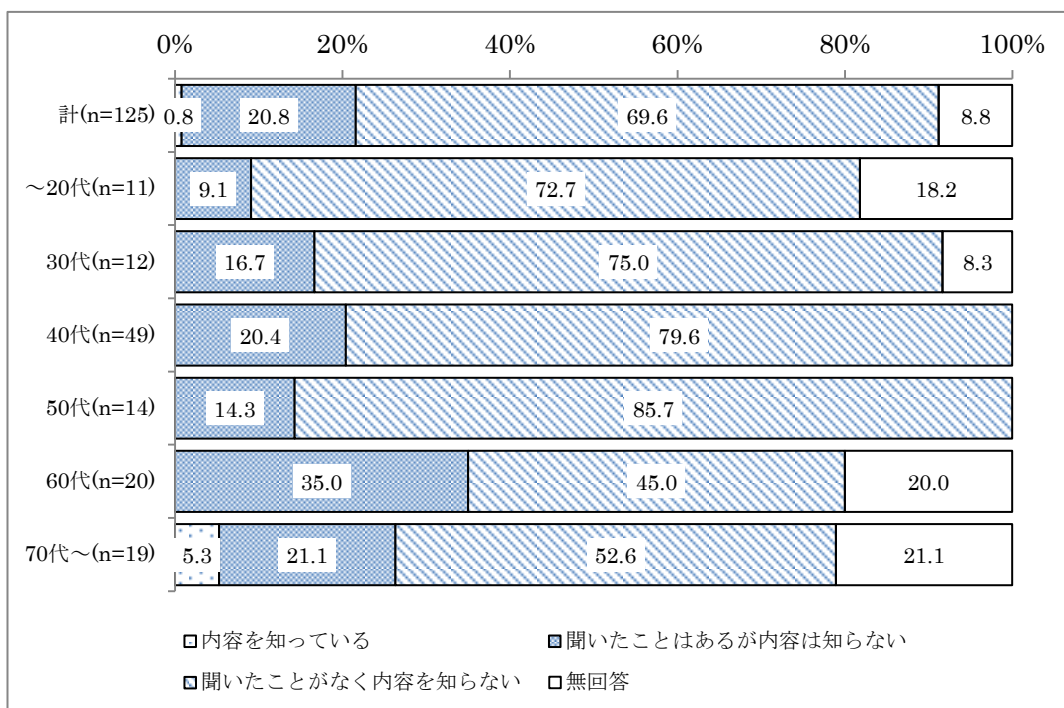
性別・年代別で見ると、『知っている』は、男女ともに、ほぼ年代が上がるにつれて、高くなる傾向があります。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



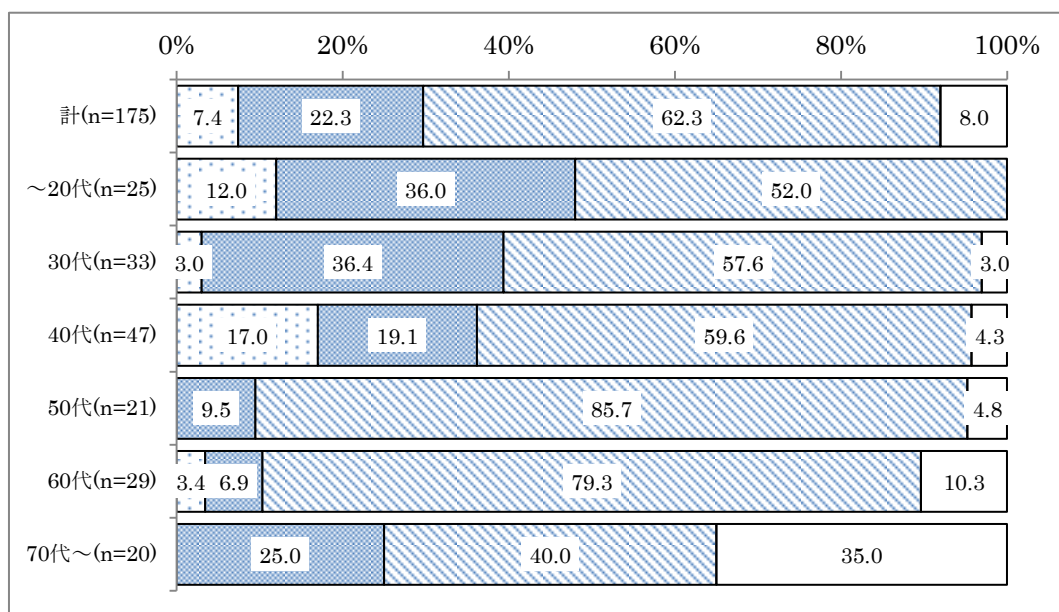
(9)ダイバーシティ（多様な人材の活用）

『知っている』は、女性が 29.7%、男性が 32.8%と男女ともに3割前後となっています。

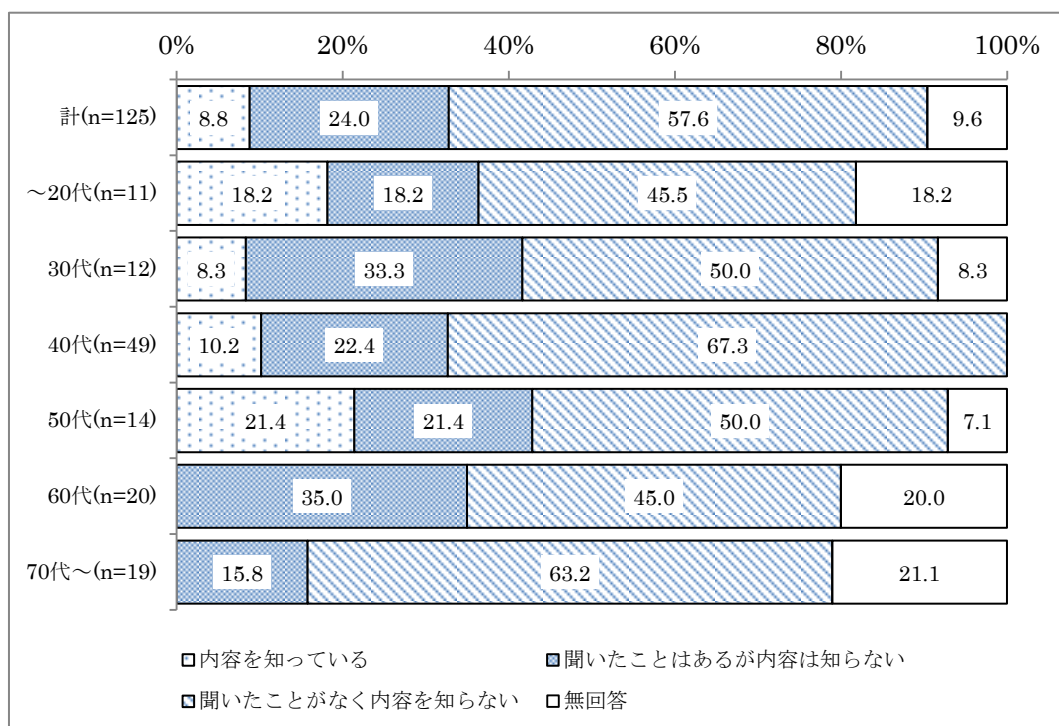
性別・年代別で見ると、『知っている』は、女性では「～20代」が48.0%と最も高く、次いで「30代」が39.4%となっています。男性では、「50代」が42.8%と最も高く、「30代」が41.6%となっています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】



(10) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

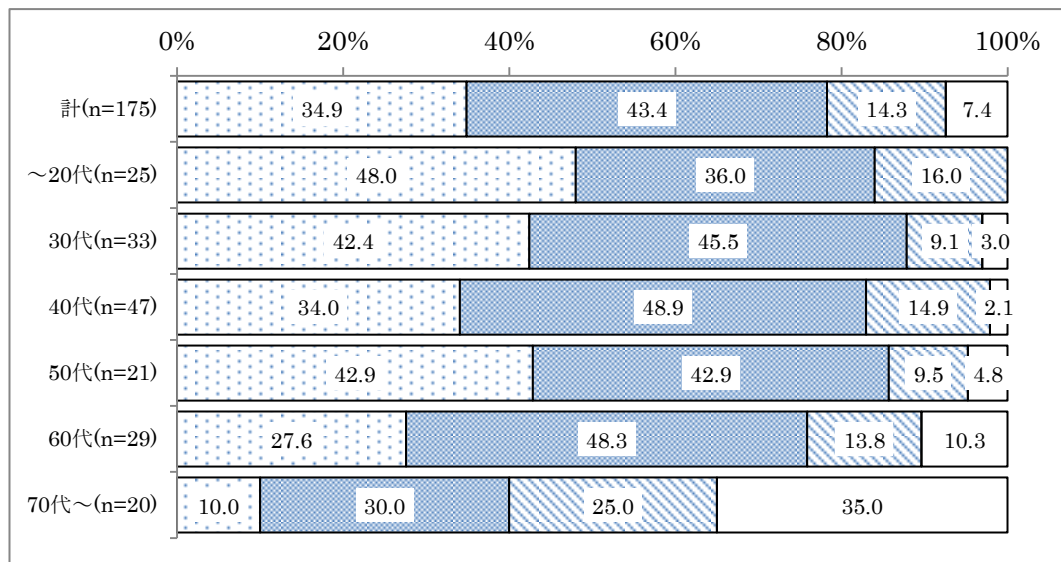
『知っている』は、女性が78.3%に対し、男性が73.6%と、女性が男性を4.7ポイント上回っています。

性別・年代別でみると、『知っている』は、女性では「60代」「70代～」を除くすべての年代で8割を超えています。男性では、「50代」が92.9%と最も高く、次いで「30代」が83.4%となっています。

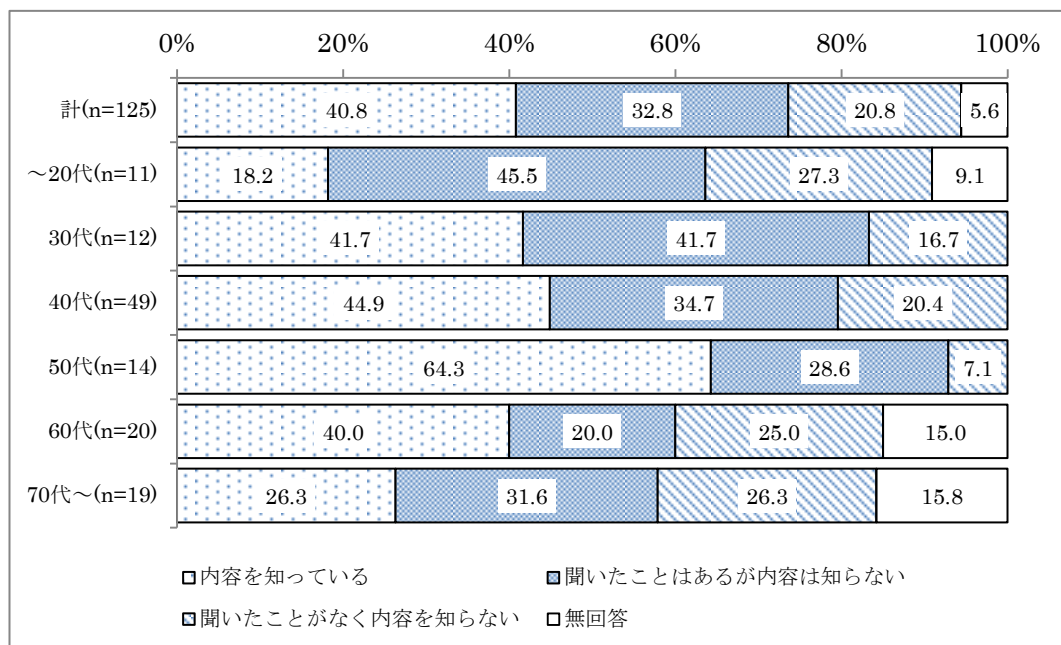
また、「内容を知っている」は、「～20代」の男女間で差異があり、女性が48.0%に対し、男性は18.2%と、女性が男性を大きく上回っています。

<性別・年代別>

【女性】



【男性】

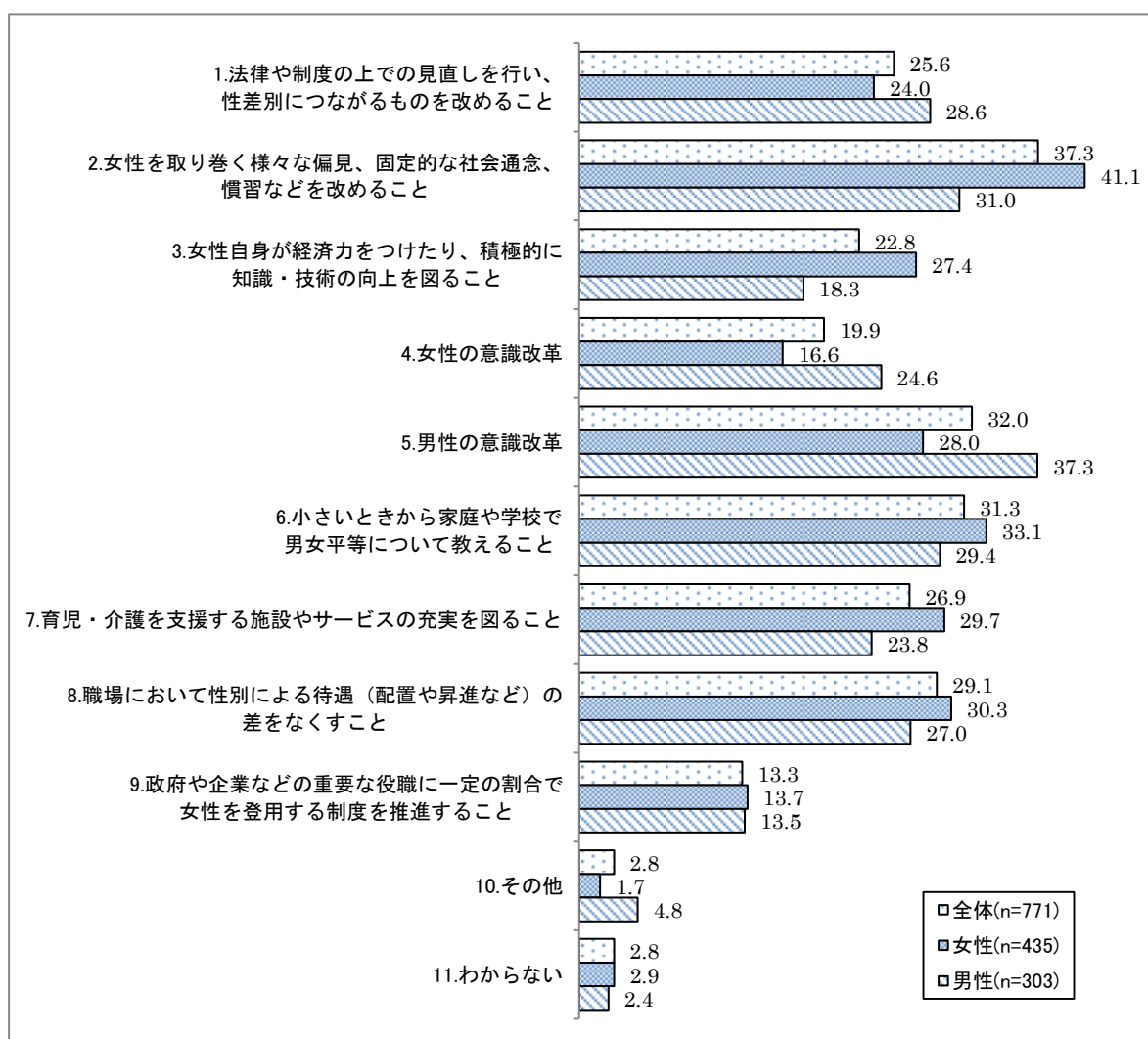


問16. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。(〇は3つまで)

全体では「2.女性を取り巻く偏見、固定観念、慣習を改めること」が37.3%と最も高く、次いで「5.男性の意識改革」が32.0%、「6.小さい時から家庭や学校で男女平等について教えること」が31.3%となっています。

性別で見ると、「2.女性を取り巻く偏見、固定観念、慣習を改めること」、「3.女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること」については、女性が男性を約10ポイント上回っています。また、「5.男性の意識改革」については、男性が女性を約10ポイント上回っています。

<全体・性別>



8 自由意見

男女共同参画に関する意見を自由記述の形で回答いただき、26件の回答を得られました。以下に整理・分類し、意見を記載します。

A. 男女平等に関する意識について

性別	年代	自由意見
女性	50代	まず、政治家の意識から改めるべき。
男性	40代	改めて平等とは何か、と感じました。男・女と互いにしか出来ないことがある中で、性差別とは何か、不明に思うことが多々ありました。身近なところでは、電車の女性車両は差別ではないのか等、やりたいことがあってそれが出来ないから、法で制度でとそこまで保護する必要があるのか、何でもかんでもはおかしいと思う。狭い世界に生きているのか、身近に男だから女だからといった差別的なものを感じたことはありません。
男性	20代	“男女平等”という言葉をよく聞きますが、いったい何をもって“平等”と呼ぶのかといつも思います。その人がやりたい事をやれる自由、個々の能力や成果に対しての正当な評価を受けられること、これが女性に対してはもちろん男性にも与えられるべきだと思います。“セクハラ”という言葉を使うとき、圧倒的に女性に使うことが多い気がしますが、男性も職場などで逆の立場であればセクハラととれる言葉を受けたりすることが多々あると思います。しかし、そちらの認識への配慮はまだまだ進んでいないと思われま。
女性	60代	男女共同参画社会の詳しい内容はよくわかりませんが、やはり男女差別というのはいつまでたっても根強く残っているものだと思います。一人一人の意識改革が必要。

B. 家庭生活について

性別	年代	自由意見
女性	10代	女性が育児をしやすい社会をつくっていくことが大切だと思う。
女性	60代	現実はどうしても共働きをしないといけないと生活ができない家庭の多いと思う。子育てしながら働かざるをえない家庭はまわりの助け（近所・知り合い・制度等）が重要になる。男女平等も良いのですが、その前に、子供を産み育てることがどんなに大切で素晴らしいことかということを小さい時から教育したほうがよいのでは。

C. 子育て・教育について

性別	年代	自由意見
女性	40代	育児・介護となると、やはり女性に負担が多くかかっているのが今の現状だと思います。男性が育児・介護を行うには、まだまだ意識が低いように感じます。
女性	40代	子どもが3人、一番上が高校生、小さい時から料理やちょっとした裁縫を教えるべきだった。また、TVの配線や電気機器の取り付けなど、もっと興味をもつようにすればよかったと。男の人でも何でも自分でできて当たり前だと思います。これが、男女共同参画社会にあたるのか分かりませんが。

D. 就労について

性別	年代	自由意見
女性	60代	もっと女性の社会参加や社会での仕事の地位・家事も労働として認める大きな24時間の仕事であること、まだまだ今は、口では平等といっても肉体的に女性と男性はちがうのに男性と同じ様に仕事することを強制されて働けなくなっている事例も多いのではないかと、そのことを、男性も逆の意味で、責任感を重くもたされる面もある。男と女が同じくらいの仕事をしなければいけないことこそ女性が働けない差別の思想や、一般通念の圧力ではないかと考える。うわべだけ、男女平等均等法とうたわれ、中には男性と同じだけ仕事、それ以上働かないとやめざるを得ない環境にある。
女性	30代	私の職場に女性の上司はいません。生理痛などによるシフト変更のお願いもしくしく、女性でも男性と同じように重い物を持つことが多いです。男女の仕事は同じですが、女性への配慮の考えがありません。仕事でも女性と男性への考えがちがう意見することもあります。もう少し、今の時代にあった考えや女性の気持ちになって仕事をしてほしい
男性	40代	確かに男女においての差はあると考えますが、あまりに女性に対して過剰に反応するのもどうかと思う。実際職場においても、営業職の女性で若いお母さんは子どものお迎えとの事で6時以降の仕事は全く参加しない、なのに待遇は同じ事を主張してくる。男性に比べて女性の方が熱心で真面目で丁寧な仕事をされていて能力が高い人が多いように思うが、結果的には、男性と同じとはいえないと思う
女性	30代	仕事同様、労働時間も同じなのに、給料の差があると思います。そこをクリアすべき！

男性	20代	労使で決めた36協定の上限を超えた労働を強いられる（上限を超えた分はサービス残業となる）。残業代が営業手当等に含まれる扱い。このような過重労働が行なわれている社会で男女共同参画社会の実現は厳しいものがあると思う。企業への立入り調査を強化頂くよう労働基準監督署に申し入れてほしい。
----	-----	---

E. 仕事と生活の調和について

性別	年代	自由意見
女性	20代	男女平等の完全なる実現は不可能だと思います。やはり、仕事でも男性に向いている、女性に向いているがそれぞれあると思います。子どもの幼少期の世話は女性がすべきだと思いますが、子育てが一旦落ち着いた時点で女性が働けることを選択できる社会が望ましい。それに対する社会の理解はまだだと思います。子育てしながらも安心して働ける環境（フレックスの浸透、待機児童0など）が整って欲しいです。
女性	30代	ドイツのように子どもが（3歳?）になるまでは働いてはダメだが、その後の復帰は補償されているという状況をつくるべきだと思う。子育てに集中できる時間の確保は重要、なおかつ働きたい女性が職につきやすいようにすることも必要だと思います。
女性	40代	これからは共働きの時代になると思いますので、女性が結婚・出産しても働ける環境が大事だと思います。小さい子供は、病気になることが多いので保育園を休むことが多くなっても、会社を辞めなくても良いような社会全体になれば、と思います。
男性	60代	現在の社会において、女性の地位は向上し企業内においても役職者も増えている。しかし、女性が結婚し家庭を持った場合、男性よりもはるかに女性の立場は変わる。子育て・介護等、生活におわれるようになる。一家庭ととらえるのではなく、地域・社会としてバックアップしていくシステムが必要と思う。理想と現実はまだまだギャップはあるが、昔からみればかなり改善されてきているように思う。

F. 男女共同参画社会づくりについて

性別	年代	自由意見
女性	50代	もっと一般の方に理解、浸透できるように知る場を身近に作って欲しい。市役所内だけでの話のようで、何の為にあるのか知らないから知りたいと思う
男性	40代	DV 法は、女性が男性に対する一方的な暴力には耳を傾けず、男性の意見を取り入れられないシステムになっていて、不公平である。女性の地位向上は、男女平等で良いが「男のくせに」、「男はこうあるべき」という考えが女性にある以上、男女平等にならない。女性の立場を利用した逆差別感が多い。もっと、女性の“意識向上”をかけるべきと思う。
女性	60代	男女共同参画社会をメディアを使って広くアナウンスし、国民の意識改革を進める理解を深める。制度の充実。
女性	20代	男女共同参画社会なんて別に実現しなくて良い。女性が経済力を持つと離婚しやすくなると思う。
女性	40代	男女があらゆる場面で対等となるのは望ましいことかもしれませんが、出生率は下がるのではないかと懸念します。縮小する社会・経済・コンパクトな社会でよいと思いますが。固定観念にしばられない自分自身が納得できる生き方を望みます。
男性	40代	職種によっては男女平等が難しいものもあるが、幅広く女性が活躍できる社会になればいいと思う。
男性	40代	今は極端な女性優遇社会ですよ。
不明	70代以上	男女共同参画社会にする事で、男の正社員を少なくして給与を安くでき、女の給与をプラスする事で生活を守っている現状です。社会は株主様への配当を重要と考え、格差社会を作り上げています。毎日、テレビで、円安・株価等の放送されることが不思議なほどと子どもの頃思っていました。

G. その他

性別	年代	自由意見
男性	40代	友人にシングルマザーがいますが、生活が本当に大変なのでシングルマザー家庭の支援をお願いしたい。市役所の方もシングルマザーの家へ訪問して、市民サービスの連絡を直接してほしい。

参考資料

男女共同参画に関するアンケート調査

四條畷市民のみなさまへ

調査の趣旨とご協力のお願い

平素は、四條畷市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
この調査は、男女共同参画に関し、みなさまのお考えをおたずねするものです。
この調査結果は、今後の男女共同参画施策推進に際し、基礎資料として活用します。

- *この調査は市民のみなさまのなかから、4月1日時点で18～75歳の方を対象に、無作為に1,000人の方を選び、調査票をお送りしています。
- *無記名でお答えいただき、どなたの答えか、わからないようになっていますので、あなた自身にご迷惑をおかけすることは決してありません。
また、この調査は上記以外に使用することはありません。

記入上の注意

- あて名の方ご自身がお答えください。（ご本人による記入が困難な場合は、ご家族などがご本人から聞き取って代筆をお願いします。）
- 質問によって回答される方が限られる場合がありますので、ことわり書きをお読みいただき、ご記入ください。
- 記入される内容は、記入日現在の状況でお答え願います。
- この調査に関するお問い合わせは人権政策課までお願いします。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

6月15日（水）までに 投函してください。

（封筒にお名前を書いていただく必要はありません。）

四條畷市 市民生活部 人権政策課
〒575-8501 四條畷市中野本町1番1号
TEL 072(877)2121 (内線346)
0743(71)0330 (内線346)
FAX 072(879)5955

E. あなたには同居しているお子さんがいますか。(○は1つだけ)

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人以上	5. 子どもはいない
-------	-------	-------	---------	------------

1~4に回答された方→F△

5に回答された方→G△

F. 一番下のお子さんの年齢はどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

1. 0歳~就学前	2. 小学生~中学生	5. それ以上
-----------	------------	---------

G. あなたのお住まいの世帯構成は次のどれですか。(○は1つだけ)

1. 1人世帯	2. 夫婦のみ(パートナーを含む)
3. 二世帯世帯(親と子)	4. 三世帯世帯(親と子と孫)
5. その他の世帯(具体的に)	

H. 昨年のあなたの世帯の年間収入は、税込みでいくらでしたか。(○は1つだけ)

1. 200万円未満	2. 200万円~400万円未満
3. 400万円~600万円未満	4. 600万円以上
5. わからない	

続いて、質問に入ります。

問1. 次にあげる分野で、男女間でどの程度平等になっていると思いますか。

あなたのお考えに近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	男性が 優遇されて いる	どちらか といえば 男性が 優遇されて いる	平等で ある	どちらか といえば 女性が 優遇されて いる	女性が 優遇されて いる	わから ない
(1)家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2)職場の中で	1	2	3	4	5	6
(3)テレビ・新聞など の取り扱いで	1	2	3	4	5	6
(4)学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(5)政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6)法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
(7)社会通念・慣習 などで	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体として	1	2	3	4	5	6

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. そのとおりだと思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そうは思わない |

<問2で「1」または「2」と回答した方にお聞きします。>

問2-1. そう思う理由を教えてください。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------|
| 1. 日本の伝統・美德だと思うから |
| 2. 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから |
| 3. 子どもの成長にとって良いと思うから |
| 4. 個人的にそうありたいと思うから |
| 5. その他 () |
| 6. 理由を考えたことはない |

＜問2で「3」または「4」と回答した方にお聞きします。＞

問2-2. そう思わない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

1. 男女ともに家庭、社会で活躍するのが望ましいと思うから
2. 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失だと思うから
3. 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから
4. 少子高齢化により労働力が減少し、女性も仕事をする必要があると思うから
5. 一方的な考え方を押し付けるのは良くないと思うから
6. その他 ()
7. 理由を考えたことはない

＜全員の方にお聞きします。＞

問3. 次のことがらについて、男女の役割分担はどうあるべきだと思いますか。

あなたのお考えに近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	主に 男性の 役割	どちらかと いえば 男性の役割	両方同じ 程度の 役割	どちらかと いえば 女性の役割	主に 女性の 役割	いずれ にも該当 しない
(1)仕事(収入の確保)	1	2	3	4	5	6
(2)日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
(3)日常の家事 (食事・洗濯・掃除など)	1	2	3	4	5	6
(4)老親や病身者の介護 や看護	1	2	3	4	5	6
(5)子どもの教育としつけ 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6
(6)乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
(7)自治会、ボランティア など地域活動への参加	1	2	3	4	5	6

問4. 1日のうちであなたが仕事（在宅就労を含む）や家事（育児、介護等を含む）に要する平均時間は、通常の場合、平日、休日それぞれどのくらいですか。

（〇はそれぞれ1つずつ）

【仕事】（通勤時間を含む）

①平日（〇は1つ）	②休日（〇は1つ）
1. なし	1. なし
2. 4時間未満	2. 4時間未満
3. 4時間～6時間未満	3. 4時間～6時間未満
4. 6時間～8時間未満	4. 6時間～8時間未満
5. 8時間～10時間未満	5. 8時間～10時間未満
6. 10時間以上	6. 10時間以上

【家事】（育児、介護等を含む）

①平日（〇は1つ）	②休日（〇は1つ）
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間以上	7. 4時間以上

※中学生以下の子どもがいる世帯の方は、子育てに要する時間を記入願います。

①平日（〇は1つ）	②休日（〇は1つ）
1. ほとんどない	1. ほとんどない
2. 30分未満	2. 30分未満
3. 30分～1時間未満	3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満	4. 1時間～2時間未満
5. 2時間～3時間未満	5. 2時間～3時間未満
6. 3時間～4時間未満	6. 3時間～4時間未満
7. 4時間以上	7. 4時間以上

＜全員の方にお聞きします。＞

問5. 女性が仕事に就くことについて、あなたはどのようにお考えですか。

(○は1つだけ)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
2. 結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する方がよい
3. 子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい
4. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい
5. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい
6. 仕事には就かない方がよい
7. その他（具体的に _____)
8. わからない

＜現在仕事をしている方にお聞きします＞

問6. あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

	男性の方が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	平等で ある	わから ない
(1) 募集・採用	1	2	3	4
(2) 賃金	1	2	3	4
(3) 仕事の内容	1	2	3	4
(4) 昇進・昇格、管理職への登用	1	2	3	4
(5) 能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3	4
(6) 研修の機会や内容	1	2	3	4
(7) 働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4
(8) 育児・介護休暇など休暇の取得の しやすさ	1	2	3	4

＜全員の方にお聞きします。＞

問8. 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 育児・介護休暇制度の充実
2. 企業経営者や職場の理解
3. 労働時間の短縮、フレックスタイム制(※)などの柔軟な勤務制度の導入
4. 育児や介護のための施設やサービスの充実
5. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
6. 各制度の浸透、周知
7. その他()
8. わからない

(※) 労働時間を画一的に定めず、出勤および退勤の時刻を労働者自身で決めることができる制度のこと。

問9. 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実
2. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
3. 育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
4. 企業経営者や職場の理解
5. 労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
6. 育児や介護のための施設やサービスの充実
7. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
8. その他()
9. わからない

<現在仕事をしている方にお聞きします。>

問10. あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭」、「個人の生活」の3つのうち何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

(1) 希望として (○は1つだけ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭」を優先したい
3. 「個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭」をともに優先したい
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭」と「個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい
8. その他 ()
9. わからない

(2) 現実（現状）として (○は1つだけ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭」を優先している
3. 「個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭」をともに優先している
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭」と「個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭」と「個人の生活」の3つとも大切にしている
8. その他 ()
9. わからない

問1 1. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習などを改めること
2. 男性の家事、子育て、介護等への参加に対して評価を高めること
3. 夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4. 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
6. 男性が子育てや介護、地域活動を行うためのネットワーク作りをすすめること
7. 家庭や地域活動と仕事の両立などについて、男性が相談しやすい窓口を設けること
8. その他 ()
9. 特に必要ない

問1 2. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。

(〇はそれぞれ1つずつ)

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
(1) 平手で打つ	1	2	3
(2) なぐる、ける	1	2	3
(3) 家具などの物にあたる、壊す	1	2	3
(4) なぐるふりをして、おどす	1	2	3
(5) 望まないのに性的な行為を強要する	1	2	3
(6) 無理やりポルノ画像などを見せる	1	2	3
(7) 何を言っても無視し続ける	1	2	3
(8) 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする	1	2	3

問15. 次にあげる項目のうちで、あなたがご存じのものはありますか。

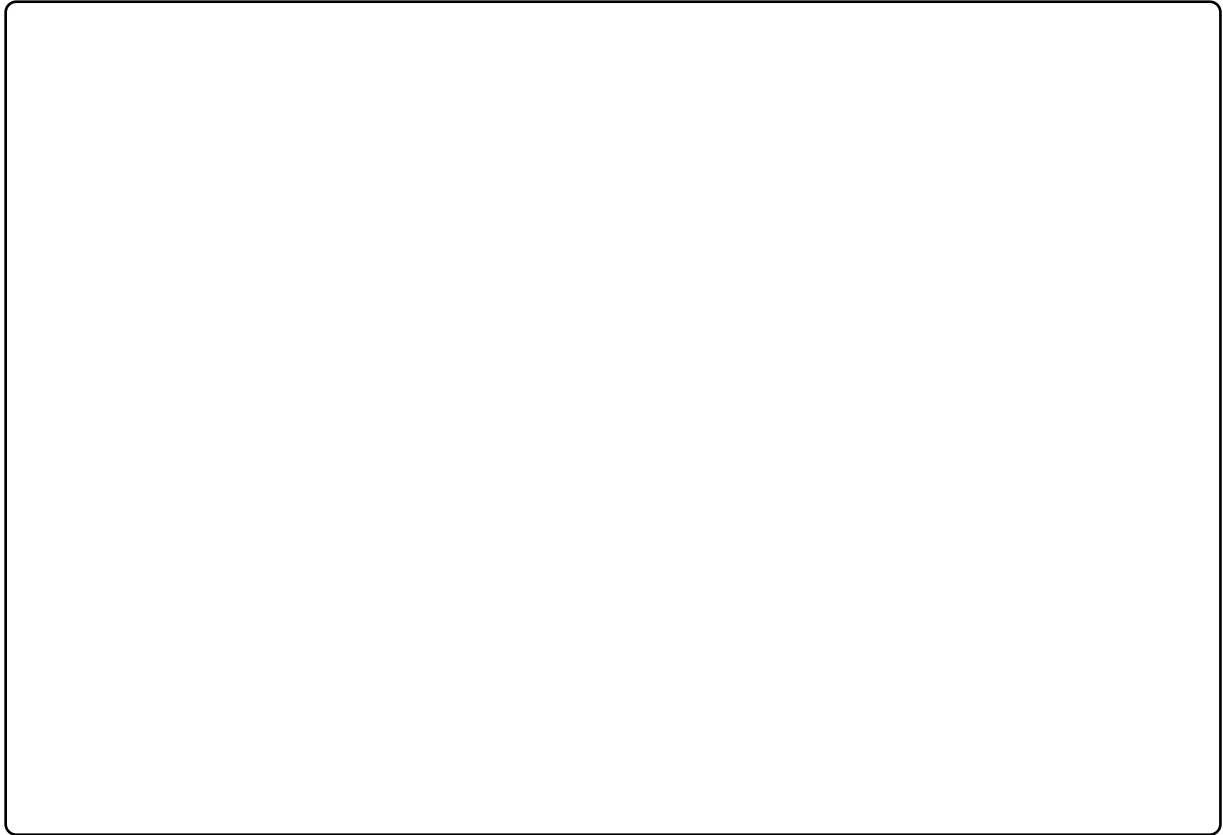
あてはまるものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	内容を 知っている	聞いたこと はあるが 内容は 知らない	聞いたこと がなく 内容を 知らない
(1) 男女共同参画社会	1	2	3
(2) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(3) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
(4) ジェンダー(社会的性別)	1	2	3
(5) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(6) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
(7) 四條畷市男女共同参画推進条例	1	2	3
(8) 四條畷市男女共同参画推進計画(あじさいプラン)	1	2	3
(9) ダイバーシティ(多様な人材の活用)	1	2	3
(10) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に 関する法律(DV法)	1	2	3

問16. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われるものは何ですか。(○は3つまで)

1. 法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習などを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること
4. 女性の意識改革
5. 男性の意識改革
6. 小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること
7. 育児・介護を支援する施設やサービスの充実を図ること
8. 職場において性別による待遇(配置や昇進など)の差をなくすこと
9. 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を推進すること
10. その他()
11. わからない

○男女共同参画社会の実現にあたって、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。



ご協力ありがとうございました。

返信用封筒に入れ、6月15日(水)までに投函してください。